

令和3年度
DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業
(文部科学省)

産学官金連携による
「ふくい型アプレンティス」プログラム
(DX人材養成)

成果報告書

令和5年2月

はじめに

2年連続で実施したリカレント教育推進事業の取組を振り返り、 今後を展望する

1. 事業の概要について

本学では、昨年度の文部科学省の事業「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」の採択に引き続き、本年度も文部科学省の採択を受け、「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」に関するプログラムを実施しました。



当事業・プログラムは、新型コロナウイルス感染症の影響により雇用構造の転換が進展する中、地域産業界からは「サイバーセキュリティ」、「システム開発」、「DX」の能力を有する人材の確保が強く求められていることを受け、これらの能力を学歴やスキルに関係なく、意欲さえあれば集中的に身に付けることができるプログラムを構築しました。さらに本プログラムは、地域産学官金の連携協力の下、昨年度に実施した「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（企業IT人材養成）」の内容をブラッシュアップして、UIターン希望者を含む失業者、非正規雇用労働者、転職希望者等の地域への定着を促進し、地域共創に寄与することを目的として実施したものです。

プログラムの募集人員は30名、実施時期は10～11月の2か月、授業はコア科目、スキル養成科目、アプレンティス科目（サイバーセキュリティクラス、システム開発・設計クラスまたはDX-現代社会のデジタル化クラス）の他、就業体験24時間以上（地域企業へのインターンシップまたは企業視察・実証型の事業化可能性調査）から構成され合計136時間以上となります。

2. 事業を振り返って

このプログラムを実施するにあたり、地域の産・学・官・金で構成する事業実施委員会を組織しました。そして本委員会を中心として、昨年度実施したプログラムの成果や課題を踏まえた上で、各々の機関が役割を果たしつつ、事業実施委員会で各取組状況に関する情報共有を密に行い運営の調整や改善を行うなど、事業の効率的かつ円滑な運営に努めました。その上で、達成を目指す数値目標として(1)受講者数30名、部分受講者数300名、(2)就職率75%、就職・在職率87%、新規就職・転職者数15名、(3)受講者満足度90%、就業先企業満足度90%等を掲げました。

(1)各機関が連携協力して、テレビCM、専用ホームページ・SNS等を活用した広報や対面・オンラインによる個別説明・相談会の実施などにより、応募者が昨年度の57

名を上回る 60 名あったことから、受講者数は 34 名となり目標値を達成することができました。なお、部分受講者数については、教育の質を担保するため正規受講者との合同の対面授業での受入としたことにより、授業を円滑に行うために受入人数を一定程度制限せざるを得ないこともありましたが、企業の現役社員をターゲットとしてチラシ等により広報を展開した結果、応募者は 155 名あり最終的に受講者 123 名を受け入れました。(3)受講者満足度については、ワード、エクセル等補講用のオンデマンドコンテンツの作成とこのコンテンツをいつでも視聴できる環境の構築、修学に関する学生メンター（大学院生）の配置等の手厚い支援を行ったことにより、目標値には達しなかったものの 85%と高い数値を獲得しました。就業先企業満足度については、IT スキル、ビジネスマナー、プレゼンテーション力などの総合的な人間力を備えた DX 人材の養成に向けて受講者 33 名（1 名は就職先が決定し受講を途中で辞退）を教育し修了させたこと等により全社 100%（2 月 3 日現在）の満足を得ることができました。(2)就職率、就職・在職率、新規就職・転職者数については、受講者選考面接時にインターンシップ受入承諾企業担当者の同席を依頼し雇用する側の視点を取り入れた選考の実施、少人数クラス分けのメンター制を取り入れた「キャリア概論」におけるキャリアコンサルティングの実施、ハローワークによる就職斡旋強化期間の設置を含めた丁寧な就職支援の実施などにより現時点（2 月 3 日）で就職率 24%、就職・在職率 70%、新規就職・転職者数 6 名となっており、プログラム修了後 3 か月以内の目標値の達成に向けて今後も手厚い就職支援を継続していく予定です。以上のことから、本事業の趣旨に沿った一定の成果が得られたものと考えています。

なお、本来、事業の真の効果を測るためには、就職率よりもむしろプログラム修了者の追跡調査を行うことが重要であることから、今回、昨年度のプログラム修了者に対し調査を行い、プログラムを最後まで受講したことや IT スキル・人間力を身に付けたことが現在の職場で活かされている等の高い評価を受けたところです。

3. リカレント事業の今後を考える

本学では、令和 4 年 4 月に、産学官連携本部、地域創生推進本部及び令和 3 年 5 月に設置したリカレント教育推進本部等をもって構成する「社会共創機構（機構長：学長）」を設置して、学び直しの機会提供を学長をトップとした全学体制で推進する仕組みを構築し、今回実施したプログラムを含め、地域自治体、各種関係機関・団体と連携してリカレント教育を推進しています。その一環として、福井県、県内高等教育機関、経済団体、自治体等による「未来協働プラットフォームふくい」の学生教育・社会人教育を担当する実行部門会議において、今後就業者向けの「リスキリング」を推進していくことが合意されたことを受け、本学では同実行部門会議で産業界から要望のあった「カーボンニュートラル」をテーマとしたリスキリングプログラムを新たにこの 2～3 月に実施する予定です。

今後は、本学が保有する人的・物的資源を有効に活用するため、昨年度及び今回実施した文部科学省委託事業で得られた知見を活用しつつ、今年度本学を含め県内各高等教育機関が取り組んだ上記リスクリング及び本学が独自に取り組んだ他のリカレントやリスクリングの成果を検証し、上記実行部門会議における産業界の要望も踏まえて、取り組むべき分野・内容や対象者を絞り込んでいきたいと思えます。

また、リカレントやリスクリングを実施するための財源の確保とともに、教員・職員が関与する場合の財源確保等の課題を含めたインセンティブ措置のあり方についても、具体的検討を行っていかねばならないと考えています。

最後に、最後まで粘り強く授業を受講しプログラムを修了された受講者の皆さん、また、事業に多大なるご協力・ご支援を賜った各機関や企業の関係者の皆様には改めて感謝申し上げます。

福井大学理事／副学長
事業責任者 末 信一郎

CONTENTS

はじめに	1
1. 事業の概要	5
2. 事業の実施体制	7
3. プログラムの内容	11
4. 受講者の募集	49
5. プログラムの運営	72
6. 受講者の就職支援	95
7. プログラムの目標達成状況	102
8. 事業の成果・課題	105
9. 事業終了後の継続等の今後の展望	137

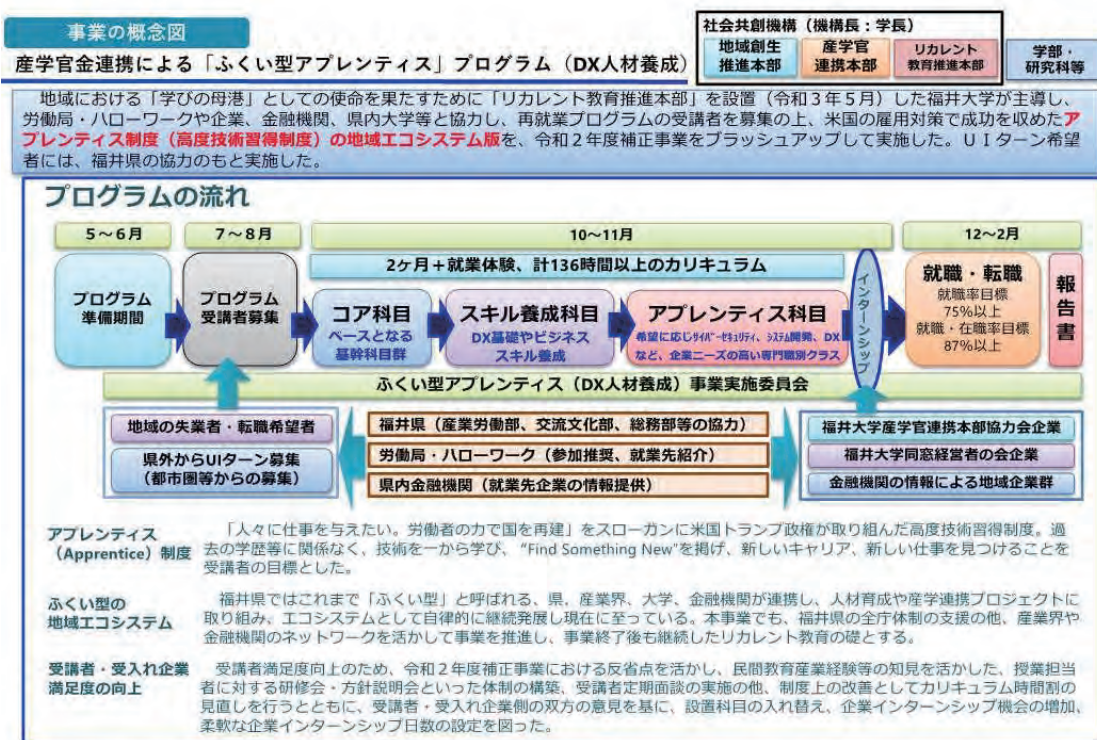
1. 事業の概要

本学では、地域産業界や福井県とともに、これまで大学を中心とした「ふくい型」と呼ばれる極めて緊密な産学官金連携体制を構築してきた。令和2年度補正事業により令和3年度に実施したものに続き、オール福井による2回目の試みとなる本事業では、米国にて失業者対策として成功を収めたアプレントイス制度（高度技術習得制度）に倣い、UIターン希望者を含む失業者、非正規雇用労働者、転職希望者等を対象として、多くの企業から強いニーズがあるサイバーセキュリティやシステム開発、DXの能力を、意欲さえあれば学歴やスキルに関係なく集中的に身に付けるプログラムを、地域産業界、福井県、福井労働局・ハローワークの協力のもと実施した。

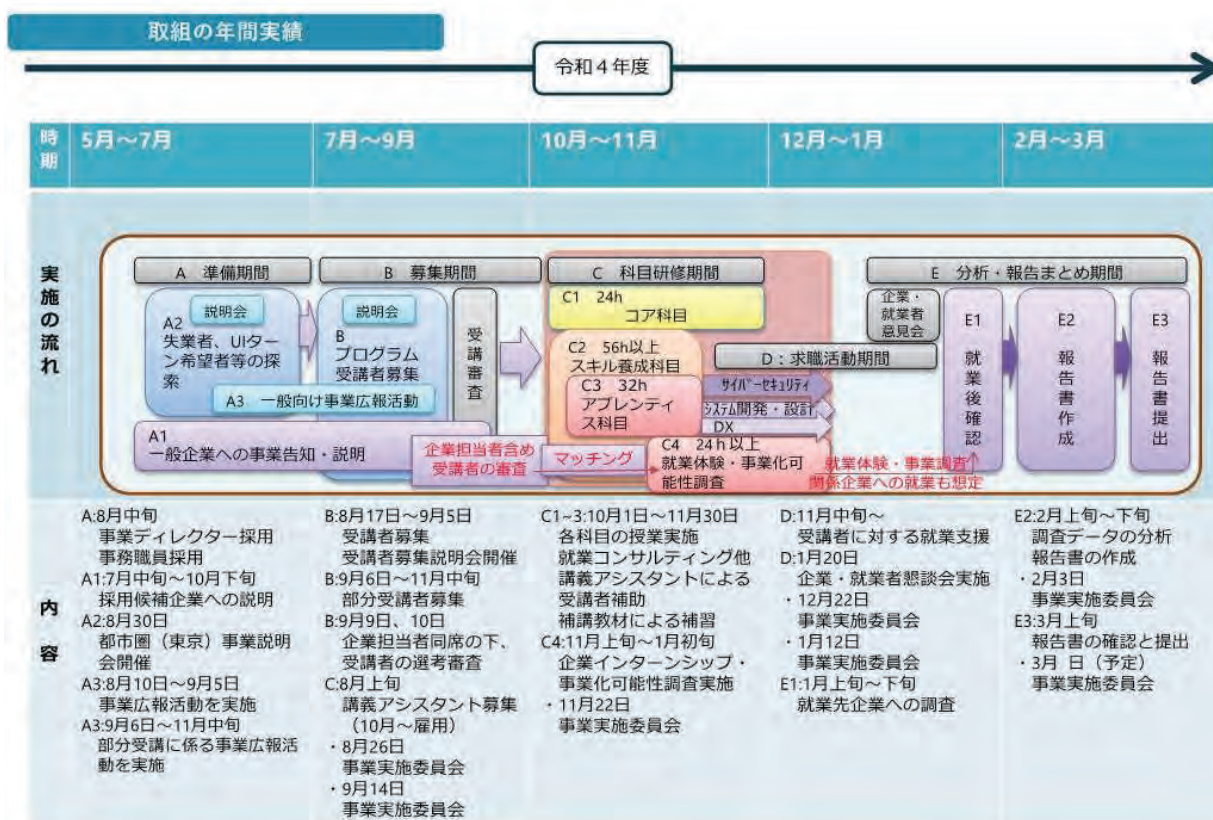
従来、定期的実施してきた産業界に対するニーズ調査に加え、令和4年3月に実施した最新のアンケート調査から、地域企業において必要とされる人材像を明らかにしたうえで、令和3年度に実施したプログラムの内容を発展させた事業を展開した。令和3年度のプログラムでは、募集人員のおよそ2倍の受講申込者があったことから、受講者側にも本学のプログラム内容に対する強いニーズがあることは明らかであり、同プログラムの内容を基に、より専門性を高められるようコンテンツの再調整を行った。

また、福井県による住居・交通費に関する各種補助と支援、企業による実務研修等の就業支援について合意を得て、産学官金連携体制で地域創生の中心となる地域産業等の活性化を目的に取り組んだ。

資料1-1：事業の概念図



資料 1 - 2 : 取組の年間実績



2. 事業の実施体制

(1) 事業実施体制及び事業実施委員会の位置付け

資料2-1：実施体制



▼事業実施体制と連携図（上記のとおり）及び事業実施委員会の位置付けについて

産学官金を中心とした各機関が図に示す役割を行うが、連携、情報共有し事業を協働する（個々の動きを調整し、統一性を持たせる）ためにふくい型アプレントイス（DX人材養成）事業実施委員会（以下「事業実施委員会」という。）を設けた。その位置付けは次のとおりである。

1. 事業の主幹機関は福井大学であるが、本事業では、各機関の連携の下で事業実施委員会を設置し、情報共有、協働した取組によって、従来の個々の活動に比してより高度で専門的な技術習得に有効で効率的な運営（産学官金連携による「ふくい型アプレントイス」プログラム（DX人材養成））を行う。
2. 事業実施委員会を月1回程度開催して情報共有を図ることにより、受講者に対して有効に事業が推進されているかについての検討が容易になり、受講者の達成度検証を多面的に評価することが可能となるなど、PDCAサイクルが円滑に機能する。
3. 事業実施委員会のメンバーは、より現場に近い各機関の役職者で構成し、事業の推進について柔軟かつ即応的に対応する。

プログラム実施体制イメージ		本学と地域が連携した地方創生人材の育成と定着を目指す取組実績と本事業への活用
福井大学は、県内の高等教育機関、自治体、産業界等と密接な連携の下、地域志向の人材の育成並びに連携活動を行い、各界から高い評価を受けた下記のような実績を有している。本事業においても、平成25年度のCOC事業から令和3年度に開設された未来協働プラットフォームふくいまでの連携活動から得た資産を活かし、情報共有とインターンシップの受入れや講師の派遣等の協力を得ることにより、着実な地域定着につながる教育プログラムの遂行と、自主に向けた役割分担などの具体的検討を実施した。		
COC事業 平成25～29年度	福井県の地域課題である重点5分野（①人材育成、②ものづくり・産業振興・技術経営、地域医療の向上、③持続可能な社会・環境づくり、④原子力関連分野の人材育成、防災体制の確立）について、教育、研究、社会貢献毎に達成目標を設けて、地域志向教育の強化、地域課題解決に係る共同研究等に取り組み、関係機関から好評を得た。	
COC+事業 平成27～令和元年度 文部科学省S評価	COC事業を通して培ってきた地域重視の教育研究の強み・特色を活かして、当時の県内すべての4年制大学が福井県と産業界と連携し、5つの目的（①高大接続による入学者の確保、②地域志向学生の育成、③イノベーション創出人材・グローバル人材の育成、④産業振興、⑤留学生の定着促進）に取り組み、また各大学・福井県の特徴と強みを活かし、6つの分野（①原子力技術分野、②ふくいブランド創出分野、③まちづくり分野、④バイオ・六次産業化分野、⑤国際・地域分野、⑥看護福祉分野）に係る人材育成及び産業振興につながる研究・開発に取り組んだ。サテライトキャンパス等での、地域志向・実践力育成のための5大学による開放講義、ふくい地域創生士認定などの取り組みで高い評価を受けた。	
FAA ふくいアカデミックアライアンス 令和元年9月～	COC+事業の終了を受け、産業界・自治体・教育界との連携を深めながら、福井県の将来を担う人材の育成・輩出、並びに人口減少対策や地域・産業の活性化、医療、福祉、教育などの発展に寄与すること目的とし、①入学確保部会（福井工業大学・仁愛大学）、②学生の地元定着の促進部会（福井県立大学）、③協働教育部会（福井大学）、④教養共同化部会（福井大学）の4部会を設け、上記の目標に資する活動を行うとともに、COC+での取り組みである、地域志向・実践力育成科目の共同開講・単位認定、ふくい地域創生士の認定などを継続している。	
未来協働プラットフォームふくい 令和3年11月～	COC+事業を発展的に継続することを念頭に設立され活動しているFAAふくいアカデミックアライアンスと並行する形で、福井県知事の強力な主導のもと、FAAふくいアカデミックアライアンスと県内の産業界・金融界・医療界・自治体等が連携・協力しオール福井で地域課題の解決、地域の活性化を図るための体制として設立された。参加機関は、県内すべての高等教育機関、福井県並びにすべての自治体、商工会議所連合会や経営者協会等、医師会、看護協会、地方銀行であり、現時点で以下の6つの実行部門会議を設定し、活動が開始されている。 部門1（学生教育、 地域社会／地域経済に関する調査研究 、責任大学：福井大学） 部門2（試験研究、 地域社会／地域経済に関する調査研究 、責任大学：福井大学） 部門3（ 企業や地域の課題解決 、責任大学：仁愛大学） 部門4（ 県内企業等への就職 、責任大学：福井県立大学） 部門5（県内大学への進学、学部学科の再編・定員増、責任大学：福井工業大学） 部門6（地域医療及び看護分野の課題解決、責任大学：福井医療大学）	

産学官金を中心とした各機関が事項に示す役割を担うが、連携・情報共有し事業を協働する（個々の動きを調整し、統一性を持たせる）ために「ふくい型アプレンティス（DX人材養成）事業実施委員会」（以下「事業実施委員会」という。）を設けた。

その位置付けは次のとおりである。

①目的・役割

- 事業の主幹機関は福井大学であるが、本事業では各機関の連携の下で事業実施委員会を設置し、情報共有、協働した取組により、従来の個々の活動に比してより高度で専門的な技術習得に有効で効率的な運営（産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（DX人材養成））を行う。
- 事業実施委員会を月1回程度開催して情報共有を図ることにより、受講者に対して有効に事業が推進されているかについての検討が容易になったことにより、受講者の達成度検証を多面的に評価することが可能となり、PDCAサイクルが円滑に機能する。
- 事業実施委員会のメンバーは、より現場に近い各機関の役職者で構成され、事業の推進について柔軟かつ即応的に対応できる。

②検討・実施内容

令和3年度に実施したプログラムの成果や課題を踏まえ、次の事項について検討し、かつ、実施状況について随時情報共有し必要に応じ改善策を検討・実施した。

（イ）プログラムの開発・実施

県内企業等のDX人材に対するニーズや希望するプログラム内容に関する調査を新たに実施しその結果も参考にして、受講者・雇用者の双方にとって魅力あるプログラムの開発に向けて、本学が保有する資源・ノウハウを活かしつつ、実務家教員や企業・福井県から派遣された講師による授業の開講、及び就業体験の実施方法について検討し実施した。

（ロ）受講者確保の方策

労働局・ハローワーク、福井県、産業界、金融界及び本学広報担当部署と連携した効果的な方法を検討し実施した。

（ハ）プログラムの運営

受講者・運営者双方にとって負担が小さく、かつ、受講者が安心して受講し修了できるように、運営のあり方を検討し実施した。

（ニ）就職の支援

受講者・雇用者の双方のニーズの捉え方・マッチングのあり方、及び労働局・ハローワークや金融界との連携のあり方について検討し実施した。

（ホ）成果の検証

本学はもとより他の関係機関の今後の事業展開に資するため、プログラム内容、受講人数・修了率、就職率など事業の成果を検証して成果物として取りまとめ、社会に広く提供した。

③構成員

- 福井大学理事（研究、産学・社会連携担当）／副学長【事業責任者】
- 福井大学学長補佐（リカレント教育推進本部附属リカレント研修センター長）【事業副責任者】
- 福井大学地域創生推進本部教授（附属創生人材センター長）【プログラム開発・事業実施責任者】
- 厚生労働省福井労働局職業安定部長
- 福井県産業労働部副部長
- 福井県経営者協会専務理事
- 福井県銀行協会事務局長
- 福井大学同窓経営者の会理事長
- 福井大学産学官連携本部協働会事務局長（福井経済同友会専務理事）

（２）各機関が果たした役割及びプログラムの開発・実施に当たって協力を得た事項

福井大学が主幹機関となり、②～⑥の各機関から多方面にわたる協力を得て、雇用者側の求める能力、活躍してほしい分野に応じた内容で、求職者にとってより就業に繋がることが期待できる教育プログラムを構築し実施した。

①福井大学【学】

主幹機関として、大学の有する資源を有効活用するとともに各機関の協力を得て本事業推進全体の責任母体となり、受講者及び地域企業のニーズに有効かつ効率的に対応するため、事業実施委員会をリードした。

②福井労働局・県内ハローワーク【官】

福井県内の求職・求人情報を把握しており、また、国・都道府県及び認定民間教育訓練機関が行っている求職者を対象とした公的職業訓練と本プログラムとの制度上の相違点も把握していることから、そのノウハウを活かし、かつ、本プログラムの内容や身に付くスキル・知識に関する理解の下、受講者の就職支援のほか、プログラムの開発、受講者の募集、キャリアコンサルティング及びこれらの成果検証等に関し幅広く協力を得た。併せて、本プログラムの部分受講を含めた横展開に向けて、求職者や求人企業に対する案内・周知について協力を得た。

③福井県（産業労働部、交流文化部、地域戦略部、総務部）【官】

福井県内の産業構造や雇用状況等に精通しており、UIターン希望者の獲得にも力を注いでいる。UIターン希望者に向けて県外事務所等を通じた周知・広報及び受講者に対する住居・交通費支援とともに、コア科目「地域産業論」

において県内企業に就職するために必要な県内産業構造等に関する講義担当の協力を得た。また、令和3年11月に設立された県内の産・学・官・金・医の全34の機関・団体が連携した「未来協働プラットフォームふくい」の先導役として、産業界等のニーズを踏まえた県内高等教育機関によるリカレント教育の推進にも取り組んでおり、当プラットフォームに置かれた学生教育・社会人教育の実行部門会議の場を活用し、県内高等教育機関、産業界等への本プログラムの横展開に係る協力を得た。

④福井県経営者協会【産】

県内主要企業約210社を会員とする福井県内の主要な経済団体の一つである。特に雇用・労働問題やインターンシップ等を主なテーマとして活動しており、福井労働局との関係も深く、また、「未来協働プラットフォームふくい」に産業界から参加しており、本事業への関心が高い。企業ニーズの提言、受講者募集、就業支援のほか、会員企業への本プログラムの部分受講も含めた横展開に係る協力を得た。

⑤福井県銀行協会【金】

地元の金融機関で組織されている団体で、地元経済の動向、個別企業の情報に密接に関わっている。「未来協働プラットフォームふくい」における金融界からの参加団体であり、本事業への関心は高い。地域ニーズに基づく提言、雇用ニーズのある企業の情報提供等の協力を得た。

⑥福井大学産学官連携本部協力会、福井大学同窓経営者の会【産】

両組織は、福井大学を支援する企業で構成されており、リカレント教育、技術者の中途採用という視点で本事業に注目している。人材ニーズやプログラム内容に関するアンケート調査、企業インターンシップ受入、就業の支援、プログラムの成果検証、会員企業への本プログラムの部分受講も含めた横展開について協力を得た。

3. プログラムの内容

(1) プログラム設計前の地域ニーズの把握

本年度事業「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（DX人材養成）」は昨年度事業「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（企業IT人材養成）」の結果を踏まえ、さらに地域ニーズを調査、ブラッシュアップし実施に至ったものである。

①本事業の前事業である昨年度「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（企業IT人材養成）」の設計にあたって

福井大学では令和元年のリカレント教育実施に至るニーズ調査（地域企業において必要な人材の調査）など、地域ニーズの把握に努めてきた。ニーズ調査は、福井大学同窓経営者の会会員企業、福井大学産学官連携本部協力会会員企業に対し行った。その後となる昨年度事業の公募が行われた際、主な受講者を企業社会人から失業者・転職希望者へ変更した場合における企業ニーズ調査（地域企業が新たに採用したい人材の調査）を行い、昨年度事業の提案に至った。

(令和元年)	
11月	定例会でリカレント教育に係るアンケート調査実施の承認 アンケート依頼（同窓経営者の会、産学官連携本部協力会計346社）
12月	アンケート調査の取りまとめ（資料3-1参照）
(令和2年)	
2月	アンケート結果も踏まえ、同窓経営者の会と大学役員がリカレント教育の進め方を協議
6月	リカレント教育の推進について、総会です承
10月	定例会において、全国的にも著名な講師を招き、DXとは何か、何故、今、求められるのかについて講演会開催、講演終了後にアンケート調査実施（資料3-2参照）
11月	同窓経営者の会と大学関係者、企業も交えて、DX関連リカレント教育の進め方について協議
(令和3年)	
3月	リカレント教育事業の推進に先立ち、デジタル化やDX関連のワークショップを開催し、各企業において解消したいと考える具体の業務課題を収集
4月	大手電機メーカーとIT教育推進・地域ニーズに関する打合せ 地域IT教育企業とIT教育推進・地域ニーズに関する打合せ
7月	福井労働局・ハローワークと連携・地域ニーズに関する打合せ（資料3-3参照）
8月	福井県情報システム工業会と地域ニーズに関する打合せ

資料 3-1 : 福井大学の将来像設計にあたっての企業経営者へのアンケート調査 (令和元年 12 月 16 日、関係箇所のみ一部抜粋)

本アンケート調査は、今後10年間の社会変化を見越して、本学の役割や機能、そのための組織・規模を検討するにあたり、県内外の関連企業346社の経営者に対し、人材育成や研究等に係るニーズ把握のために、令和元年11月に実施したもので、101社から回答があった。

1. リカレント教育(社会人の学び直し)についてお尋ねします。

- ① 福井大学では、社会人の方を対象としたリカレント教育(社会人の学び直し)に、今後、力を入れていく予定です。御社におかれまして、福井大学を活用して社員や職員の教育を行おうと考えられた場合、どのような分野、内容を希望されますか？(複数選択可)

(結果概要)リカレント教育の希望分野について、「AIやIoT、ICT関連」分野が最も多く、約7割の企業がこの分野の教育を希望している。また、「経営学等のマネジメント関連」についても、約半数の企業が希望しており、マネジメント人材の教育についても関心が高い。次いで、多様性が必要とされる今後に向けて、「様々な分野の基礎関連」が多く、また、海外展開企業が多い福井県の地域性を反映して、「語学・コミュニケーション関連」や「海外情勢や海外事業関連」の分野に関心が高い。

		(回答数)	
AIやIoT、ICT関連	72	71.3%	
経営学等のマネジメント関連	50	49.5%	
知的財産関連	23	22.8%	
MBA・社会保険労務士といった資格取得関連	13	12.9%	
語学・コミュニケーション関連	30	29.7%	
海外情勢や海外事業関連	20	19.8%	
様々な分野の基礎関連	35	34.7%	
医療・福祉系の基礎関連	5	5.0%	
その他	2	2.0%	

- ・まず福大の強みとしてのリカレント教育がどこにあるのかを教えてくださいと感じます。
- ・工学部機械科で学習するような基礎知識
- ・専門分野(有機化学)

- ② リカレント教育に社員や職員の方を派遣しようとする動機についてご記入ください(複数選択可)。また、その分野についてもご記入ください。

(結果概要)リカレント教育を受けさせたいと考える動機について、「現状の担当分野の基礎知識の向上」の回答数が最も多く、回答企業数の半数以上となっている。また、分野についても、①での回答と同様に、「AI、IoT、ICT関連」分野が多い。次に多かった動機は、「専門知識の向上」であり、その分野も「AI、IoT、ICT関連」であり、多くの企業がSociety 5.0とIndusutroy 4.0への対応を課題と捉えている。

		(回答数)	
現状の担当分野の基礎知識の向上	58	57.4%	
分野	<ul style="list-style-type: none"> ・AI、IoT、ICT関連(7) ・ビッグデータ ・ソフトウェア(2) ・経営、経営層(2) ・管理職のマネジメント教育 ・EC事業、管理業務 ・従業員の問題意識、目的意識にもとづく分野 ・開発職における知的財産権に関わるもの ・知的財産(2) ・製造・営業 ・語学(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・工学系基礎知識 ・電気工学 ・機械工学 ・機械製造 ・建築・土木に関する知識や資格勉強 ・建築学 ・繊維(ニット)工業 ・医療系基礎知識 ・医療、福祉 ・金融全般 ・体系的に知識を習得出来ていない 	
現状の担当の分野外の基礎知識の向上	37	36.6%	
分野	<ul style="list-style-type: none"> ・AI、IoT、ICT関連(6) ・経営学等のマネジメント ・経営学(2) ・経営として戦略を考える基本知識不足 ・MBA・社会保険労務士といった資格取得関連 ・MBA・経営学 ・知的財産 ・製造・営業 	<ul style="list-style-type: none"> ・語学 ・語学力が弱い人がほとんど ・語学・コミュニケーション関連 ・グローバル人材の育成 ・海外事業強化 ・海外情勢や海外事業関連(2) ・オフショアに向けてグローバルな知識向上 ・従業員の問題意識、目的意識にもとづく分野 ・様々な分野の基礎知識 ・具体的にないが視野を広げるため ・温暖化防止の基礎知識 	

専門知識の向上	46	45.5%
分野	<ul style="list-style-type: none"> ・AIやIoT、ICT関連(9) ・自動化、省力化 ・日々進化するデジタル技術 ・経営学(2) ・マネジメント関連(3) ・経営及びマネジメント力向上(2) ・管理者・後継者育成 ・従業員の問題意識、目的意識にもとづく分野 ・知的財産関連(3) ・法務、労務 ・社会保険労務士等の資格取得(2) ・社会保険労務士 ・語学・コミュニケーション関連(2) ・海外情勢や海外事業関連 	<ul style="list-style-type: none"> ・繊維(ニット)工業 ・材料(新規) ・有機化学 ・半導体製造(組立)の効率化、材料ごとの特性と生産性の向上 ・物理学の部門 ・ファクトリーオートメーション制御システムの設計 ・機械設計 ・機械加工 ・機械設計、部品製作(SUS)、機械組立 ・電気・電子設計 ・ソフトウェア設計 ・CFRPIによる軽量化成形技術及び性能評価方法 ・生産工学、統計的手法を含む生産性向上関連 ・工学 ・マテハン ・社会資本(公共施設)整備分野 ・工務部局
定年後に備えた社員のスキル、能力等向上の支援	3	3.0%
分野		
その他	3	3.0%
分野	<ul style="list-style-type: none"> ・営業分野における様々な顧客とのコミュニケーション ・後継者育成 ・現状は派遣しようと考えていません。ただ、コミュニケーション能力が低い社員が多いと感じているため①は回答しています。 ・まず、現在、どのようなカリキュラムをお考えですか。 	

資料3-2：福井大学同窓経営者の会のリカレント教育(社員教育)についてのアンケート調査結果(令和2年10月29日、関係箇所のみ一部抜粋)

1-1 企業におけるDXに関する学び

Q1 上記のような学びに興味がありますか。

業種1	県内外	①参加したい	②興味がある	③興味が無い	④その他
1 建築・建設	1 県内企業			6	1
	2 県外企業		1	2	1
2 製造	1 県内企業			7	1
	2 県外企業		1		1
3 その他	1 県内企業			2	
総計			2	17	4

Q2 経営課題の解決等のために、どのようなテクノロジーに興味がありますか。(複数選択可)

業種1	県内外	①クラウドサービス	②IoT	③AI	④その他
1 建築・建設	1 県内企業		4	3	4
	2 県外企業		2	4	2
2 製造	1 県内企業			5	5
	2 県外企業		2	1	2
3 その他	1 県内企業		1	1	2
総計			9	14	15

1 - 2 企業における社員のデジタル化スキルの底上げに関する学び

Q 1 イ. その際の課題（複数選択可）

業種 1	県内外	①方法が分からない	②業務の見直しが分からない	③SEに頼りきり	④学ばせ方が分からない	⑤マンパワー・予算不足	⑥その他
1 建築・建設	1 県内企業	3	3	2	4	4	1
	2 県外企業	3	1	1	1	1	
2 製造	1 県内企業	2	3	4	3	3	
	2 県外企業	1		1	1	1	
3 その他	1 県内企業				1	1	
総計		9	7	8	10	10	1

Q 2 デジタル化を進めるに当たり、経営者や社員の方が必要な知識やスキルを学ぶことが出来るとしたら、どのような内容・方法を希望されますか。（複数選択可）

業種 1	県内外	①基礎から	②全体をモデル的に	③企業グループでケーススタディ型	④オーダーメイド	⑤セミナー・ワークショップ	⑥オンライン	⑦土日利用
1 建築・建設	1 県内企業	1	2	3	3	1		1
	2 県外企業	1	1	2	1	2	2	1
2 製造	1 県内企業	1	4		3		2	
	2 県外企業	1	1					1
3 その他	1 県内企業			1			1	
総計		4	8	6	7	3	5	3

Q 3 上記の学びはどのような方を対象にしたいと考えておられますか。（複数選択可）

業種 1	県内外	①経営者や幹部職員	②中堅職員	③若手職員	④その他
1 建築・建設	1 県内企業	6	3	3	
	2 県外企業	3	2		
2 製造	1 県内企業	2	5	3	
	2 県外企業	1	2		
3 その他	1 県内企業	1	1	1	
総計		13	13	7	

資料3-3：地域企業が求める職種と有効求人倍率について
(県内のある地域のハローワークのデータ(抜粋))

職種別有効求人・求職状況(令和3年6月)

フルタイム			職 種	パート		
有効 求人数	有効 求職者数	求人倍率		有効 求人数	有効 求職者数	求人倍率
1,106	686	1.61	職 業 計	1,505	592	2.54
3	5	0.60	A 管理的職業	0	0	-
213	66	3.23	B 専門的・技術的職業	41	36	1.14
10	3	3.33	07開発技術者	0	0	-
20	15	1.33	08製造技術者	0	4	-
66	6	11.00	09建築・土木技術者等	0	2	-
23	7	3.29	10情報処理・通信技術者	0	2	-
5	0	-	12医師・薬剤師等	3	0	-
36	9	4.00	13保健師・助産師等	15	7	2.14
11	2	5.50	14医療技術者	5	4	1.25
1	3	0.33	15その他の保健医療	2	2	1.00
28	5	5.60	16社会福祉の専門的職業	12	11	1.09
6	9	0.67	22芸術家、デザイナー等	1	1	1.00
4	6	0.67	05.06.17～21.23.24その他の専門的職業	3	3	1.00
91	124	0.73	C 事務的職業	56	87	0.64
58	108	0.54	25一般事務員	27	81	0.33
8	6	1.33	26会計事務員	1	2	0.50
14	5	2.80	27生産関連事務員	22	2	11.00
9	1	9.00	28営業・販売関連事務員	3	1	3.00
2	1	2.00	30運輸・郵便事務	2	0	-
0	3	-	31事務用機器操作の職業	1	1	1.00
134	26	5.15	D 販売の職業	695	14	49.64
82	11	7.45	32商品販売の職業	695	13	53.46
20	2	10.00	33販売類似の職業	0	0	-
32	13	2.46	34営業の職業	0	1	-
148	50	2.96	E サービスの職業	125	64	1.95
65	22	2.95	36介護サービスの職業	45	20	2.25
13	2	6.50	37保健医療サービス	4	0	-
14	0	-	38生活衛生サービス	12	0	-
20	16	1.25	39飲食調理の職業	24	27	0.89
33	9	3.67	40接客・給仕の職業	33	11	3.00
1	0	-	41居住施設・ビルの管理	1	2	0.50
2	1	2.00	42その他のサービス	6	4	1.50
17	7	2.43	F 保安の職業	0	6	-
14	7	2.00	G 農林漁業の職業	14	5	2.80
179	112	1.60	H 生産工程の職業	68	33	2.06
8	3	2.67	49生産設備(金属)	0	0	-
15	2	7.50	50生産設備(金属除く)	3	2	1.50
12	0	-	51生産設備(機械)	0	0	-
36	10	3.60	52金属材料製造等	4	2	2.00
43	25	1.72	54製品製造・加工処理	50	16	3.13
21	2	10.50	57機械組立の職業	0	1	-
12	9	1.33	60機械整備・修理の職業	0	0	-
2	1	2.00	61製品検査(金属)	2	0	-
7	4	1.75	62製品検査(金属除く)	8	2	4.00
3	4	0.75	63機械検査の職業	1	1	1.00
20	52	0.38	64生産関連・生産類似	0	9	-
115	23	5.00	I 輸送・機械運転の職業	14	11	1.27
77	17	4.53	66自動車運転の職業	10	7	1.43
0	0	-	67船舶・航空機運転	0	0	-
6	2	3.00	68その他の輸送の職業	1	0	-
32	4	8.00	69定置・建設機械運転	3	4	0.75
107	6	17.83	J 建設・採掘の職業	1	0	-
6	0	-	70建設躯体工事の職業	0	0	-
13	0	-	71建設の職業	1	0	-
18	2	9.00	72電気工事の職業	0	0	-
69	3	23.00	73土木の職業	0	0	-
85	59	1.44	K 運搬・清掃等の職業	491	143	3.43
51	32	1.59	75運搬の職業	104	11	9.45
9	4	2.25	76清掃の職業	73	25	2.92
2	1	2.00	77包装の職業	7	5	1.40
23	22	1.05	78その他の運搬等の職業	307	102	3.01
0	201	-	分類不能の職業	0	193	-

②本事業「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（DX人材養成）」の設計にあたって

本事業の設計においては、昨年度の内容をベースとしつつ、受講者側のニーズについては前事業の受講者の生の声、ならびにアンケート結果をもとに、また企業ニーズについては前事業同様に聞き取り調査とアンケート調査を実施した。

(令和3年)	
10月	「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（企業IT人材養成）」の授業期間開始
11月	受講者に中間アンケートを実施（資料3-4参照）
12月	受講者に最終アンケートを実施（資料3-5参照）
(令和4年)	
3月	地域企業に対しアンケートを実施（資料3-6参照）
4月以降	労働局、ハローワーク、福井県、地域企業等に、昨年度に続き本事業への協力依頼を行うとともに、ヒアリングを実施

資料 3-4 : 昨年度事業受講者に対する中間アンケート結果

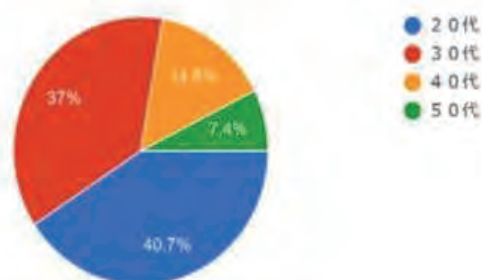
【要約版】

ふくい型アプレンティス地域共創リカレント教育推進事業「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（企業IT人材養成）」に係る受講者アンケート（中間）

27 件の回答

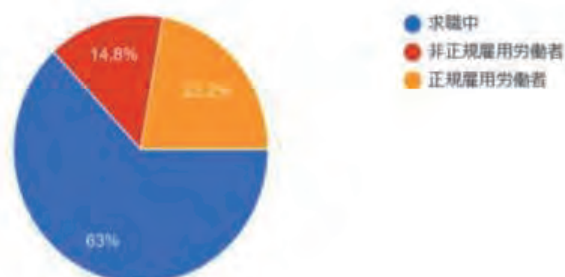
質問 1. あなたの年代は？

27 件の回答

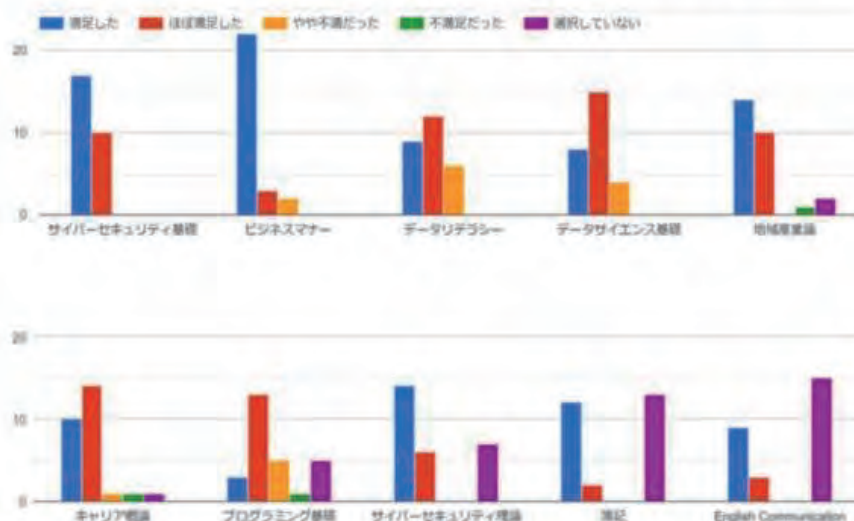


質問 2. あなたの現在の就労状況は？

27 件の回答



問3. 授業に対する満足度についてご回答ください。なお、受講していない科目については、「選択していない」を選んでください。



「やや不満だった」「不満だった」を選んだ科目がある場合、その科目名と理由をお書きください。

(要約版として主なものを抽出)

- ・難しい言葉と数式が多く、理解が難しかった。実際のデータを活用した実操作（演習）がもう少し多ければ理解が進んだのではないかと。また、内容が重複しているところがあった。（データリテラシー、データサイエンス基礎など）
- ・プログラミングの基本的な構文や書き方を、説明だけでなく実践を通して自力で書くことができる力を付けられるような時間をもう少し確保してほしい。（プログラミング基礎など）
- ・受講者自らがハード機材（こどもパソコン）を作成してハードの仕組みを理解するとともに、それを使ってお互いに通信し合い、サイバー攻撃・制御を実践した講義は勉強になり大変満足した。（サイバーセキュリティ基礎）
- ・大切な講義ではあるが、もう少し講義時間を減らしてもよいのではないかと。（ビジネスマナー）

質問4. その他プログラム全般（授業環境、運営方法等）について、自由に意見をお書きください。

（要約版として主なものを抽出）

- ・休憩時間が10分と短いため、授業終了後に講師に質問する時間があまりなく、また次の授業に向けて教室を移動しなければならず、窮屈だった。
- ・講義内容が盛りだくさんのため、講師の進行ペースが速くなりがちで、説明が早口で説明不足の場面もあり、1コマ60分の授業が8回、計8時間では、講義時間が足りない印象を受けた。
- ・仕事を持ちながら2か月間、毎週3日の講義は体力的にきつい。2週毎に3か月間開講するなど、もう少し余裕のあるプログラムにしてほしい。
- ・合格発表からプログラム開始までの時間が短く、引っ越しが間に合わなかった。
- ・授業を録画して後で聴講できる仕組みがあるとよかった。また、座学についてはオンデマンドでの対応を可としてほしい。
- ・パソコン演習や実験の際に、操作等の質問がある受講者が手をあげた時に、スタッフがすぐ駆けつけてきてもらえるように、常時教室に待機し気を配ってしてもらえるとうれしい。
- ・毎時間、会場に講義の時間と教室の貼り紙がしてあり、教室に迷うこともなく、わかりやすかった。
- ・理解が難しい講義もあったが、内容も濃く、今後さらにスキルを付けていく上でのきっかけや自身の糧となったことは間違いないと感じた。
- ・実際に画面で操作しながらの授業だったので理解しやすかった。
- ・内容が濃い授業ばかりで、受講して本当によかったと感じている。運営スタッフの皆さんの存在がとても励みになっている。

資料 3-5 : 昨年度事業受講者に対する最終アンケート結果

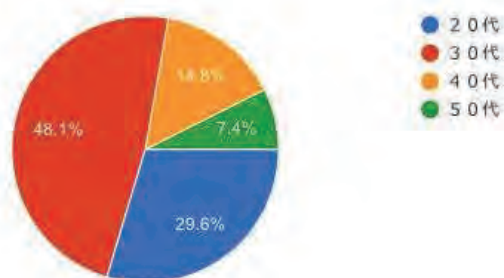
【要約版】

福井型アプレンティス地域共創リカレント教育推進事業
「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（企業IT人材養成）」に係る受講者アンケート

回答：27 件

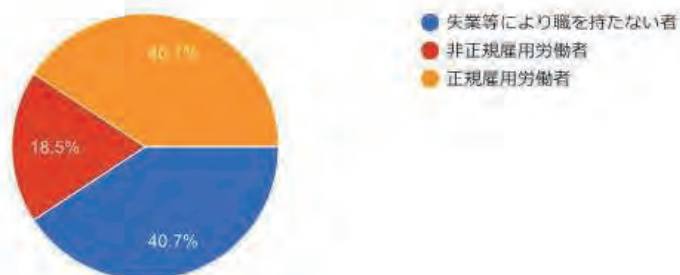
質問 1. あなたの年代は？

27 件の回答



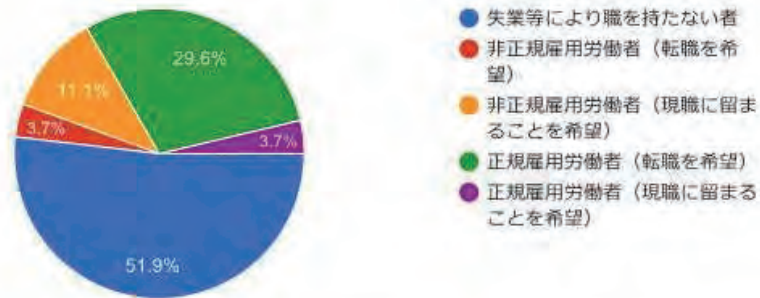
質問 2. あなたの受講申込み時の就労状況は？

27 件の回答

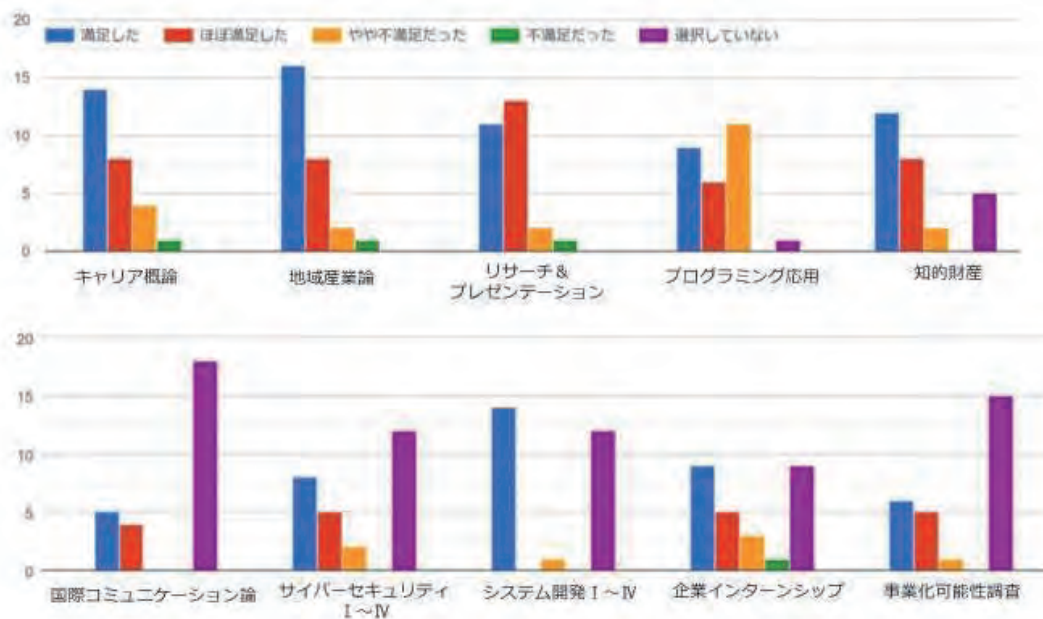


質問3. あなたの現在（プログラム終了時（11月末））の就労状況は？

27件の回答



問4. 授業（10月開講のものを除く）に対する満足度についてご回答ください。なお、受講していない科目については、「選択していない」を選んでください。



「満足した」を選択した科目名とその理由を記入してください。

地域産業論：福井の現状や今後について、実際に県の方の考えを聞くことが出来て勉強になりました。

リサーチ&プレゼンテーション：インタビューには色々な手法や大切にすべき観点があるということを知ることができました。先生の経験談を色々お聞きすることが出来たのも楽しかったです。

プログラミング応用：難しい内容でしたが、分かりやすく教えていただきありがたかったです。プログラミング言語によって使用用途が異なるということが分かりました。

知的財産：弁理士の先生から直接的財産権のことを聞く機会というのは普段なかなかないので、大変貴重な経験が出来たと思います。いただいた資料も今後大切に活用していきたいです。

システム開発：希望していたシステム開発を受講でき、先生方の説明が分かりやすく、ロボットを使用した内容でとても楽しく受講できました。また、ものを作り出すうえで必要な要素について段階を踏んで丁寧に構築していくことが大事であると学べ、それがプログラムだけではなくどんな内容にでも通ずることであると改めて理解できたことはとても勉強になりました。

国際コミュニケーション論：自分の価値観と人の価値観の違い、地域ごとの考えの違いに気が付けたため。

キャリア概論：個人的に適切なご助言をいただきました。また、嶺北地方の地域のものづくり技術やその発展について学ばせていただきました。なぜ、嶺北地方が、多くの技術を産み出して発展し、経済を回していけるのかという分析もできたような気がします。

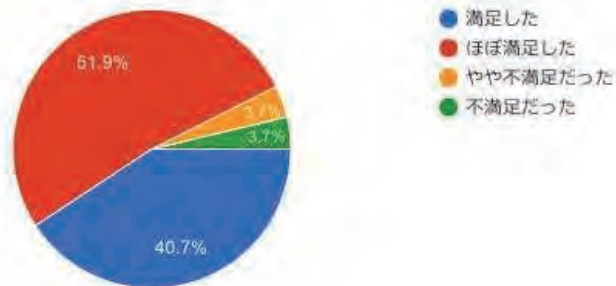
事業化可能性調査：グループで取り組んだことで、それぞれの知識を集めプレゼンできた。新事業の考え方、進め方を学べるとは思っていなかった。他の科目も同様に、仕事に直結するかしないかではなく、学んだことがない、知らなかったことを学ぶことができた。本や参考書では得られないことばかりで、とても興味深いものだった。

サイバーセキュリティ：授業内容、進め方が大変分かりやすく、2人体制であったので疑問点にもその場で対応可能であった。

インターンシップ：日頃は見ることがない現場や作業を体験出来た。

質問5. プログラム全体に対する満足度についてご回答ください。

27 件の回答



「満足した」を選んだ理由を教えてください。

学びにおいて大きな収穫がありました。「そういうことか！」と不得手の部分も多く克服できました。また、教えてくださる先生方の親心のようなものには本当に頭が下がりましたし、関係者皆様の学生に対する気付きやご配慮にも心から感謝しどおしてました。学んだことは、今後なんらかの形で地域社会にご恩返ししていきたいと思っています。ありがとうございました。

独学では学べないことを学ぶことが出来ました。

ITの幅広い基礎知識を身に着ける中で自分の進みたい道を見つける事が出来たと共に、仲間が出来た事も自分にとっては凄くありがたい事でした。携わったすべての方に感謝しかありません。ありがとうございました。

基礎的な知識を学ぶことができました。ここから自主学习できそうです。

質問6. その他プログラムに関し、自由に意見をお書きください。

働いている人、遠方の方がもっと学びやすいように、オンライン、アーカイブなどがあったほうが良い。

おおよそ行き届いた吟味されたプログラムであったと思います。初めての試みでこれだけのプロジェクトをご用意できる福井大学はやはりすごいです。

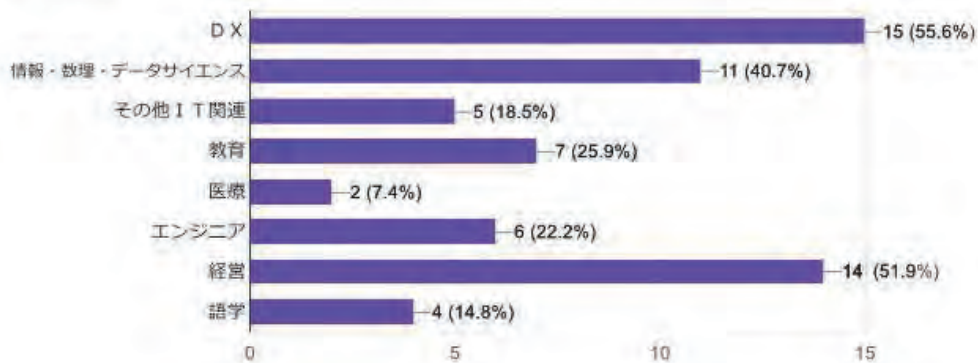
講義内容が重複していたり、基礎から応用への流れに繋がりがなかったり、時間割を把握してないなど講師間での連携がとれてなかった印象がありました。講義そのものは素晴らしかったので、その点は少し残念でした。

2ヶ月間は短すぎました。事前課題を充実させたりすればより効率的に学べないでしょうか。

先生方やスタッフの皆様が本当に温かく、楽しく大学に通うことが出来ました。本当にありがとうございました。

質問7. 今後、福井大学に実施を期待するリカレント教育プログラムの専攻分野は何ですか。該当する内容を選択してください（複数回答可）。

27件の回答



「その他 I T 関連」を選んだ場合はその分野を記入してください。

4件の回答

デジタルマーケティング

情報セキュリティ、プログラミング、ネットワーク構築

今回のプログラムはシラバスが被ることがあり理解を深められたが、その分実践的な授業を受けてみたかった。

システムエンジニア、プログラマー

「エンジニア」を選んだ場合はその分野を記入してください。

4件の回答

システム構築

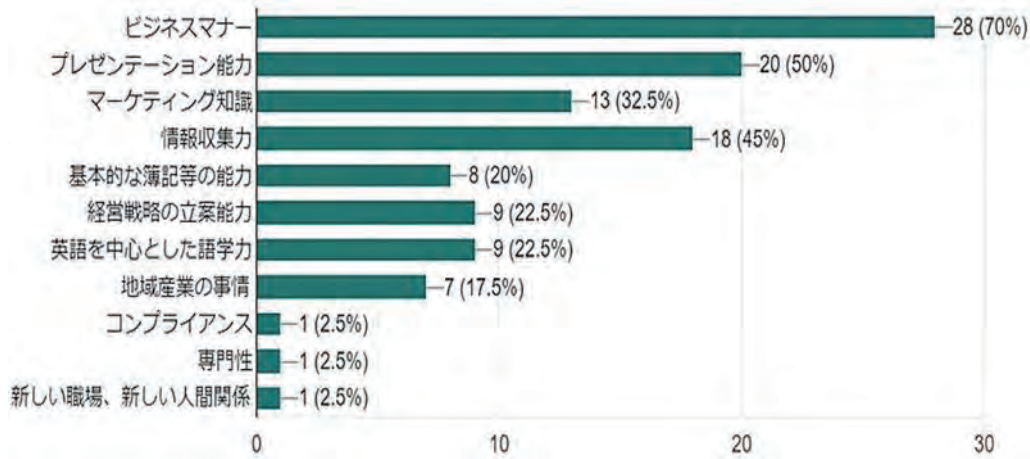
電気系やIT系

電気工事、機械系、配管系（物理）、システムエンジニア

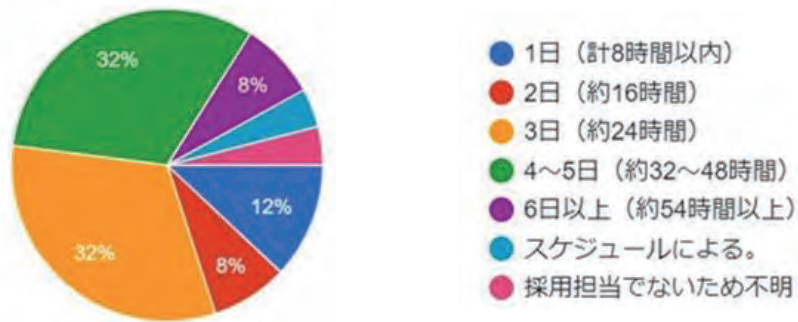
電子機械系

資料 3-6 : 地域企業へのアンケート結果

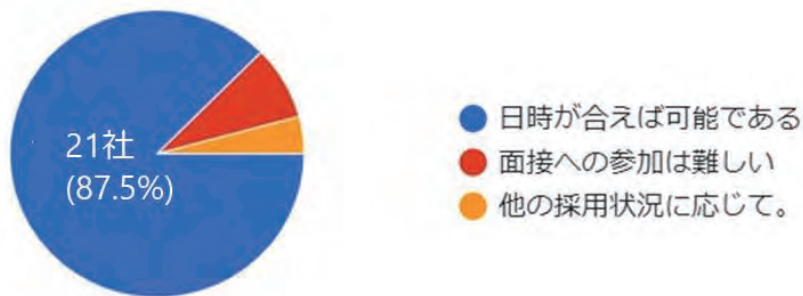
[地域企業が中途採用者に期待する汎用的なスキル]



[中途採用候補者のインターンシップ受け入れ可能日数]



[中途採用者をインターンシップ受入可とした地域企業の面談参加可否]



(2) プログラムの趣旨・概要

本事業では、労働局・ハローワーク、福井県、企業、金融機関、県内大学等と連携協力して、令和4年10月、11月の2カ月間を就業活動前の教育期間として、選択科目を含め1人当たり136時間以上の教育プログラムを実施した。

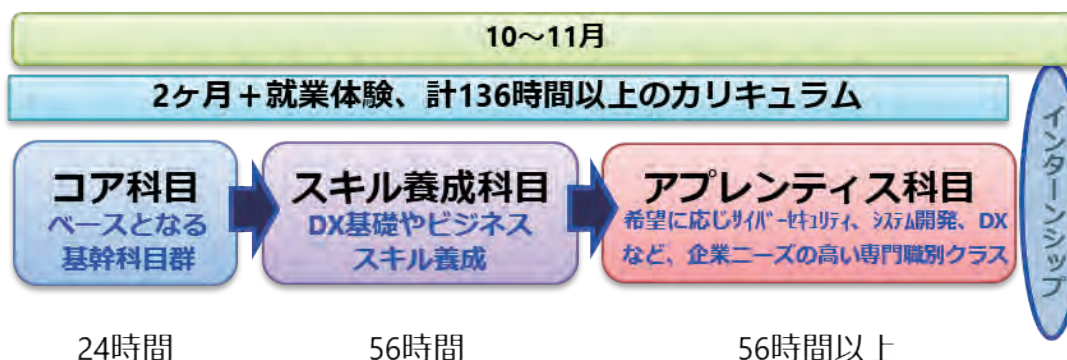


図3-7：カリキュラムの概念図

本教育プログラムでは米国のアプレンティス（Apprentice）制度に倣い、次のような方針でカリキュラムを設計した。

※アプレンティス（Apprentice）制度

「人々に仕事を与えたい。労働者の力で国を再建」をスローガンに米国トランプ政権が取り組んだ高度技術習得制度。過去の学歴等に関係なく、技術を一から学び、“Find Something New”を掲げ、新しいキャリア、新しい仕事を見つけることを受講者の目標とした。

(3) 輩出する人物像

大学・高専と、実務家教員や企業による授業を組み合わせ、全受講者がサイバーセキュリティやDXに関連する知識を学ぶとともに、専門的なサイバーセキュリティ、システム開発・設計またはDX-現代社会のデジタル化に関する高度技術習得者となることを目標とした。30名の募集人員のうち、サイバーセキュリティコース、システム開発・設計コース、DX-現代社会のデジタル化として、それぞれ次のような人物像を目標とした。



図3-8：本事業が輩出する人物像

(4) 設置科目一覧

コア科目 24 時間、スキル養成科目 56 時間、アプレンティス科目 56 時間、別途 IT 基礎に関する動画を配置し、計 136 時間以上の科目と補講コンテンツを設置した。

	科 目	講義時間	講義形態	担当教員・実務家	
コア科目	必修	キャリア概論	8	対面	福井大学地域創生推進本部 末・小嶋・竹本・勝木・坂井・舟木・佐藤 他
	必修	地域産業論	8	対面	福井大学国際地域学部、福井県（地域戦略部） 峠岡 伸行 他
	必修	リサーチ&プレゼンテーション	8	対面	ジャートム株式会社 光成 章（実務家）
スキル養成科目	必修	ビジネスマナー	8	対面	一般社団法人オルタナイト 松木 海穂（実務家）
	必修	データ分析プロセス	16	対面	福井大学・株式会社アフレル 長谷川 達人・井上 博行・企業担当者（実務家）
	必修	プログラミング基礎・応用	16	対面	福井工業高等専門学校 青山 義弘・斎藤 徹
	必修	知的財産	8	対面	福井大学産学官連携本部 樋口 人志（実務家）
	必修	サイバーセキュリティ理論	8	対面	福井工業大学環境情報学部 北上 真二
アプレンティス科目	必修	アプレンティス実践講義： サイバーセキュリティⅠ～Ⅳ	32	対面	富士通Japan株式会社 企業担当者（実務家）
		アプレンティス実践講義： システム開発・設計Ⅰ～Ⅳ			株式会社アフレル 企業担当者（実務家）
		アプレンティス実践講義： DX・現代社会のデジタル化Ⅰ～Ⅳ			特定非営利活動法人エル・コミュニティ 企業担当者（実務家）
	必修	アプレンティス実習： 企業インターンシップ	24以上	対面	福井大学地域創生推進本部 末・竹本・坂井・舟木
アプレンティス実習： 事業化可能性調査	福井大学・東亜大学・青山学院大学 竹本 拓治・平松 隆円・林 拓也				

※「企業インターンシップ」と「事業化可能性調査」はどちらか選択

図 3-9 : 科目一覧

(5) 各科目の紹介

[コア科目]

キャリア概論

担当/末 信一郎・小嶋 啓介・竹本 拓治・勝木 一雄・坂井 博昭・舟木 幸雄・佐藤 亜美

キラリと光る強みを持って、あなたのキャリアをより戦略的に！



プログラム全体では、「ビジネスの各場面」に必要なスキルとその土台となる知識から、「サイバーセキュリティ」または「システム開発」の専門性までを身につける内容になっています。しかしそれらを習得したとしても、活かす場面がなければ、宝の持ち腐れになってしまうかもしれません。一方で専門性を身につけたとしても、学校時代の学びが仕事に直結していないと感ずることがあるように、そのまま活かすことができる業種や職種は多くないかもしれません。しかしどのような仕事に就くにせよ、日々の業務をこなす中で、これらの知識が役に立つ場面もでてくる可能性があります。

この科目では、「キャリアの考え方」や「キャリアのデザイン」の学びを通じ、受講者みなさんが受講修了後も自身のキャリアを主体的に構築できることを目指します。

[コア科目]

地域産業論

担当/峠岡 伸行・福井県(地域戦略部) 他

幸福度日本一を支えるのは産業の力！成長する福井の企業を知ろう！



福井県は「幸福度日本一」(日本総合研究所調査)とランキングされていますが、それを支えているのが「産業の力」です。福井県内には、日本のトップクラスの技術力を持ち、自動車や電子機器、航空宇宙産業などの先端産業を支える企業がたくさんありますが、そのほとんどが皆さんの普段の生活の中では出会わない企業です。このような成長する企業の実際の姿を知り、また今後の更なる成長に向けて必要とされている人材像についても知ることで、皆さんが将来、成長する企業の中で活躍する姿をイメージすることができます。

また、授業の中では、福井県の将来ビジョンにも触れていきますので、皆さん自身の将来の生活の姿も確認していきましょう。

[コア科目]

リサーチ & プレゼンテーション

担当/光成 章

データに頷かせ、説明で唸らせる。あなたの事業を「説得力」で切り開く！



どんな事業も、お客さまがいなければ成り立ちません。提供する製品やサービスを購入してもらうには、できるだけ優れたものを作り、それが優れていることを、お客さま(になりそうな人)にわかりやすく伝えることが必要です。製品開発過程でお客さまの要望を正しく収集するリサーチ力と、製品の良さ等をわかりやすく伝えるプレゼンテーション力。これらの力に磨きをかけていきましょう。全4回。

1回目：マーケティングリサーチの有効活用

2回目：リサーチ計画

3回目：リサーチの実施と分析

4回目：レポートとプレゼンテーション

[スキル養成科目]

ビジネスマナー

担当/松木 海穂

また会いたい人になる。



知っているようで知らない、今さら人に聞けないのがビジネスマナー。ビジネスマナーを身につけていなければ、職場、取引先などに不愉快な感情を抱かせることがあります。また、ビジネス上、コミュニケーションが円滑に行われないと重大な問題にも繋がりがねません。相手に不愉快な思いをさせない、迷惑をかけないための基本ルールを理解した上で、直ぐに役立つ実践可能な応用編は、冠婚葬祭、接待マナーなど多岐におよび、必要不可欠な対人関係におけるスキルは強い魅力となり「また会いたい人」「選ばれる人」になります。知性、感性を併せもった表現力と存在感、人間力をも高めていくことを目指します。

1回目：出会った瞬間から始まる印象マナー 2回目：対話力マナー「選ばれる人になる」

3回目：良好な人間関係コミュニケーションマナー 4回目：これだけは知っておきたいTPOマナー

[スキル養成科目]

プログラミング

担当/青山 義弘・斉藤 徹



基礎クラス | **AIにこき使われないために、 プログラムとは何者かを知ろう。**

最初にごめんなさい。AIを知りたいと思ったあなた。AIはやりません。

ただ、「AIだって所詮はプログラム」なので、プログラムって何？って考えてみます。この科目ではコンピュータって何？と言うところから始まり、プログラムの基礎を学びます。身の回りにあるプログラムやよく目にするインターネットのプログラム、Excelや流行りの言語Pythonを使って簡単なプログラムを作成します。Googleのツールを使う予定ですので、Googleのアカウント(GmailのID)が必要となります(講義内でも説明します)。

1回目: コンピュータについて考えてみる

2回目: 身の回りのプログラムについて考えてみる

3回目: いま流行りのPythonについて考えてみる

4回目: プログラミングについて考えてみる

応用クラス | **Webページで プログラミング体験。**

最近のWebアプリケーションで使われている、Webページを記述するHTML、CSSや、Webページの処理を記述するJavaScript、PHP、SQLといったプログラム言語の理解を、簡単な演習を通してWebアプリケーションの基礎を勉強していきます。

1回目: Webアプリケーションとプログラム言語

2回目: JavaScriptによるフロントエンドプログラミング

3回目: PHPによるバックエンドプログラミング

4回目: Webプログラミングとセキュリティ

[スキル養成科目]

データ分析プロセス

担当/長谷川 達人・井上 博行・株式会社アフレル



基礎クラス前半 | データから真実を見抜くための力。

現在、企業や国策などの様々なシーンでデータの重要性が説かれています。本講義では「データから真実を見抜くための力」を身につけるために、データの加工手法、集計手法、可視化手法、そして機械学習を用いた分析手法に関する説明をします。機械学習は人工知能(AI)技術の一種です。例えば、写真を入力として与え被写体が何かを自動で認識する技術や、売上のログ情報から顧客を自動でグループ分けする技術などがあります。受講後には、実社会にあふれるデータに対して、どのように集約することで、どのような課題改善が行えるのかといった、問題定義とその分析の一部が行えるようになります。

1回目: データハンドリング(データを収集・蓄積するための技術) 2回目: 構造化データを扱う技術(Excelを用いた簡単な分析) 3回目: 非構造化データを扱う技術(時系列データ解析と画像解析の基礎) 4回目: 機械学習の基礎知識

基礎クラス後半 | データを正しく扱い、情報の宝を見つけよう。

ネット社会になり、様々なデータを容易に利用できるようになってきています。それらのデータから様々な情報を読みとり、ビジネスに利用したり政策立案に役立てたりすることが今後ますます重要になってきます。一方で、個人情報の流出などの問題が発生しており、データを扱う上での危険性を理解した上で、正しい倫理観を持ち合わせる必要があります。本講義では収集したデータを適切に処理し、それから様々なことを読み取る能力を身につけることを目標とします。また、それらを安全に利用する方法についても触れます。具体的には、個人情報などを中心にデータの適切な扱い方、オープンデータなどの収集や可視化方法、情報の読み取り方などを学びます。

5回目: データと情報(データと情報の違い、可視化) 6回目: データ・情報の適切な扱い方、情報モラル 7回目: オープンデータの利用と統計手法による処理 8回目: 多変量データやテキストデータの分析

応用クラス | データ分析を実践的に活用できる人材になる。

① データ分析のプロセス全体を繰り返し体験する。「ビジネス課題の理解」から「評価」まで、データ分析プロセス(CRISP-DM)を用いて、ロボットで可視化しながら学ぶことで、効率的で質の高いデータ分析の勘所を掴むことができる。② 前処理段階でのデータの取捨選択の視点や捉え方を学ぶ。センサを用いて収集したデータを処理していくため、混在する要因による影響など、データを取捨選択する上での視点の大切さに気付く。③ AIを活用するための「ロジカル」で「総合的」な見方を学ぶ。「線形回帰」や「分類」といった演習を体験するため、AIを活用する際にデータがどう扱われるか把握できる。

[スキル養成科目]

知的財産

担当/樋口 人志

知的財産を保護活用してビジネスに競争優位性を。



ビジネスの活動源は知的財産です。開発技術、顧客ニーズにもとづく商品、これらはみな知的財産となります。そしてこれらの知的財産を保護、活用していくための社会の仕組みの知識が必要になります。この講義の中で①知的財産によりビジネスにどう競争優位性を出すのか?②知的財産を保護活用していくための仕組み、知的財産権制度の概略、を中心にお話します。知的財産というものを初めて聞く方にも分かり易く、事例を中心にして、何が重要なポイントになるのかを理解していただける内容とします。この講義が受講生の皆さまの今後の活動において知的財産という視点を持って活躍していただける一助になることを期待しております。

1回目：ビジネスと知的財産権。特許権の取得には？ 2回目：意匠権・商標権では何を守るのか？ 3回目：著作権は複雑。秘密情報の管理は悩ましい。 4回目：知的財産のライセンス・契約を考えてみる。

[スキル養成科目]

サイバーセキュリティ理論

担当/北上 真二

サイバーセキュリティの知識と実践で企業活動を支えよう！



近年、サイバー攻撃やランサムウェアなどの様々なセキュリティ脅威が健全な企業活動を妨げるようになってきており、多くの企業では、セキュリティ脅威から企業を守るサイバーセキュリティ管理者となれる人材を求めています。この科目では、実践的なサイバーセキュリティ管理者になることを目指して、サイバーセキュリティの基本的な考え方、暗号や認証などのセキュリティ技術、個人と組織におけるセキュリティ対策およびセキュリティ関連の法律などについて学びます。また、最先端のIoTやクラウドコンピューティングにおけるセキュリティだけではなく、セキュリティ技術を活用して安全な取引を行うブロックチェーンについても学びを深めます。

1回目：基本的な考え方とセキュリティ脅威 2回目：セキュリティ技術(暗号・認証)
3回目：ネットワークセキュリティ 4回目：セキュリティ対策と関連法律

[アプレンティス科目]

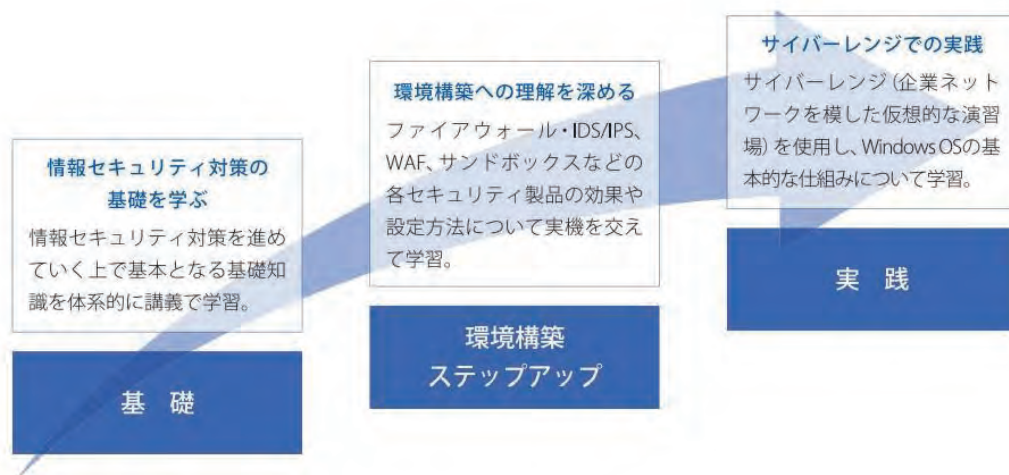
サイバーセキュリティⅠ～Ⅳ

ITスキル標準 (ITSS) : レベル2の領域およびレベル3の一部を扱う

企業の情報を守るエキスパートになる。



富士通Japan株式会社



Step1: 基礎から学ぶセキュア環境構築・運用入門

情報セキュリティ上のリスクは、企業や組織、団体に大きな被害や影響をもたらすため、適切な予防と事後対応が事業活動の中で必要不可欠となっています。本研修では、情報セキュリティ対策を進めていく上で基本となる、アクセス制御技術、認証技術、暗号利用技術、ウイルス対策技術などの基礎知識を体系的に講義で学習します。また、それらの対策技術を活用したセキュアな環境を構築・運用するための留意点をシミュレーター実習およびグループ演習を交えながら学習します。

目標

- 企業や組織、団体における情報セキュリティの必要性と、リスクに応じた対策の考え方を理解する。
- 情報セキュリティを確保するための主な対策技術について特徴を理解する。
- セキュア環境を構築・運用するための流れと留意点を理解する。

Step2: さわって学ぶセキュア環境構築ステップアップ

セキュリティ製品は数多くの種類があり、どの製品がどのような効果を発揮するのかを把握することが困難な場合があります。また、自社に構築されたセキュリティの環境を行き当たりばったりで変更するわけにはいかず、「なぜこの製品を導入したのだろう」「なぜこの設定になっているのだろう」と疑問に思っても解決する術がない場合が多いです。そこで本コースでは、実際に構築された環境にふれることで、ファイアウォール・IDS/IPS、WAF、サンドボックスなどの各セキュリティ製品がどのような効果を発揮するのか、各セキュリティ製品の設定を変更することによる効果を体験することで、自社のセキュア環境構築・運用に役立てることができます。

目 標

- ファイアウォールの効果とその設定を理解する。
- IDS/IPSの効果とその設定を理解する。
- WAF (Web Application Firewall) の効果とその設定を理解する。
- サンドボックスの効果を理解する。

Step3: サイバーレンジで学ぶ!セキュリティ担当者なら知っておきたいWindows OS基礎

セキュリティ担当者としてインシデント対応をしていくためには、サイバー攻撃で悪用されやすい弱点や痕跡が残る場所をあらかじめ理解しておく必要があります。本コースでは、サイバーレンジ(企業ネットワークを模した仮想的な演習場)を使用し、セキュリティ担当者なら知っておきたいWindows OSの基本的な仕組みについて講義と実習で学習します。

目 標

- サイバー攻撃の現状について把握する。
- サイバー攻撃で狙われるWindows OSの仕組み(プロセスが動作する仕組み、ファイル共有の仕組み、認証の仕組み)について理解できる。
- 攻撃者の残した痕跡確認につながるWindows OSの仕組み(レジストリの仕組み、ファイルシステムの仕組み)について理解できる。
- Windows環境のセキュリティを強化する主な運用機能(グループポリシー、監査ログ)について把握する。

[アプレンティス科目]

システム開発・設計における「全体を俯瞰する目」を養い、
品質意識を高く持てる人材に。

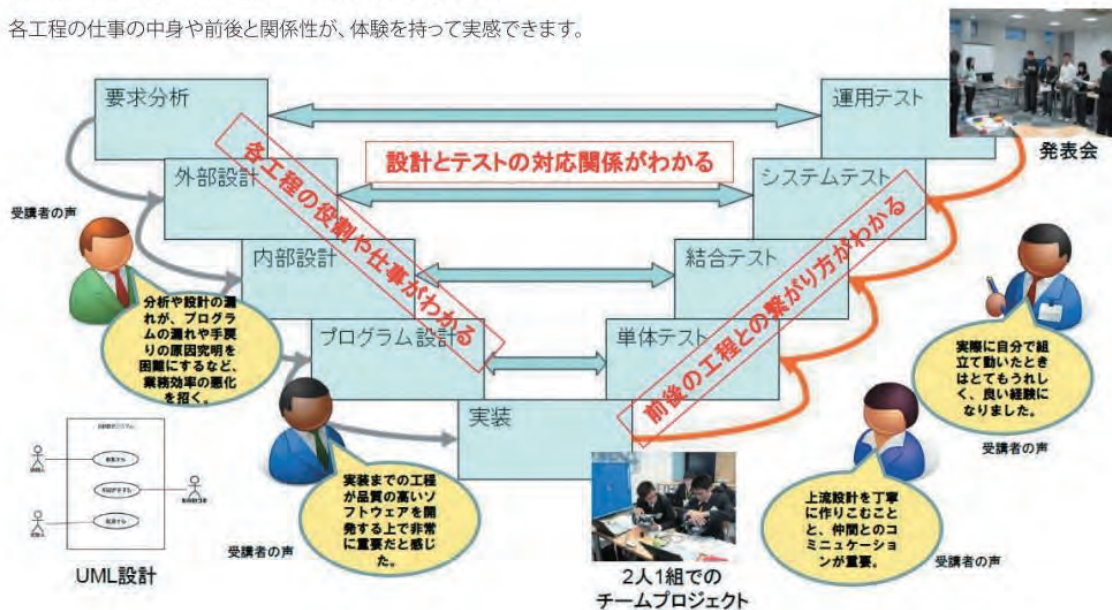


ポイント

- 1.各工程の役割や仕事がわかる。
- 2.前後の工程の繋がりがわかる。
例) 外部設計の担当者は、次工程である内部設計担当者がインプットとして欲しいモノを、アウトプットできる。
- 3.V字の設計部分と、テスト部分との対応関係がわかる。
例) テスト工程でほぼ白紙の「テスト項目表」を渡された場合、自身がまとめた設計ドキュメントから必要なテスト項目を抽出してテストを実施できる。

開発プロセスの全工程を5日間で体験する。

ソフトウェアによる開発の流れを一通り体験することにより、
各工程の仕事の中身や前後と関係性が、体験を持って実感できます。



ビジュアル化して、楽しみながら開発を理解する。

システム開発を俯瞰してみるための一つの例として、「ロボットを使って宅配業務を自動化する」システム開発を二人一組のチームで疑似体験します。モノを作り上げる喜びと達成感を得ることができ、また、ロボットを使い体験することでの自信と深い学びに繋がります。

実習・自動搬送システム開発



設計 ⇒ モデル図でビジュアル化	プログラム ⇒ アイコン型でビジュアル化	研修成果 ⇒ ロボットの動きでビジュアル化
<p>UML設計 成果物内の情報の漏れや誤りが後の工程の作業にどう影響するのとも見やすく学習可能。 品質や作業効率性への影響を実感</p>	<p>教育版EV3ソフトウェア フローチャートの流れでプログラムを作成。言語知識は不要。ソフト開発者だけでなく、機械設計者や営業職、さらにはスタッフ職もモノ作りが学習可能。</p>	<p>教育用レゴ マインドストームEV3 ロボットの動きで、理解度が一目瞭然。(正しい・正しくない)論理的に考えて問題を解決していくため達成感が違う。 自分が作ったシステムが動く楽しさ</p>

[アプレンティス科目]

DX・現代社会のデジタル化Ⅰ～Ⅳ

ITスキル標準 (ITSS) : レベル2の領域を中心に扱う

実際にプログラムやIoTプロダクトをつくり、
知識とスキルを兼ね備えたDX人材に。



目指すデジタル社会の姿

- 1 社会課題の解決や新たな価値・顧客体験の提供が迅速になされる。
- 2 グローバルで活躍する競争力の高い企業や世界の持続的発展に貢献する企業が生まれる。
- 3 資本の大小や中央・地方の別なく価値創出に参画できる。

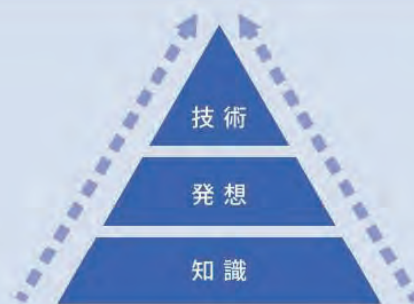


引用：経済産業省、「DXレポート2.1 (DXレポート2 追補版) ～企業の変革を加速させるための課題や政策の方向性～ (2021年8月)」
https://www.meti.go.jp/policy/digital_transformation/index.html

ポイント

知識を組み合わせることで発想し、技術によって地域や企業の課題を解決できるDX人材育成を目指す。

- ハンズオン形式 (体験学習) で、実際にコンピューターやプログラム、IoTプロダクトを作りながら学ぶ。
- 講座ごとのテーマや制作物に対して、より良くするためのアイデアを出しながら発想力を養う。



カリキュラム

1. コンピューター制作

プログラミング初学者向けパソコン「IchigoJam」を半田付けして実際に制作します。

2. プログラミング入門

IchigoJamのBASIC言語を使ったプログラミング入門講座を行います。

3. 計測と制御

IchigoJamにセンサーやモーターなどを接続し、プログラムによって計測と制御を行います。

4. ネットワーク

IchigoJamを有線、無線で接続し双方向通信のプログラムを作成します。

5. IoT

IoTの事例紹介と簡単なIoTプロダクトの制作を行います。

6. Webアプリ入門

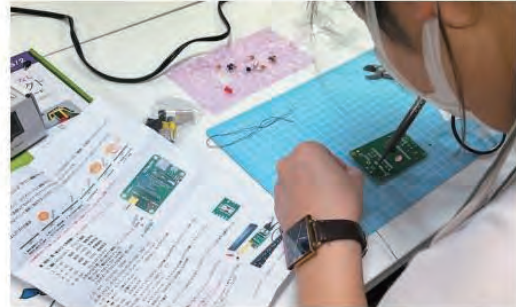
簡単なWebアプリの作成を行います。

7. サイバーセキュリティ

サイバーセキュリティの事例や基本的な知識を学びます。

8. シビックテック演習

自治体サービスや地域社会の課題に対して技術で解決するためのアイデアを出す演習を行います。



1. コンピューター制作



4. ネットワーク



8. シビックテック演習

[アプレンティス科目]

企業インターンシップ

担当/末 信一郎・竹本 拓治・舟木 幸雄

企業の雰囲気を経験してみよう！想定外の発見があるかも？



「最初は苦手」だと思っていたけど、そんな奴が「今の親友」などという話は時折耳にしませんか？人間関係は第一印象が大きく左右すると言いますが、話してみると印象が変わることがあるのも事実のようです。

企業と働く人の関係も同じかもしれません。知らないから「自分に合わない」と思い込んでいるのかも。

みなさんには、ぜひ積極的に、これまで関わってこなかった産業に属する企業にも興味を示していただきたいと思います。もちろん「第一印象で決めていました！」という企業があれば、そこを経験してみてもいいですね！

[アプレンティス科目]

事業化可能性調査

担当/竹本 拓治・林 拓也・平松 隆円

あなたは新規事業担当者！新部署を成功させるには？



日々の業績はそこそこ順調、しかしあなたが所属する会社では今の主力事業に先細りの可能性が…。そんなある日、あなたは企業の新規事業プロジェクトのメンバーに抜擢されました。この科目では「5年後に自社事業の一部門としての存在感を出す」ことを目標として、福井県下の市場調査を踏まえ、新規事業計画を作成します。福井県の1企業を想定し、まずはその企業の現業の強みから新規事業をブレインストーミングします。想定企業にはヒアリングを行い、調査ではペルソナ（架空で想定する具体的なユーザー像）の設定、オープンデータ分析やアンケート調査等を駆使して、市場の可能性を探りましょう。事業準備までの工程、事業開始後の中期計画（ロードマップとよばれる予定）を作成し、授業で協議とブラッシュアップを重ね、ビジネスの成功確率を高めていきます。

①企業インターンシップと事業化可能性調査

就業体験として、アプレンティス科目アプレンティス実習の必修科目に位置付けている「企業インターンシップ」及び「事業化可能性調査」の受講については、原則として、職業に就いている者（非正規雇用労働者を含む）は、勤務時間中にインターンシップに参加しづらいことや、企業側にとって他社の社員をインターンシップに受け入れることは機密情報の漏洩等の観点から支障があると考えられるため「事業化可能性調査」を受講させ、それ以外の者は「企業インターンシップ」を受講させた。ただし、「企業インターンシップ」受講者の受入先は、本学が募集した県内を中心とした受入れ可能な企業とのマッチング（書類選考、面談等）により決定するため、マッチングの結果、受入企業がない場合等は「事業化可能性調査」を受講させた。また、本来「事業化可能性調査」を受講することとなる者に対し、「企業インターンシップ」受入を表明する企業がある場合は、マッチングの上、「企業インターンシップ」を受講させた。

(イ) 企業インターンシップ

○講義内容・時間等

10月中に「事業化可能性調査」受講者と合同で同授業を12時間受講し、11月以降12月中旬頃までの平日を利用してさらに「企業インターンシップ」に12時間以上参加、合計24時間以上実施・受講した。

○受入企業の募集

3月7日（月）に福井大学産学官連携本部協力会が開催した「福井大学とのトップ懇談会」において、同協力会会員企業（約240社）に対しアンケートを実施して受入を依頼した結果、16社から受入の承諾を得、その後昨年度のプログラムで受入実績のある3社が加わり、受入企業は合計19社となった。

資料3-10：インターンシップ受入に関するアンケート（福井大学とのトップ懇談会（福井大学産学官連携本部協力会）において同会員企業を対象に実施）

リカレント教育受講者受入に関するアンケート

本学では2021年10月から2カ月間、失業者や転職希望者を対象として「サイバーセキュリティ」「システム開発」の2つのコースを設置し150時間以上の授業を実施しました（インターンシップ含）。今後の大学リカレント教育に関する事業についての検討を進めるにあたり、企業様のご意見やご要望をお聞かせください。

回答先 <https://forms.gle/JAgAn1STyF2QLLK16>



(QRコード)

上記のオンラインでのご回答が難しい場合、本日終了時にこの用紙に記載の上、ご提出ください。

*必須項目です。

御社名（貴団体名） *

ご回答者所属部署（ご役職等）・お名前 *

1. 御社（貴団体）が採用検討を前提とした場合、リカレント教育受講者に対し、「期待される学びの内容」をすべてご選択ください。 *

- サイバーセキュリティ（情報を扱ううえで必要な知識）
- サイバーセキュリティ（突発的な事象に対するインシデント対応）
- システム開発（自社システム受発注や管理担当者としての全体像の把握）
- システム開発（特定の言語でコードが書けるなどの専門性）
- データサイエンス（データを用いて新たな科学的および社会に有益な知見を引き出すとするアプローチ）
- DXに関する知識（情報技術の普及・浸透による「社会のデジタル化」がもたらす組織や社会の変革）
- 電子商取引（インターネット上などにおけるマーケティングの知識）
- 上記にはない（他の内容の場合は下記「その他」をご選択の上ご記入ください、具備すべき基本スキルのほうが大切な場合は「次の設問」でご回答ください）
- その他: _____

2. 御社（貴団体）が採用を前提とした場合、リカレント教育受講者が「基礎的なものとして学んでおくべき内容」をすべてご選択ください。 *

- ビジネスマナー
- プレゼンテーション能力
- マーケティング知識
- 情報収集力
- 基本的な簿記等の能力
- 経営戦略の立案能力
- 英語を中心とした語学力

地域産業の事情（福井県、北陸地方）

その他: _____

3. 御社（貴団体）では 2022 年度に中途採用（第二新卒採用を含む）をされる予定はございますか？ *

する予定である

予定はない

その他: _____

4. 「中途採用をされる予定がある」企業・団体様は、本質問にご回答ください。このような学びをする受講者を、御社で 3 日間程度の就業体験として受け入れていただける可能性はありますでしょうか？

中途採用でも積極的にインターンシップを受け入れる予定である。

インターンシップを受け入れることの検討が可能である。

中途採用の面接は可能であるが、インターンシップを受け入れる予定はない。

その他: _____

5. インターンシップについて、「受け入れ予定」または「検討が可能」である企業・団体様は、本質問にもご回答ください。就業体験の受け入れとして適切だとお考えの日数をお教えください。（1 日を 8 時間と想定し、2 日であっても各 4 時間の場合は 1 日にご回答ください）

1 日（計 8 時間以内）

2 日（約 16 時間）

3 日（約 24 時間）

4～5 日（約 32～48 時間）

6 日以上（約 54 時間以上）

その他: _____

6. インターンシップについて、「受け入れ予定」または「検討が可能」である企業・団体様は、本質問にもご回答ください。本事業では受講者を決定するに際し、受講希望者を事前に面接しております。その際に、インターンシップの受け入れ可能性をご判断いただくことを目的として、同面接にご臨席いただくことは可能でしょうか？

日時が合えば可能である

面接への参加は難しい

その他: _____

7. 大学リカレント教育事業に関しまして、アドバイスやご要望、ご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

8. 最後に、本件に関して本学からご連絡を差し上げます際、窓口となつていただけます御社の部署名および電話番号、メールアドレス等をご記入ください。

窓口部署名

お電話番号
_____ ()
メールアドレス
_____ @ _____

ご回答を誠にありがとうございました。

資料3-11：インターンシップ受入承諾企業（全19社）
（五十音順）

企業名	所在地
株式会社アイジーエー	越前市
株式会社アイビックス	福井市
井上商事株式会社	福井市
株式会社エイチアンドエフ	あわら市
株式会社 ALL CONNECT(オールコネクト)	福井市
株式会社オンワード技研	石川県能美市
医療法人厚生会福井厚生病院	福井市
株式会社 SHINDO	あわら市
大電産業株式会社	福井市
武生特殊鋼材株式会社	越前市
中央測量設計株式会社	福井市
株式会社 TOKO	鯖江市
株式会社ビジュアルソフト	福井市
福井キャノン事務機株式会社	福井市
株式会社福井銀行	福井市
福井ネット株式会社	福井市
ベルテクス株式会社	福井市
株式会社松浦機械製作所	福井市
隆機工業株式会社	福井市

○受講者と受入企業とのマッチング

選考面接時に同席した受入承諾企業の担当者の意見（自社へのインターンシ

ップ受入の意思（ある、十分検討できる、難しい・ない）を尊重し、かつ受講者の経歴等も参考にして、各受講者に最も相応しいと考えられるインターンシップ受入企業について本人の意向を確認し、必要に応じ当該企業と本人との事前面談を経て、受入企業を決定した。なお、マッチングの結果、受講者 34 名中 17 名がそれぞれ全部で 10 社の「企業インターンシップ」を受講することとなった。

○企業インターンシップ実施状況

「企業インターンシップ」は、11月2日（水）を皮切りに順次開始され、1月6日（金）をもって終了した。

受講者に対しては、受入企業への就職も視野に受講に当たっての心構え（①なぜその企業を希望したのか、②その企業に就職した場合、プログラムで身に付けたスキル・知識をどう活かしていくのか、また、これまでの自分の経歴・経験をどう活かしていけるのか等を質問された場合の回答を整理しておくこと。）を受講前にメールにより指導するとともに、職歴の浅い又はない受講者に対しては、自分で想定問答を作成し事前に十分に練習するよう促した。

終了後には、受講者に成果報告書の作成・提出を指示するとともに、受入企業側からの雇用選考への応募案内の有無等を報告させた。

また、インターンシップ受入企業には終了後、受入証明書の提出を要請した。

資料3-12：企業インターンシップ受入証明書

1. 受講者氏名		
2. 受入企業名		
3. 所在地（研修場所）		
4. 受入日時・時間・研修内容	日時・時間	研修内容
	月 日 時 ～ 時（時間）	
	月 日 時 ～ 時（時間）	
	月 日 時 ～ 時（時間）	
	月 日 時 ～ 時（時間）	
	月 日 時 ～ 時（時間）	
	合計	時間

上記内容に相違ないことを証明する。

令和 年 月 日 担当部署・職名・氏名

○成果発表会の実施

「企業インターンシップ」は、成果発表とその内容について審査を受け認定するため、次のとおり成果発表会を開催し、成果報告書及び発表の内容を基に各クラス担当教員が審査するとともに、担当クラス以外の受講者についても相互に内容を確認した上で、成果報告書提出者 17 名全員の認定を行った。

資料 3-13：成果発表会の概要

1. 日時

令和 5 年 1 月 20 日（金）

18 時 30 分～19 時 15 分

2. 場所

総合研究棟 I（西館）13 階会議室（文京キャンパス）

3. 次第

(1) プログラム開発・事業実施責任者挨拶

(2) スケジュール

①発表者

17 名（サイバーセキュリティクラス 4 名、システム開発・設計クラス 5 名、DX-現代社会のデジタル化クラス 8 名）

②方法

パワーポイント資料に基づき、一人 2 分の発表

③順番（受入企業順（五十音順））

4. 参加者

- ・学長、事業責任者、事業副責任者、プログラム開発・事業実施責任者、事業実施委員会委員、キャリア概論クラス担任等
- ・就業先・企業インターンシップ受入先企業の担当者
- ・昨年度のプログラム修了者

資料3-14:「企業インターンシップ」成果報告書例

研修内容

- ・会社概要、ITエンジニアの市場価値などの説明
- ・ノーコードアプリ(Adalo)の開発
- ・Kotlin(Androidアプリのプログラミング言語)の体験
- ・社員との座談会
- ・オフィス見学

得られた成果・気づき等

- ・県内では数少ないSier企業、官公庁や大手ベンダーからの2次請負もやっている会社
→県内企業から大企業まで信頼されている、流行り廃りのない事業も行っている。
→様々な経験が積めて、今後も安定して注文が入る、将来性のある会社だと感じた。



(ロ) 事業化可能性調査

地域の企業を多面的に分析し、その企業における新規事業を市場規模、ペルソナ、実現可能性、中期事業計画までの一連の提案を行うものである。18名が5チームに分かれ、提案内容をおよそ1か月で作成し発表した。

資料3-15：授業スライド

1 対象企業の決定

		製品	
		既存	新規
市場	既存	市場浸透 既存の市場×既存の製品 既製品・購入品・リピーターを 狙い(既存製品の売上拡大)	新商品開発 既存の市場×新規の製品 関連技術や販路・流通・育成を 活用(既存に新しい製品を売る)
	新規	新市場開拓 新規の市場×既存の製品 海外市場、顧客ターゲットの変更を 行う(新規顧客へのアプローチ)	多角化 新規の市場×新規の製品 既存の技術に新しい製品を作る

多角的展開に關しての必要性と可能性、将来的な成長性、資本余力などを検討する

2 対象企業の強み、弱み、機会、脅威の洗い出し

SWOT分析で的確な打ち手を!

		内部環境	
		強み Strength	弱み Weakness
外部環境	機会 Opportunity	強み×機会	弱み×機会
	脅威 Threat	強み×脅威	弱み×脅威

技術・商品・サービス・市場などを多面的に考察する

3 対象企業の戦略を知る

- 企業がその行動(戦略)を策定し、実行し、評価するプロセスを扱う学問
- 市場、競合他社、環境変化、自社財務、イノベーションなどの策定・実行・評価の繰り返し
- 多岐にわたる学際性のある領域
- 全社戦略: 資源配分、国際化・多角化
- 事業戦略: 事業部門単位での競争優位
- 製品戦略: 自社製品・サービスの優位性の追求
- 機能戦略: マーケティング、研究開発などの機能別の戦略

全社戦略を把握したうえで、4につながる事業戦略、製品戦略につなげる

4 新規事業コンセプトの作成

チーム(個人で取り組む場合も協力)で20アイデア以上を目安に数を出す

5 アイデアの絞り込みと優先順位の設定

「市場の成長性」や「競合他社の状況」「アイデアの実現性」について評価し決定する

6 提供価値の顕在化(ユーザーニーズの把握)

一般的なターゲット作成とペルソナ作成の違い

	一般的なターゲット	ペルソナ
顧客像	ぼんやり	具体的な
表現される内容	業界や売上規模、顧客、役割などのスペック	価値観やパーソナリティ、ライフスタイル
元になる情報	過去の経験からの想像	定量的調査や定性調査などの事実
主な手法	業界担当や経営層へのヒアリング、過去の業界情報からのデセグメンテーション	ユーザーインタビュー、ユーザー観察、アクセス解析データ、CRMデータ
発信への影響	企業中心の発信	ユーザー中心の発信

「顧客がだれか」「顧客が満足する価値はあるか」「顧客はどのような生活を送っているか」それらを通して、詳細な顧客像を描く。

7 マーケティングと仕組みづくり

どのように顧客に認知してもらい、購入させ、リピートさせるのか、そのための仕組みも描く

8 財務計画

3. 新事業にかかる経営計画 (千円)

	年月～	年月～	年月～	年月～
①売上高				
②売上原価				
③売上総利益 (①-②)				
④販促費及び一般管理費				
⑤営業利益 (③-④)				
⑥売上高内訳				

5年間のロードマップを、投資額と売上、費用、利益面から説明する

4. 受講者の募集

(1) 事業の広報

福井県、福井労働局・ハローワーク、県内経済団体・金融団体等と緊密に連携協力し、様々な媒体・方法を活用して、県内の求職者はもとより県外のUIターン希望者に対しても幅広く事業・プログラムの広報活動を展開した。

※下記の資料4-1～4-6の配布先

福井労働局・県内ハローワーク、福井県（県外事務所（東京・京都・大阪）、福井Uターンセンターオフィス（東京・名古屋・京都・大阪・福井）、県内経済団体・金融団体等

① 広報媒体

(イ) 事業案内チラシ（資料4-1）

○部数：15,000部

（表面）

（裏面）



(ロ) 事業案内ポスター（チラシの表面の拡大版）

○部数：100部

(ハ) 受講ガイド (資料4-2)

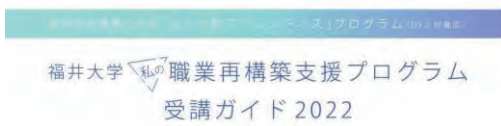
○申込者の獲得を図るため、プログラムの目的、受講科目・時間割等の内容、講師の紹介、インターンシップ受入承諾企業名、令和3年度実施のプログラム受講者の声等を掲載

○部数：300部

(表紙)



(目的)



CONTENTS

受講者のみなさまへメッセージ	02	教科目別 コア科目	10
プログラム概要	04	卒業科目	11
目指す人	05	アプレンティス科目	13
スケジュール・受講者の声	06	Q&A	22
科目一覧・インターンシップ受入企業	07	受講者からの言葉	25
募集要項	08	新型コロナウイルス感染症予防について	26

(講師紹介)

(授業科目、インターンシップ受入企業)

福井大学 職業再構築支援プログラム

事業統括、福井大学 理事・副学長
末 信一朗

本プログラムでは、サイバーセキュリティシステム開発・設計、DX・関与企業のデジタル化の3つのコースを開設しました。学生の高度専門的な知識を、これらのコースの履修を通して身に付け、受講者の皆さんが、基礎から応用までしっかり学び、卒業後に組織の中で戦力として活躍される人材となることを期待しています。

プログラム統括、福井大学 地域創生推進本部 教授
工学部 工学研究科 卒業制作工学専攻
竹本 拓治

サイバーセキュリティでインテリジェントに対応できるシステムを開発し、企業に貢献し、各企業のデジタル化を推進できる人、そのための人材育成や職種を問わず卒業までしっかりと学び、様々な産業現場で学生の活躍が活躍されることを楽しみにしています。

科目一覧

科 目	講義時間	授業形態	担当教員・実務家
必修	5	対面	福井大学地域創生推進本部 末信一朗・竹本拓治・藤井浩一・池水茂樹 他
必修	8	対面	福井大学地域創生推進本部 藤井浩一・池水茂樹
必修	8	対面	ジェームズ株式会社 池田 博 (実務家)
必修	8	対面	一般社団法人システム41 紀本 隆雄 (実務家)
必修	16	対面	福井大学・株式会社アプロ 藤田昌人・井上 崇行 (企業担当 実務家)
必修	16	対面	福井工業専門学校 渡山 剛弘・青藤 隆
必修	8	対面	福井大学工学部 藤田昌人 藤田昌人 (企業担当)
必修	8	対面	福井工業専門学校 藤田昌人 井上 崇二
必修	12	対面	富士通株式会社 藤田昌人 藤田昌人 (企業担当)
必修	24以上	対面	株式会社アプロ 藤田昌人 井上 崇二 (企業担当)
必修	24以上	対面	福井大学地域創生推進本部 末信一朗・竹本拓治 (実務家)
必修	24以上	対面	福井大学・福井工業専門学校 藤田昌人 井上 崇二 (実務家)

インターンシップ先予定企業

- 株式会社アイジーエー
- 株式会社アイビックス
- 株式会社エイトアンドエフ
- 株式会社ALL CONNECT (オールコネクト)
- 株式会社オンワード 荏研
- 株式会社SHIBUYA
- 大電産株式会社
- 武生特殊鋼材株式会社
- 中央建設計株式会社
- 株式会社YOKO
- 株式会社ビジュアルソフト
- 福井キヤノン事務機株式会社
- 株式会社福井銀行
- ヘルテラス株式会社
- 株式会社松浦機械製作所
- 福井工業株式会社

(二) 受講者募集要項 (資料4-3)

○部数：300部

(表紙)

(受講申込票：表面)

産学官金連携による「ふくい型アプレんティス」
プログラム(DX人材養成)

受講者募集要項

令和4年8月
国立大学法人福井大学

令和3年度「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のための
リカレント教育推進事業」(文部科学省)

令和3年度「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」(文部科学省)
産学官金連携による「ふくい型アプレんティス」プログラム(DX人材養成)

受講申込票

ふりがな 氏名		写真貼付 正面向き、無帽、上半身、制服用 縦4cm×横3cm 申請前3か月以内に写したものを、メガネ着用者はメガネ着用したもの。	
産学官金連携による「ふくい型アプレんティス」 プログラム(DX人材養成)	生年月日・性別	年 月 日(男・女)	
現住所	〒	-	
	TEL	-	(携帯・自宅)
メールアドレス			
受講申込区分 (該当するものを○で囲んでください。)	(1) 失業者 (2) 非正規雇用労働者 (3) 転職希望者等 (※(1)～(3)にはUターン希望者を含む。)		
アプレんティス科目の受講クラス (希望するクラスを○で囲んでください。)	第一希望	サイバーセキュリティクラス ・ システム開発・設計クラス ・ DX～現代社会のデジタル化クラス	
	第二希望	サイバーセキュリティクラス ・ システム開発・設計クラス ・ DX～現代社会のデジタル化クラス ・ 希望なし	
	第三希望	サイバーセキュリティクラス ・ システム開発・設計クラス ・ DX～現代社会のデジタル化クラス ・ 希望なし	
最終学歴 (学部・学校・専攻等まで記入してください。)	年 月		卒業・修了
職歴 (部署、職名、正規雇用・非正規雇用の別まで記入してください。)	年 月		
	年 月		
	年 月		
	年 月		
	年 月		

(受講申込票：裏面)

(受講申込理由書)

資格・免許等	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
パソコン等の操作	次の1から5の情報技能習熟度のうち、ご自身がどれに該当するか番号を○で囲んでください。 1. プログラム言語を扱うことができ、自ら簡単なプログラムを作成することができる。(扱うことができる言語を○で囲んでください。) Java、PHP、Python、HTML、CSS、javascript、その他() 2. ホームページをデザイン、カスタマイズすることができる。 3. Word、Excel、PowerPointなどオフィス関係のソフトを活用し、事務職として基本的なパソコン技能を有する。 4. メール、サイト閲覧、QRコードの読み込みなど初歩的な情報機器活用ができる。 5. パソコンやタブレットの操作はほとんどできない。	
自宅等のネットワーク環境	(1) パソコン	有・無
	(2) タブレット端末(iPad等)	有・無
	(3) インターネット接続環境(Wi-Fi、有線LAN等)	有・無
求職者支援制度における職業訓練受講給付金の受給希望の有無	有・無	
雇用保険の受給資格の有無	有・無	
Uターン希望者のうち、福井県の交通費・住居支援制度の適用並びにWeb面接による選考の希望の有無	交通費支援の希望	有・無
	住居支援の希望	有・無
	Web面接の希望	有・無
特記事項 (病状等による受講上の配慮希望等があれば記載してください。)		
企業への個人情報提供の承諾の有無	企業インターンシップ受入先や就職先の決定に当たって、該当企業に受講申込票や受講申込理由書に記載されている個人情報を提供することの承諾の有無 有・無	

令和3年度「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」(文部科学省)
産学官金連携による「ふくい型アプレんティス」プログラム(DX人材養成)

受講申込理由書

ふりがな 氏名	
※記入上の注意(別途記載欄を参考にしてください。) 次の事項について、以下に簡潔にまとめて記述してください。 1. このプログラムを受講しようと思った理由(例：新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う就職先の業績悪化等により雇用を打ち切られたため再就職を希望、非正規雇用職員であるがスキルを身に付けて正規雇用を希望、都市圏から親元の地元に戻り仕事をしたいため転職を希望、など) 2. 受講志願先の「アプレんティス科目の受講クラス」で第一希望としてそのコースを選択した理由、また、当クラスで身に付けたスキルを活かして、どのような就職先(業内・業外、業種、職種等)を目指しているのか。 3. 現在就業している場合は、その勤務形態(例：非正規雇用、月～金 9：00～17：00等)	

(ホ) プログラムに関するQ & A (資料4-4)

○申込要件、選考方法、プログラム内容、就職先等について、申込希望者に分かりやすく解説

○部数：300部

(Q & A (抜粋))

1. 申込区分等

(Q1)

受講者募集要項の「3. 受講申込区分」について、(1) 失業者、(2) 非正規雇用労働者、(3) 転職希望者等のいずれかの区分に該当していれば、その理由は問わないのか。

(A1)

例えば、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う社会経済の悪化や就職先の業績悪化などによる雇用環境の変化が理由として考えられますが、就職・転職するために本プログラムを受講する必要性・妥当性があると認められる場合は、それ以外の理由であっても結構です。ただし、原則として福井県内の企業等に就職・転職する意志を有していることが必要です。なお、理由や希望する就職先の業種・職種等については、受講申込理由書に簡潔に記載してください。

(Q2)

年齢、国籍など、申込資格に制限はあるのか。

(A2)

特段の制限は設けません。本プログラムでは、就業意欲のある方を募集しています。受講者募集要項に記載のとおり、講義で使用する言語は基本的に日本語であること等に十分留意の上、申請の可否をご判断ください。

(Q3)

受講者募集要項に、新型コロナウイルス感染状況によっては、選考の対象外となる場合がある等の記載があるが、具体的にはどのような場合にそうなるのか。

(A3)

プログラムは対面で行うため、県外に居住している方は、プログラム開始前に福井県内に転居する場合を除き、プログラムを受講するためにJRや自家用車等で本学に通うことになるものと思われます。新型コロナウイルス感染状況の悪化に伴い、福井県の県民行動指針により緊急事態宣言等が発令されている地域と福井県との往来が制限された場合、この方は本学に通うことができなくなります。このため、選考時において、居住する地域の緊急事態宣言等の発令期間がプログラム実施期間に及ぶことが明らかな場合等には、受講者の確実な確保の観点から、選考の対象外とすることもあります。また、選考の対象となり合格して受講者となった場合でも、その後、居住する地域に緊急事態宣言等が発令された場合は、プログラムの受講ができなくなることもあります。本学としては、新型コロナ感染状況に十分に注意しつつ、受講者の安全の確保を最優先し、感染予防対策を十分に講じた上でプログラムを実施していきたいと考えていますので、ご理解いただきたいと思います。

(へ)「福井県に移住をお考えの方の交通費支援制度」(ホームページ:福井県)(資料4-5)

○UIターン希望者を対象に福井県が作成。受講者募集要項や専用ホームページに当ホームページアドレスを掲載
(福井県ホームページ)



対象者

福井県内への移住を希望し、または検討している者およびそのご家族
ご家族は同居の方に限る
6歳未満の「幼児」、 「乳児」については対象外
(ただし「幼児」(1歳以上6歳未満児および小学生入学前の6歳児)の3人以上は「子ども」として取扱う)

対象となる現地活動

- 県、市町が主催、後援等とする移住・就業関連イベント
 - 県内企業等の職場見学、面接等
 - 企業移住者、地域住民等との面会
 - 住まい、空き家の現地探訪
 - お試し移住
 - 福井暮らしはたらくサポートセンター(福井UIターンセンター)、市町の移住相談機関、移住居地団体等における相談等
- ※編者や引寄せについては対象外となります

対象となる交通費

住所地と福井県内訪問先の間を公共交通機関で移動した乗車券等の料金または自家用車で移動した有料道路利用料金等
※勤務先等から交通費の支援があり、当初戻金と併せて実費額を超える場合は、支給の対象としない。

支援金額

交通費	
●	以下の申請者の住所に応じた額と対象交通費のうち低い方の金額 ※定期に換えない場合は、償取書一切符等により証明できる金額 ※年度内に1世帯1回まで
各都道府県からの交通費支援額(1人当たり)	
14,000円	...
13,000円	下関以外の広島県(橋本峠を除く。)
12,000円	新潟県、新潟県、滋賀県
11,000円	香川県
10,000円	静岡県、岡山県
9,000円	兵庫県
8,000円	岐阜県
7,000円	三重県
6,000円	大塚市、兵庫県
5,000円	富山県、徳島県、奈良県、岐阜県、滋賀県、京都府
3,000円	石川県
※同行者のうち、6歳以上12歳未満の子どもは上記定額の半額とする。 (満6歳の未就学児は1歳以上6歳未満の幼児区分とする。) また、幼児が3人以上いる場合、3人目以降は上記定額の半額を支給する。	

必要書類

- 申請者の住所を証明する書類(運転免許証等、本人確認書類) ※下記フォームよりアップロード可
- 償取先を証明する書類(通帳の写し等) ※下記フォームよりアップロード可
- 居住地認事※様式有
- 交通費戻金収受原本(鉄道・航空線・高速バス・旅客船・償取書一切符等の原本、有料道路料金→現金払いの償取書またはETC利用明細書等) ※その他、書類の提出を求める場合があります。

申請の流れ

出発日の7日前までに事務局へ(下記専用ホームページから申し込みまたは郵送受付) ↓

(ト)「求職者支援制度のご案内」(チラシ:厚生労働省・都道府県労働局・ハローワーク) (資料4-6)

○職業訓練受講給付金給付希望者を対象に厚生労働省が作成

○部数: 300部

(表面)

(裏面)

再就職、転職、スキルアップを目指す皆さまへ

求職者支援制度のご案内

月10万円
給付金

+

無料の
職業訓練

+

就職
サポート

■ 求職者支援制度とは?

- 求職者支援制度は、再就職、転職、スキルアップ(*)を目指す方が、月10万円の生活支援の給付金を受給しながら、無料の職業訓練を受講する制度です。
- 訓練開始前から、訓練期間中、訓練終了後まで、ハローワークが求職活動をサポートします。
- 離職して雇用保険を受給できない方、収入が一定額以下の在職者の方が、給付金を受給しながら訓練を受講できます。
- 給付金の支給要件を満たさない場合も、無料の職業訓練を受講できます(テキスト料などは自己負担)。

*令和5年3月末までの特例として、転職せずに働きながらスキルアップを目指す方も対象としています。

■ 主な対象者の方は?

給付金を受けて訓練を受講する方	
離職者	雇用保険の適用がなかった離職者の方 フリーランス・自営業を廃業した方 雇用保険の受給が終了した方など
在職者	一定額以下の収入のパートタイムで働きながら、正社員への転職や社内で正社員転換を目指す方など

給付金を受けずに訓練を受講する方(無料の訓練のみ受講する方)	
離職者	親や配偶者と同居していて一定の世帯収入がある方など(親と同居している学生卒業生の方など)
在職者	働いていて一定の収入のある方など(フリーランスで働きながら、正社員への転職を目指す方など)

厚生労働省・都道府県労働局・ハローワーク LL00211801

■ 制度活用の主な要件

(訓練受講の要件)

- ハローワークに求職の申込みをしていること
- 雇用保険被保険者や雇用保険受給資格者でないこと
- 労働の意思と能力があること
- 職業訓練などの支援を行う必要があるとハローワークが認めたこと

(給付金の支給要件)

- 本人収入が月初万円以下 [シフト制で働く方などは月12万円以下] (*)
- 世帯全体の収入が月40万円以下
- 世帯全体の金融資産が300万円以下
- 現在住んでいるところ以外に土地・建物所有していない
- 訓練の8割以上に出席する(*)

(病気や仕事など以外の理由で訓練を欠席した場合、給付金を日割りで支給します)

- 世帯の中で同時にこの給付金を受給して訓練を受けている者がいない
- 過去3年以内に、偽りその他の不正の行為により、特定の給付金の支給を受けていない

*令和5年3月末までの特例

■ 主な訓練コース(求職者支援訓練)

経営	ビジネスパソコン科、オフィスワーク科など
IT	WEBアプリ開発科、Android/iAVAプログラミング養成科など
営業・販売・事務	OA総務事務科、営業販売科など
医療事務	医療・介護事務科、調剤事務科など
介護福祉	介護職員実務者研修科、保育スタッフ養成科など
デザイン	広告・DTPクリエイター科、WEBデザイナー科など
その他	3次元CAD活用科、ネイルリスト養成科など

- 訓練期間は2か月から6か月
- [シフト制の在職者など]を対象とするコースは2週間から (令和5年3月末までの特例)
- 上記の訓練のほか、訓練期間がより長い公共職業訓練(最長2年)も受講できます

【修了者の声】

予選が初めてで不安もありましたが、指導員さんの丁寧な指導のおかげで自信が生まれ、応募書類がそろいました。

電話での相談を何度も受けました。面接の準備も進められました。

面接変更もスムーズにできました。面接当日も緊張を和らげることができました。

コース検索

求職者支援制度の申し込みは、ハローワークで受け付けています。まずは、住所を把握するハローワークにご相談ください。

【所在地 連絡先】

【制度の詳細】

【制度の紹介動画】

(チ) 専用ホームページ (資料4-7)

- ホームページのアドレスを「you can change.me (ユーキャンチェンジドットミー)」と分かりやすく印象に残りやすいものに設定し、テレビCM、チラシ、ポスター等で「ユーキャンチェンジドットミー」を使用することで、専用ホームページへの誘導を意識付けた。
- 掲載期間：8月10日(水)～11月30日(水)

(トップページ)



<https://youcanchange.me>

ユーキャンチェンジドットミー

福井大学は、デジタル技術を身につけ、
再就職達成を目指す人を支援するプログラムを行なっ
ています。

◎参加者には、2ヶ月+就業体験、計136時間以上のカリキュラムを受講して頂きます。

ただいまチャレンジする人を募集中です

前年度実績 (令和4年)	
応募者	24名
内訳 (採用・受検者)	17名
前年度受検者	7名

部分受講者も募集



今回は、全カリキュラムを受講することはできなくても、DX関連技術・デジタルリテラシー、ビジネススキルを
学んでみたいという方のために、本プログラム(Copyright © 福井大学 All Rights Reserved)の部分受講者も正規受講者募集の

(事業の概要)

後に募集します。(受講料は無料。実習などは受講対象外) 求職者・在職者を問わず参加できますので、是非、この機会にご参加ください。

→募集要項をダウンロード (9月よりDL開始)



対 象：	求職者・非正規雇用労働者、転職希望者、Uターンで地元で働きたい人。
応募資格：	募集する3コースのいずれかの受講を希望し、企業へ再就職する意志がある人・受講期間中は福井大学で受講できる人。
募集期間：	令和4年8月17日(水)～9月5日(月)17時必着
実施期間：	令和4年10月1日からの約2ヶ月間 (136時間の講義と就業体験/週末・夜間が主)
予定人数：	30人
申込方法：	<p>次の資料を参照し、受講希望者の方は、ご記入の上、福井大学まで郵送又はご持参ください。また、受講者の募集の後に部分受講者を募集しますので、希望者は、申込フォームにご入力の上、お申込みください。</p> <p>(受講希望者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受講者募集要項 ・ 受講申込票 (所定様式) ※資料名をクリックすると、ダウンロードが始まります。 ・ 受講申込理由書 (所定様式) <p>(部分受講希望者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部分受講者募集要項 ・ 部分受講者申込フォーム① (全ての回の講義を受講することを要件とする科目) ・ 部分受講者申込フォーム② (一部の回の講義でも受講を認める科目) <p>(国・県の各種支援制度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 求職者支援制度のご案内 (厚生労働省・都道府県労働局・ハローワーク) ・ 福井県に移住をお考えの方の交通費支援制度 (福井県) <p>※Q&Aはこちら。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>◎募集説明会も実施します。※説明会の詳細はこちら</p> </div>
学ぶ内容：	<p>サイバーセキュリティ、システム開発・設計、DX・現代社会のデジタル化に関する3コースのいずれかを中心として、ビジネスマナーやIT全般に関する1ランク上の就業に必要な知識</p> <p style="text-align: right;">↑</p>

Copyright © 福井大学 All Rights Reserved.

(リ) テレビCM (動画)

○単価の高い時間指定ではなく放送回数を重視し、民放1社での放送に限定することにより、プログラムの周知機会を増やした。

○放送局 : 福井テレビ

○放送期間 : 8月13日(土)～9月5日(月)

○放送回数 : 15秒×73回

(ヌ) インターネット

○YouTube 動画広告配信 (15秒)

対象地域 : 福井県、石川県

配信期間 : 8月5日(金)～9月5日(月)

○Line 動画広告配信 (15秒)

対象地域 : 福井県、石川県

配信期間 : 8月5日(金)～9月5日(月)

○Google 画像広告配信

配信期間 : 8月5日(金)～9月5日(月)

②広報の方法・工夫

募集期間(8月17日(水)から9月5日(月)17時まで)を見据えつつ、募集開始前に専用ホームページを開設し、併せてテレビCMを放送した。また、受講希望者の都合(時間・方法)に合わせて個別の説明・相談会(対面又はオンライン)を平日に随時受け付ける等、様々な方法を活用し工夫して広報活動を展開した。

(イ)「本学」における広報

○専用ホームページへのアクセス窓口を本学ホームページのトップページに掲載

・掲載期間 : 8月17日(水)～11月30日(水)

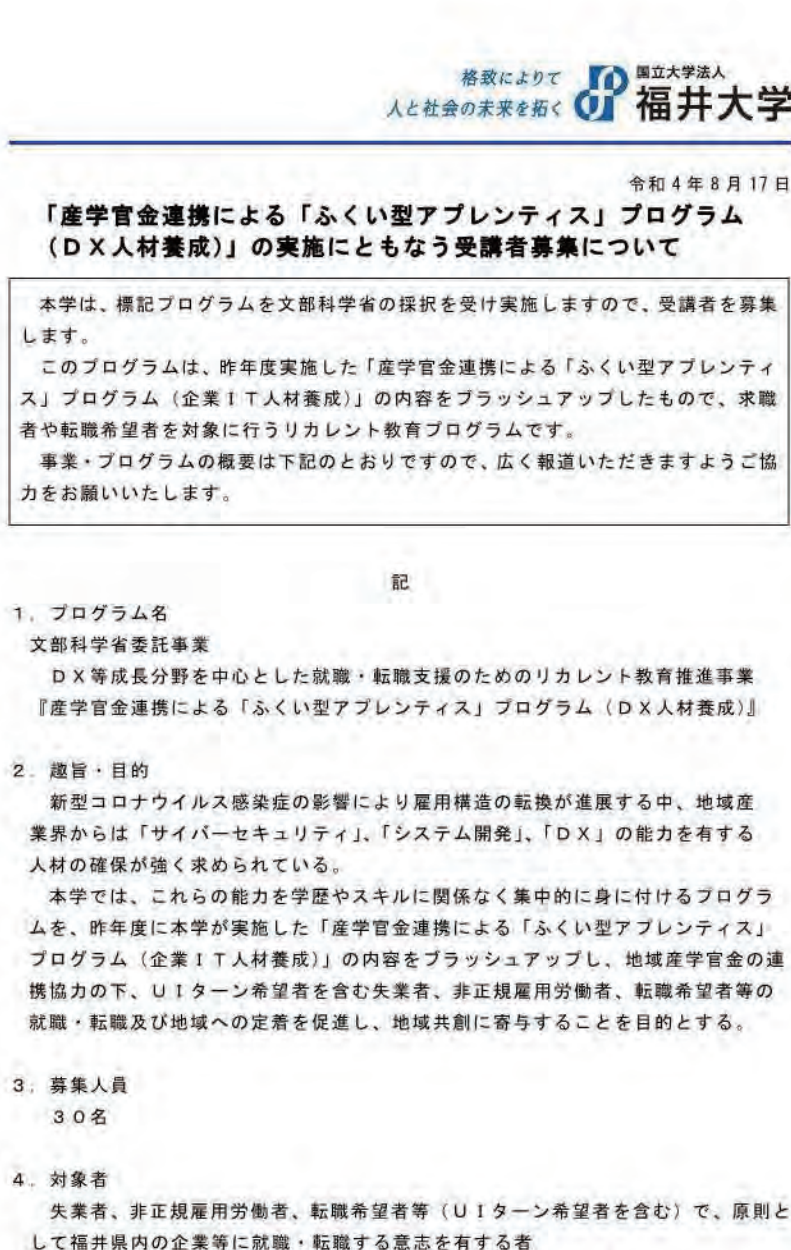
資料4-8 : 本学ホームページのトップページのバナー



○教育・スポーツ記者クラブへの情報提供・報道依頼

- ・日 時：8月17日（水）
- ・対 象：福井県庁 教育・スポーツ記者クラブ（加盟報道機関：12社）
- ・説明者：広報課職員

資料4-9：報道依頼文書（抜粋）



○就職斡旋担当者への説明会開催

- ・福井労働局、県内ハローワーク担当者に対するプログラムの概要及び養成される人材像についての説明会開催

日 時：7月19日（火）10：30～11：15

場 所：ハローワーク福井

説明者：プログラム開発・事業実施責任者、事業ディレクター、事務担当者

参加者：福井労働局、ハローワーク福井等の担当者 計7名

○受講希望者への説明・相談会開催

- ・本学で開催（対面又はオンライン）

期 間：8月19日（金）～9月2日（金）までの平日に随時受付

場 所：福井大学文京キャンパス

説 明 者：プログラム開発・事業実施責任者、事業ディレクター、事務担当者

応募方法：ホームページの参加フォームから申込

参 加 者：対面22名、オンライン11名 計33名

- ・ハローワーク福井で開催（対面）

日 時：8月18日（木）15：00～16：00

場 所：ハローワーク福井

説 明 者：事業ディレクター、事務担当者

応募方法：ホームページの参加フォームから申込

参 加 者：12名

- ・ハローワーク武生で開催（対面）

日 時：8月23日（火）11：00～12：00

場 所：ハローワーク武生

説 明 者：事業ディレクター、事務担当者

応募方法：ホームページの参加フォームから申込

参 加 者：7名

- ・UIターン希望者に対する県外説明・相談会開催（対面及びオンライン）

日 時：8月30日（火）19：00～20：00

場 所：東京都中央区立産業会館（東京会場）

説 明 者：プログラム開発・事業実施責任者、事業ディレクター

応募方法：ホームページの参加フォームから申込

参 加 者：対面4名、オンライン1名

- ・UIターン希望者に対する県外説明・相談会開催（対面及びオンライン）
 日 時：8月16日（火）19：00～20：00
 場 所：福井県大阪事務所（大阪会場）
 説 明 者：プログラム開発・事業実施責任者、事業ディレクター
 応募方法：ホームページの参加フォームから申込
 参 加 者：（参加希望者が無いため中止）
- ・UIターン希望者に対する県外説明・相談会開催（対面及びオンライン）
 日 時：8月17日（水）19：00～20：00
 場 所：名古屋市青少年文化センター（名古屋会場）
 説 明 者：プログラム開発・事業実施責任者、事業ディレクター
 応募方法：ホームページの参加フォームから申込
 参 加 者：（オンライン参加希望者1名であったため中止し、本学での説明・相談会（オンライン）に参加要請）
- ・UIターン希望者に対する県外説明・相談会開催（対面及びオンライン）
 日 時：8月29日（月）19：15～20：00
 場 所：京都市下京区青少年活動センター（京都会場）
 説 明 者：プログラム開発・事業実施責任者、事業ディレクター
 応募方法：ホームページの参加フォームから申込
 参 加 者：（参加希望者が無いため中止）

資料4-10：東京会場・ハローワーク福井会場説明・相談会チラシ

DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業（文部科学省）

私の職業再構築支援プログラム

福井大学 職業再構築支援プログラム 受講者募集説明会・相談会

UIターン希望者のうち、デジタル技術を身に付け、福井県で再就職を目指す人を対象とした説明会・相談会です。

日 時 8月30日（火）19時～20時

場 所 中央区立産業会館4F第3集会室
（東京都中央区東日本橋2-22-4）
※説明会はWebでの参加も可能です。

説明内容 プログラムの概要、受講申込手続き等
※プログラムの概要は下記Webサイトから参照できます

福井大学私の職業再構築支援プログラムWebサイト
URL：https://youcanchange.me

申込方法 職業再構築支援プログラムwebサイト（8月18日(木)までに公開予定）の募集説明会参加フォームより申込んでください

申込み締切：8月26日（金）17時

※当日、会場が緊急事態宣言又はまん延防止等重点措置の対象区域の場合、または事前申込み者がなかった場合は、開催を中止します。申し込み締め切り後、webサイト内「福井大学が行う募集説明会」のページに中止の旨お知らせいたします。

お問合せ 国立大学法人福井大学
地域連携推進課
〒910-8507
福井市文京3丁目9番地1号
Tel：(0776)27-9760
E-mail：rcp@ad.u-fukui.ac.jp

DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業（文部科学省）

私の職業再構築支援プログラム

福井大学 職業再構築支援プログラム 受講者募集説明会・相談会

デジタル技術を身に付け、再就職を目指す人を対象とした説明会・相談会です。

日 時 8月18日（木）15時～16時

場 所 ハローワーク福井3F大会議室
（福井市開発1-121-1）

説明内容 プログラムの概要、受講申込手続き等
※プログラムの概要は下記webサイトから参照できます

福井大学私の職業再構築支援プログラムWebサイト
URL：https://youcanchange.me

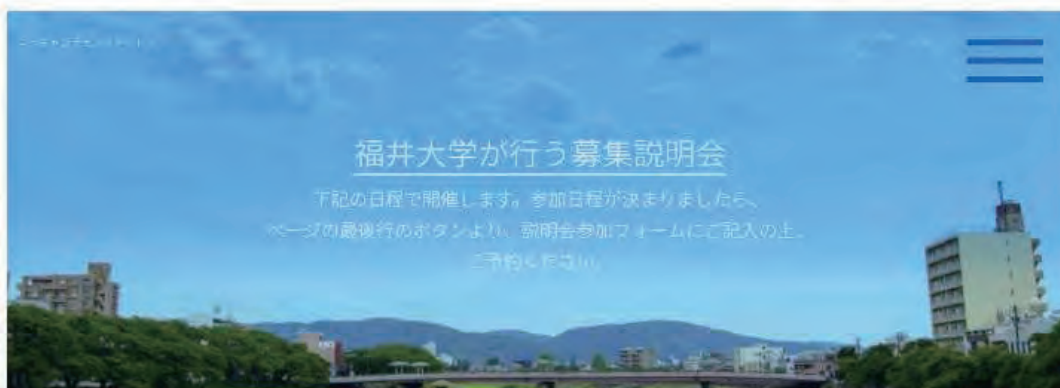
申込方法 職業再構築支援プログラムwebサイトの募集説明会参加フォームより申込んでください

申込み締切：8月18日（木）12時

※当日、会場が緊急事態宣言又はまん延防止等重点措置の対象区域の場合、または事前申込み者がなかった場合は、開催を中止します。

お問合せ 国立大学法人福井大学
地域連携推進課
〒910-8507
福井市文京3丁目9番地1号
Tel：(0776)27-9760
E-mail：rcp@ad.u-fukui.ac.jp

資料 4-11：説明・相談会日程（専用ホームページ（抜粋））



開催場所	日時
労働局・ハローワーク <small>（対面のみ）</small> <small>※事前申込者がいない場合は中止します。</small>	8月18日（木）15時～16時 ハローワーク福井 <small>（福井市）</small> <u>「説明会チラシ」PDFダウンロード</u> 8月23日（火）11時～12時 ハローワーク武生 <small>（武生市）</small> <u>「説明会チラシ」PDFダウンロード</u>
福井大学／文京キャンパス <small>（対面・Webのどちらでも可）</small>	8月19日（金）13時以降、22日（月）から26日（金）までの9時以降、31日（水）から9月2日（金）までの9時以降にご希望に応じ説明会を対面またはWebで開催します。
東京・名古屋・京都・大阪 <small>（対面・Webのどちらでも可）</small> <small>※事前申込者（対面）がいない場合は中止します。</small>	8月16日（火）19時～20時 福井県大阪事務所 <small>（開催中止）</small> 8月17日（水）19時～20時 名古屋市青少年文化センター <small>（開催中止）</small> 8月29日（月）19時15分～20時 京都市下京青少年活動センター <small>（開催中止）</small> 8月30日（火）19時～20時 東京都中央区立産業会館 <small>（東京都）</small> <u>「説明会チラシ」PDFダウンロード</u>

ご家族からのご相談もお待ちしています。お問い合わせ先／福井大学研究・地域連携推進部地域連携推進課

TEL：0776-27-9760 メール：rcp※ad.u-fukui.ac.jp

（注）メールアドレスの※マークは半角@に置き換えてください。

[募集説明会参加フォームに記入する](#)

Copyright © 福井大学 All Rights Reserved.

○企業に対する広報

- ・ 3月7日（月）に福井大学産学官連携本部協力会が開催した「福井大学とのトップ懇談会」において、同会員企業（約240社）に対しアンケートを実施しインターンシップ受入を依頼した際に事業・プログラム概要を説明
- ・ 受入を承諾した企業には、本学関係者が出向き、事業・プログラム概要をさらに詳細に説明

（ロ）「福井県」による広報

- 福井県の就職活動サイトや移住サイトへの掲載、登録者へのメール配信
- 県外事務所、福井Uターンセンターオフィス、県人会を通じたUIターン希望者への広報

資料4-12：UIターン希望者への周知文書

令和4年8月8日

福井県へのUIターン希望者の皆様へ

私の
「福井大学 職業再構築支援プログラム」(第2弾：DX編)の受講のお願い

国立大学法人福井大学

本学は本年度、昨年度に引き続き文部科学省の採択を受け、標記プログラムを実施することといたしました。当プログラムは、昨年度実施したプログラム（企業IT人材養成）の内容をブラッシュアップし、ITの基礎をベースに就業に直結するサイバーセキュリティ、システム開発・設計、DX-現代社会のデジタル化といった高度スキルまでを段階的・体系的に習得することができます。新型コロナウイルス感染症の影響により、雇用構造の転換の中、特に高度IT技術を習得した人材が求められています。本カリキュラムを通じ、地域産学官金が連携協力して、UIターン希望者を含む求職者、非正規雇用労働者、転職希望者等の地域への定着を目指します。

プログラムは募集定員30名、実施時期10～11月の2か月、授業は金曜日夜間、土、日曜日を中心に開講いたします。授業の内容はコア科目、スキル養成科目、アプレンティス科目のほか、就業体験等24時間以上（地域企業へのインターンシップまたは企業視察、実証型の事業化可能性調査）、合計136時間以上です。このうち、高度専門スキルを習得するアプレンティス科目は、受講者自身でコース選択していただきます（サイバーセキュリティコース、システム開発・設計コースまたはDX-現代社会のデジタル化コースのいずれか1コース）。

【福井大学 私の職業再構築支援プログラムホームページ（10日（水）までに公開予定）

URL：<https://youcanchange.me> 参照。

県内企業では高度にサイバーセキュリティに精通した担当者の配置が課題となっていること、県内にシステム開発系企業が多いこと、企業のDX化を推進する県内企業が多いこと等、いずれも県内企業のニーズが高く、これらの人材の確保が企業に強く求められています。この機会に高度IT技術習得を目指して、是非当プログラムの受講をお願いいたします。

なお、別添チラシのとおり、東京、名古屋、大阪、京都でUIターン希望者向け説明会・相談会を開催します。詳しくプログラム内容を知りたいという方はご参加ください。また、お電話やメールでのご相談もお待ちしております。

- (ハ)「福井労働局・ハローワーク」による広報
 - 求職登録者への広報、ホームページへの掲載
- (ニ) 県内経済団体・金融団体による広報
 - 各経済団体・金融団体加盟企業へのメール配信等

③受講者への経済的支援・配慮

- (イ) 交通費の支援（福井県）

選考面接を受けるため、または住まい探しのため来県する場合など、移住前の下見や現地活動に該当する場合には、県が実施する交通費助成の対象となる場合がある旨募集要項に記載し、併せて「福井県に移住をお考えの方の交通費支援制度」（ホームページ：福井県）（資料4－5参照）のアドレスを募集要項や専用ホームページに掲載した。
- (ロ) 住居の支援（福井県）

移住先探しや受講中の住居探し等について、福井暮らしはたらくサポートセンターにて相談を受ける旨、募集要項に記載した。（相談内容に応じ、地域の不動産事業者、関係部署等を紹介）。
- (ハ) 職業訓練受講給付金受給の支援

一定の要件を満たせば国の求職者支援制度における職業訓練受講給付金を受給することができること、給付金の受給希望があれば、給付金の受給手続きのため、速やかに居住地を管轄する公共職業安定所（ハローワーク）へ相談に出向いてほしいことを募集要項に記載し、「求職者支援制度のご案内」（チラシ：厚生労働省・都道府県労働局・ハローワーク）（資料4－6参照）を募集要項と同時配布するとともに、チラシを専用ホームページに掲載した。

(2) 受講者募集及び申込者数

①受講者募集

- (イ) 募集人員・対象者

募集人員は30名とし、対象者は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い就業に影響を受けた等の理由により、(1) 失業者、(2) 非正規雇用労働者、(3) 転職希望者等（(1)～(3)にはUIターン希望者を含む）のいずれかに該当し、かつ、原則として福井県内の企業等に就職・転職する意志を有する者とした。
- (ロ) 申込期間・方法

申込期間については、申込者が募集人員に達することが最も重要であること、そのためにはできるだけ長い募集期間を確保することが必要であることから、委託事業の契約（8月初旬）からプログラム開始（10月1日（土））までのスケジュールが厳しい状況の中であって、8月17日（水）から9月5日（月）17時までの20日間を確保した。

また、申込方法については、申込書類（受講申込票、受講申込理由書）をワード・エクセル形式で専用ホームページに掲載し、それを活用して作成・プリントアウトできるように手続きの簡素化を図った。

②申込者数

十分な募集期間の確保、申込方法の簡素化、Q&Aによるプログラムの分かりやすい説明、様々な媒体・方法を活用した申込希望者に配慮した広報の効果等により、募集人員 30 名を大幅に上回る 60 名の申込者があった。

資料 4-13：申込者 60 名の内訳（申込時点）

○年代別

10代：1名、20代：12名、30代：20名、40代：8名、50代：16名、
60代：3名

○男女別

男：41名、女：19名

○申込区分別

失業者等職を持たない者：23名、非正規雇用労働者：13名、
正規雇用労働者：24名

○U I ターン希望者

Uターン希望者：6名、Iターン希望者：1名

（3）選考及び受講者数

①選考

（イ）選考方法・日時

選考は面接とし、希望クラス（サイバーセキュリティ、システム開発・設計、DX-現代社会のデジタル化）毎に5人程度ずつの班を編制し、1班当たり30分の集団面接を行った。なお、県外者等については、希望によりWebによる面接を行った。日時については、申込者が職業に就いていることに配慮し、本人の都合に合わせ選考を実施した。

○9月9日（金）9：00～12：30

※Web面接は16：30～17：00

○9月10日（土）9：00～12：30

（ロ）面接者

本学関係者が面接者となるほか、雇用側の観点も参考とするため、インターンシップ受入承諾企業7社の関係者延べ11名に同席を依頼した。

（ハ）面接の評定

評定者は、面接評定票に基づき、評価項目（意欲、就業能力）について評価

し、併せて、面接前質問シート（就業・転職の希望・意志、授業出席の可否）の回答内容及び受講の必要性・妥当性を踏まえて面接者毎に可否の評定を行った。また、同席の企業関係者等は、就業能力、自社へのインターンシップ受入の意思について、意見・要望等を述べた。

資料4-14：面接前質問シート

面接をスムーズに実施するため、以下の事前質問にご回答願います。本情報は面接時およびその後の事業報告等に使用いたしますが、その場合は個人が特定されない形で記載および集計します。

	※番号	お名前
質問 1	本プログラムをどこでお知りになりましたか？ 該当するもの <u>すべてに</u> ○をしてください。	1. ご家族、親戚、友人に勧められて 2. ハローワーク（場所：_____） 3. テレビのコマーシャル 4. 新聞広告等（掲載紙：_____） 5. SNS・ホームページ（検索含） 6. その他：_____
質問 2	本プログラムは、金曜日（19:30以降）、土曜日・日曜日（午前・午後）に授業があります。 現時点における10～11月の出席可否のご予定について、該当番号に○をしてください。 （当日の体調不良による欠席は含みません）	1. すべての授業に出席可能 2. ほぼすべての授業に出席可能 3. 2/3以上の授業の出席が可能 4. 2/3以上の出席が難しい 5. その他：_____
質問 3	就業ならびに転職は、本プログラムの連携機関の支援のもと、基本にご自身の活動が中心になりますが、就業ならびに転職を希望されている時期について、該当番号に○をしてください。 （選択肢4は、5年程度以内のご希望を目安にご回答ください）	1. 可能ならできる限り早く（今すぐ） 2. 可能なら3ヶ月以内を希望（年内） 3. 可能なら6カ月以内を希望 4. 将来的に就業または転職の予定 5. 現在は就業・転職の希望はない 6. その他：_____
質問 4	本日の面接に際し、面接担当者に事前に伝えたいことがある場合はご記載ください。	

（二）可否判定資料（原案）の作成

評価項目（意欲、就業能力）に係る面接者の評定と面接前質問シート（就業・転職の希望・意志）の評定を基礎とし、面接前質問シート（授業出席の可否）も考慮して序列化し、かつ、面接者の中で可否判定が割れた者、受講の必要性・妥当性に疑義がある者について、同席の企業関係者の意見・要望等を参考に検討の上、可否判定資料（原案）を作成した。

②受講者数

可否判定は、9月14日（水）に第2回事業実施委員会を開催し、可否判定資

料（原案）に基づき合否を協議し、次のとおり 36 名の合格者を決定した。

なお、その後、プログラム開始までにサイバーセキュリティクラス 1 名、システム開発・設計クラス 1 名の受講辞退の申出があり、結果としてプログラム開始時の受講者は 34 名となった。

○サイバーセキュリティクラス 11 名 → 10 名

※プログラム開始前（9 月 30 日（金））に就職先決定のため 1 名の受講辞退の申出があった。

○システム開発・設計クラス 12 名 → 11 名

※プログラム開始前（9 月 20 日（火））に就職先決定のため 1 名の受講辞退の申出があった。

○DX-現代社会のデジタル化クラス 13 名

資料 4-15：受講者 34 名の内訳（プログラム開始（10 月 1 日）時点）

○年代別

20 代：9 名、30 代：15 名、40 代：5 名、50 代：4 名、60 代：1 名

○男女別

男：19 名、女：15 名

○申込区分別

失業者等職を持たない者：15 名、非正規雇用労働者：7 名、
正規雇用労働者：12 名

○UI ターン希望者

U ターン希望者：4 名、I ターン希望者：1 名

（4）部分受講者の募集

①目的

受講者以外のより多くの失業者・非正規雇用労働者・転職希望者等のニーズに応えるとともに、本プログラムの教育機関、企業、自治体等での活用促進を図るため、本学が指定する科目や科目の一部の受講を認める部分受講者の募集を行った。

②広報

福井県、福井労働局・ハローワーク、県内経済団体・金融団体等と緊密に連携協力し、様々な媒体・方法を活用して、県内の求職者や企業の社員等に対してプログラムの広報活動を展開した。

(イ) 広報媒体

○企業向け事業案内チラシ (資料4-16)

・部数：300部

(表面)

(裏面)



○部分受講者募集要項 (資料4-17)

・部数：300部

(表紙)

産学官金連携による「ふくい型アプレントイス」
プログラム (DX人材養成)

「部分受講者」募集要項

本学では、文部科学省の委託事業として産学連携プログラムを実施します。本プログラムの正規受講者の募集人員は30名ですが、正規受講者のほかに本学が指定する科目や科目の一部の講義の受講を認める「部分受講者」を募集しますのでお知らせします。
(プログラムの内容の詳細はホームページの「受講者募集要項」や「プログラム受講ガイド」等を参照してください。)

令和4年9月
国立大学法人福井大学

令和3年度「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のための
リカレント教育推進事業」(文部科学省)

○プログラムに関するQ&A (資料4-18)

- ・正規受講者用Q&Aの中で部分受講者の申込要件等について解説

(Q&A (抜粋))

(Q16)

正規受講者となれなかった場合、部分受講者(一部の科目、特定の授業のみの受講者)に申し込むことはできるのか。

(A16)

部分受講者に係る応募方法等は、正規受講者の応募の後、「部分受講者募集要項」等をホームページに掲載予定ですので、確認の上、申込み手続きを行ってください。なお、アプレンティス科目の全て(3つの各クラス、企業インターンシップ、事業化可能性調査)、およびコア科目「キャリア概論」は部分受講の対象科目ではありませんのでご注意ください(正規受講者のみ受講可能です)。

○専用ホームページ(資料4-19)

- ・正規受講者募集期間終了後、9月6日(火)から専用ホームページに部分受講者募集要項を掲載するとともに、部分受講申込フォームからの申込受付を開始
- ・掲載期間: 9月6日(火)～11月30日(水)

(専用ホームページの申込フォーム)

The screenshot shows the '部分受講者申込フォーム①' (Part-time Student Application Form 1) on the Fukuoka University website. The page features a header with the university's name and logo, followed by a navigation menu. The main content area includes a title, a brief description of the program, and a list of application fields. The fields are: 'お名前(漢字):', 'お名前(ふりがな):', '知能月日:', '年齢:', '性別:', '電話番号:', 'メールアドレス:', '対象区分:', '申請理由:', and '申請理由・その他:'. A blue button with an upward arrow is located at the bottom right of the form area. The footer contains the copyright notice 'Copyright © 福井大学 All Rights Reserved'.

(ロ) 広報の方法・工夫

正規受講者を確実に確保するとともに、正規受講者の募集との混乱を避けるため、正規受講者の募集期間（8月17日（水）から9月5日（月）17時まで）終了後から、専用ホームページへの部分受講者募集要項の掲載、企業に対するチラシの配付等の広報活動を開始した。

- 「福井大学」における広報
 - ・9月9日（金）、10日（土）に実施した正規受講申込者に対する面接選考時に、全員に部分受講を案内
 - ・福井大学産学官連携本部協力会会員企業（約240社）及び福井大学同窓経営者の会会員企業（約120社）に、チラシ（データ）をメールで配付
- 「福井労働局・ハローワーク」による広報
 - ・相談窓口で相談者に案内
- 「県内経済団体」による広報
 - ・福井県経営者協会では、会員企業（約250社）にチラシを配付
 - ・福井商工会議所では、チラシをラックに配置
 - ・福井経済同友会では、会員企業（約210社）にチラシ（データ）をメールで配付

③部分受講者募集

(イ) 対象科目・募集人員

次の科目を受講可能な科目として指定した。

- 科目の全ての回の講義を受講することを要件とする科目

（コア科目）

- ・リサーチ&プレゼンテーション : 20名

（スキル養成科目）

- ・ビジネスマナー : 15名
- ・データ分析プロセス（基礎・応用） : 30名
- ・プログラミング（基礎・応用） : 5名
- ・サイバーセキュリティ理論 : 30名

- 科目の一部の回の講義でも受講を認める科目

（コア科目）

- ・地域産業論 : 回毎に20名×8回=160名

（スキル養成科目）

- ・知的財産 : 回毎に15名×4回=60名

(ロ) 対象者

次のいずれかに該当する者とした。

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い就業に影響を受けた等の理

由により、(1) 失業者、(2) 非正規雇用労働者、(3) 転職希望者等((1)～(3)にはUIターン希望者を含む)のいずれかに該当し、かつ、原則として福井県内の企業等に就職・転職する意志を有する者

○企業等に勤務しながらスキルアップを目指す者等

(ハ) 申込期間・方法

申込期間は次のとおりとした。また、申込方法は専用ホームページの部分受講申込フォームからとし、手続きの簡素化を図った。

○科目の全ての回の講義を受講することを要件とする科目

9月6日(火)～9月20日(火)17時

※募集人員に満たない科目については、授業開始直前まで期間を延長

○科目の一部の回の講義でも受講を認める科目

9月6日(火)～受講する回の1週間程度前まで

※募集人員に満たない回については、当回の授業開始直前まで期間を延長

(二) 申込者数

企業の社員を主なターゲットとした部分受講者用チラシの作成・広報、募集期間の延長等、申込者の確保に向けて方法を工夫した結果、155名の申込者があった。

資料4-20：申込者155名の内訳

○科目別()は募集人員

- ・リサーチ&プレゼンテーション : 8名(20名)
- ・ビジネスマナー : 5名(15名)
- ・データ分析プロセス(基礎・応用) : 29名(30名)
- ・プログラミング(基礎・応用) : 23名(5名)
- ・サイバーセキュリティ理論 : 11名(30名)
- ・地域産業論 : 66名(160名)
- ・知的財産 : 13名(60名)

○年代別

20代:12名、30代:35名、40代:40名、50代:66名、60代:2名

○男女別

男:92名、女:63名

○申込区分別

失業者等職を持たない者:8名、非正規雇用労働者:10名、
正規雇用労働者:137名

○正規雇用労働者・非正規雇用労働者(147名)の所属機関別

地方自治体の職員：12名、高等教育機関の職員：29名、
公立学校の職員：13名、企業等の社員：93名

(ホ) 選考及び受講者数

基本的に申込者全員の受講を認めることとしたが、申込者数が募集人員を超えた場合は、受講申込フォームの記載内容やできるだけ多くの申込者が1科目以上受講できるよう配慮して受講の可否を決定した結果、辞退者を除いた最終的な受講者数は123名となった。

資料4-21：受講者123名の内訳

○科目別（（ ）は募集人員）

- ・リサーチ&プレゼンテーション : 7名 (20名)
- ・ビジネスマナー : 4名 (15名)
- ・データ分析プロセス (基礎・応用) : 19名 (30名)
- ・プログラミング (基礎・応用) : 5名 (5名)
- ・サイバーセキュリティ理論 : 10名 (30名)
- ・地域産業論 : 66名 (160名)
- ・知的財産 : 12名 (60名)

○年代別

20代：8名、30代：26名、40代：32名、50代：55名、60代：2名

○男女別

男：73名、女：50名

○申込区分別

失業者等職を持たない者：2名、非正規雇用労働者：7名、
正規雇用労働者：114名

○正規雇用労働者・非正規雇用労働者（121名）の所属機関別

地方自治体の職員：11名、高等教育機関の職員：29名、
公立学校の職員：12名、企業等の社員：69名

5. プログラムの運営

(1) 受講者オリエンテーションの実施

受講者に対し、プログラムを円滑に実施するため、次のとおり受講者オリエンテーションを実施した。なお、キャリアコンサルティングの観点から、ハローワークの担当者から求職者登録、ハローワークの活用方法について説明を行った。

資料5-1：オリエンテーションの概要

1. 日時

令和4年9月22日（木） 19:00～20:00

2. 場所

Web (Zoom) により実施

3. 事項・説明者等

- (1) 事業責任者挨拶（末 福井大学理事／副学長）
- (2) プログラムの内容（竹本 プログラム開発・事業実施責任者）・・・資料1
 - クラス分け及び時間割
 - 「キャリア概論」担当教員の紹介
 - オンラインコンテンツの利用方法
- (3) 就職・転職支援について（角上 厚生労働事務官（ハローワーク福井職業相談サービス第二部門））・・・資料2
- (4) 受講者に係る生活上の留意点（坂井 シニアメンター）・・・資料3
- (5) 質疑応答

当日配付資料（抜粋）

（オンデマンドコンテンツ一覧）

オンデマンドコンテンツ一覧

(<https://www.youtube.com/playlist?list=PLi0lqaT4VSZWSxt2MY1e4jxSHAq4t3jpp>)

（WORD-4 コンテンツ）

1. 文章作成
 - 見出しの作成方法
 - 社外秘等の透かし文字入力方法
 - アウトラインの作成
 - ルーラーの使い方
2. 圧縮保存
 - ファイルパスワードの作成
 - エクセルをワードに取り込む
3. 表示の作成
 - 脚注の付け方
 - ページ開始番号の作成
 - 図表番号、図表目次の作成
4. 文章作成応用
 - 段組の作成
 - ハイパーリンクの作成
 - ヘッダーフッターの使い方

（EXCEL 編-7 コンテンツ）

1. エクセルについて
 - 1-1 エクセルとは
 - 1-2 文字の入力・編集
 - 1-3 社外秘等の透かし文字挿入
 - 1-4 データの保存
 - 1-5 画像圧縮・ファイルサイズ圧縮
2. 表を作る
 - 2-1 セルの結合
 - 2-2 表の作り方の基本を学ぶ
 - 2-3 表の作成
3. 関数を学ぶ
 - 3-1 SUM 関数
 - 3-2 average
 - 3-3 その他
4. 表を使いこなす
 - 4-1 コピー&ペースト
 - 4-2 フィルター機能・データソート
 - 4-3 テーブルの作成
5. グラフの作成
 - 5-1 グラフを作成する
 - 5-2 グラフを修正する
6. 見積書・請求書・納品書の作成
 - 6-1 書類作成
 - 6-2 複数シートのページジャンプ・目次作成
7. 印刷をする
 - 7-1 保存形式の変更
 - 7-2 印刷について

(ハローワーク利用案内)

【仕事をお探しの皆さまへ】 (資料2)

**ハローワークはあなたの就職を
全力でサポートします**
「お仕事探し」でお困りのことはありませんか？

応募しても書類で落とされてばかり・・・何がいけないの？

しごとを探したいけど、何から始めればいいのか？

面接で緊張してうまく話せない・・・

どの求人を選べばいいの？

スキルアップして就職したい！

ハローワークでは、ひとりひとりのお悩みに応じたサポートを行います。就職に関するご相談は、いつでもハローワークへ。

- ▶ 転職した方の5人に1人がハローワーク経由で就職しています。
- ▶ 全国の求人情報を手軽に検索できます。**あなたのための求人提案**も可能です。
- ▶ ハローワークの利用は**無料**です。
- ▶ 応募書類の作成のアドバイスや面接対策を行います。
- ▶ スキルアップを希望される方には**職業訓練**をご案内します。
- ▶ **就職活動に役立つさまざまなセミナー**を開催しています。

厚生労働省 福井労働局・ハローワーク

オンラインによるサービスも充実

ポイント1 まずはオンラインで求職登録

ハローワークインターネットサービスからオンラインで求職登録ができます。
※既にハローワークに求職登録されている方は、この手続きは不要です。

ポイント2 求職者マイページを活用

マイページを開設すると、希望条件を登録して簡単に求人検索できたり、オンラインで求人に応募するなど、効率的に就職活動を進めることができます。
※ハローワークで既に求職登録されている方も、マイページを開設できます。
詳しくはハローワークの窓口でご相談ください。

ポイント3 まずはハローワークを使ってみる

ネット上には、たくさんの求人情報や就職活動に関する情報があふれています。ご自分で多くの情報の中から自分に必要なものを選んで就職活動を進めることは大変です。専門機関であるハローワークをご利用すると効果的です。

ポイント4 オンラインによる職業相談を実施

ハローワークへの来所が難しい場合など、オンラインによる職業相談を実施しています。(一部のハローワークを除く。)

■ハローワークインターネットサービス「オンラインでの求職登録」、「求職者マイページ」の開設 etc.
サイトへのアクセスはこちら [ハローワークインターネットサービス](#)

■操作方法に関するお問い合わせ
「ハローワークインターネットサービス」や「求職者マイページ」の操作方法に関する問合せ先
電話番号：0570-077450 受付時間 平日9:30～18:00(年末年始、祝日除く)
※ナビダイヤルのため、通話料がかかります。
※ご利用の電話番号によっては、接続できない場合があります。

メール：helpdesk@hd.hellowork.mhlw.go.jp

(2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた取組

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け、以下のような取組を行った。

①受講申込に向けての注意喚起

募集要項に次のとおり注意事項を記載した。

資料5-2：募集要項（抜粋）

○プログラムは、基本的に対面で行います。このため、新型コロナウイルス感染状況の悪化に伴い、福井県の県民行動指針によって緊急事態宣言等が発令されている地域と福井県との往来が制限された場合には、次のような措置を講じる場合がありますので、ご承知おきください。

- ・緊急事態宣言等が発令されている地域に居住する者で、プログラムを受講するために本学に通う予定の受講申込者については、選考の対象外となる場合があること。また、選考の時点では、居住する地域に緊急事態宣言等が発令されていないため合格し受講者となった場合でも、その後緊急事態宣言等が発令された場合は、プログラムを受講することができなくなる場合があること。また、本学が所在する地域に緊急事態宣言等が発令された場合は、プログラムを中止する場合がありますので、併せてご承知おきください。

○プログラムは新型コロナウイルス感染症感染予防対策を十分に講じた上で、基本的に対面で行います。呼吸の障害や基礎疾患等があることにより重症化リスクが高い方は、主治医等とよく相談の上、受講申込の可否を判断してください。

また、新型コロナウイルス感染拡大状況により講義形態を対面方式からオンライン方式（同時双方向型）に切り替える可能性がありますので、留意してください。

②選考面接に向けての注意喚起

募集要項に次のとおり面接当日の注意事項を記載した。

資料5-3：募集要項（抜粋）

- 文京キャンパス内では、必ずマスクを着用してください。（アレルギー等やむを得ない理由でマスクの着用が困難な場合は、前日までにその旨申し出てください。）。また、他者との接触・会話は極力控えてください。
- 面接当日、次のいずれかの状態にある方は面接を欠席してください。
- ・新型コロナウイルス感染症に罹患し、面接当日までに医師から治癒したと診断されていない方
 - ・面接日時点で保健所等から新型コロナウイルス感染症患者の濃厚接触者に該当するとされている方
 - ・面接当日の検温で、37.5度以上の熱がある方
 - ・喉の痛み、咳等の症状や、新型コロナウイルス感染症発症時にみられる諸症状等がある方

③選考面接欠席者への配慮

募集要項に次のとおり配慮することを記載した。

資料5-4：募集要項（抜粋）

- やむを得ない事情により面接を欠席することとなる方については、個別に相談させていただきますので、事前に「11. 問合せ・申込書類提出先」へお問い合わせください。

④日常生活における注意喚起

9月22日（木）に実施した受講者オリエンテーションの「受講者に係る生活上の留意点」の中で、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け、次のとおり注意喚起を行った。

資料5-5：当日配付資料（抜粋）

1. 新型コロナウイルス感染防止に向けた行動のお願い

本学では、多くの学生や教職員が活動しており、感染防止を目的として行動指針を策定しています。受講者の皆様には「新型コロナウイルス感染防止に向けた学生の行動指針」（本学ホームページ <https://www.u-fukui.ac.jp/covid19/> 参照）に沿った行動の徹底をお願いします。

特に次の点についてご留意願います。

- (1) 健康チェック表（本学ホームページ <https://www.u-fukui.ac.jp/covid19/> 参照）により、明日以降、毎日の健康チェックを行ってください。
- (2) 基本的に学内ではマスクを着用し、食事時など、マスクを外す際は会話をしないようにしてください。
- (3) 教室に入室する際は、手指消毒薬により消毒してください。
- (4) 発熱・咳・全身倦怠感等風邪様の症状がみられる場合や罹患者・濃厚接触者の疑いがある場合等は、来学せず自宅で休養してください。
- (5) ワクチンの接種を心がけてください。
- (6) 県内や学内の感染状況によっては、休講措置等により登学できない場合があります。その際はメールでお知らせしますので、常にメールの確認をお願いします。
- (7) 県外在住の方は、福井県へ移動する1週間前から体調管理、健康観察を徹底し、なるべく授業開始（10月1日（土））の1週間前には福井県に移動してください。
また、他県から帰福した場合、または海外から帰国したときは、10日間は活動を控え、健康チェック表により注意深く健康観察を行ってください。

⑤授業実施時における授業環境の配慮

(イ) 3密の回避

3密を回避するため、次の取組を徹底した。

資料5-6：取組内容

- 「密閉」の回避（換気の徹底）
 - ・授業中の講義室は常時換気を行い、気象条件等により困難な場合でも30分に1回以上、数分間程度を目安に換気を行う。また、講義室に換気扇等が備わっている場合は、常時稼働させる。

- ・窓のない講義室は、常時出入口を開ける、換気扇（扇風機・サーキュレーター）を用いるなどして十分に換気に努める。
- 「密集」の回避（身体的距離の確保）
 - ・講義室では、受講者の間隔を可能な限り空ける（1メートルまたは一つおきに着席）など「密室」を回避し、収容可能人数以下での授業を実施する。
- 「密接」の回避（マスクの着用）
 - ・講義室には、教卓用アクリル板を設置する。
 - ・授業担当教員等及び受講者は、常時マスクを着用する。教員等は、必要に応じてフェイスシールド等の代替措置を行う。

（ロ）オンライン授業の活用等

受講者には、情報技能習熟度など初期のスキルに個人差があるため、事前学習用に準備したワード、エクセル、パワーポイント等のオンデマンドコンテンツをいつでも視聴できる環境を構築して、感染予防と教育の質の保証とを並行して担保した。

（3）修学・生活上の配慮及び注意喚起

①修学・生活上の配慮及び注意事項に係る周知、実施

9月22日（木）に実施した受講者オリエンテーションの「受講者に係る生活上の留意点」の中で、受講者の修学・生活上の配慮、注意事項を説明し実施した。

資料5-7：当日配付資料（抜粋）

2. その他	
（1）10月1日（土）に受講者証をお渡しする予定です。受講者証は本プログラムの受講者であることを証明するものですので、来学時は常時携帯してください。	
（2）受講者への連絡は、 <u>基本的にメールで行います</u> ので、常にメールを確認するようお願いいたします。台風等により休講する場合もメールにより連絡します。	
（3）やむを得ない事情により自家用車で入構することを認められた方を除き、基本的に公共交通機関等を利用して登学してください。	
（4）下記の日時に図書館の利用が可能ですのでご希望の方は、図書館の出入りロカウンターにおいて、入館のための必要な手続きを行ってください。資料の貸出も可能ですので、平日の17時までカウンターで利用カード発行の手続きを行ってください。	
（開館時間）	
平日	9：00～22：00
土・日・祝日	13：00～16：00

- (5) 生協の営業時間は下記の福井大学生協同組合のホームページ及びツイッターにて周知されていますので、各自ご確認ください。なお、お弁当は教室で食べていただいて結構ですが（ただし、パソコンルームを除きます。）、ゴミ等の後始末をきちんと行ってください。
- <http://www.fu-coop.or.jp/>
- (6) 授業は全体で136時間以上の履修が必要となりますが、病気等によりやむを得ず欠席する場合は、必ず地域連携推進課（メール：hrep@ml.u-fukui.ac.jp）に速やかに（なるべく事前に）連絡してください。なお、やむを得ない理由により欠席する場合でも一つの授業科目の授業時間の3分の1以上欠席しないよう留意して授業に臨んでください。
- (7) 構内は禁煙です。なお、喫煙所はありません。
- (8) 授業で使用する教室がある建物以外には、基本的に立ち入らないようお願いいたします。
- (9) UIターン者については、交通費の支援のほか、移住に伴う支援もありますので、福井県のホームページ等で確認してください。
- (10) 一部の科目を除き、受講者の皆様のほかに5～30名程度の部分受講者も一緒に授業を受けますので、ご留意ください。
- (11) 文科省提出用の事業報告書を作成する上で必要となるため、授業風景の写真を撮影させていただくことがありますので、ご了承ください。
- (12) 授業の課題は、所定のフォルダーに提出していただきます。フォルダーについては、後日、メールでお知らせします。
- (13) 企業インターンシップに関する受入企業と受講者の皆様とのマッチングについては、今後手続きを進めていきます。受講者の皆様への問合せ、連絡等はメールで行ってまいりますので、常にメールの確認をお願いします。
- (14) 受講者の皆様の就職・転職支援については、県内ハローワークと連携・協力の下、実施してまいります。そのため、まずはハローワークで求職登録を行っていただくことが必要不可欠ですので、ご協力願います。

②課題提出等に係る共通ファイルの設定

授業担当講師が事前に授業用資料を本学に送付する際や受講者が授業課題を提出する際等に、ファイル容量が大きいためメールによる送付・提出が困難な場合も想定されるため、共通ファイルを設定し講師や受講者が容易にアップロードできるように配慮した。

(4) 事業実施委員会の開催

当事業・プログラムを円滑に進めるため、県内の産学官金の関係者で構成する事業実施委員会を開催し、受講者確保の方策、プログラムの開発・実施、就職支援・

成果物の検証等の重要事項について検討・実施した。

①開催状況

○第1回委員会

- ・日時：令和4年8月26日（金）Web会議
- ・議事：1. 事業概要について
2. 受講者募集要項等について

○第2回委員会

- ・日時：令和4年9月14日（水）Web会議
- ・議事：1. プログラム受講に係る合否判定について

○第3回委員会

- ・日時：令和4年11月22日（火）書面会議
- ・議事：1. プログラム進捗状況について

○第4回委員会

- ・日時：令和4年12月22日（木）書面会議
- ・議事：1. プログラム進捗状況について

○第5回委員会

- ・日時：令和5年1月12日（木）書面会議
- ・議事：1. プログラム修了判定について

○第6回委員会

- ・日時：令和5年2月3日（金）Web会議
- ・議事：1. 事業実績報告書の提出について
2. 事業の振り返り及び次年度の取組について

○第7回委員会

- ・日時：令和4年3月 日（ ）書面会議（予定）
- ・議事：1. 就職状況について

(5) 受講者アンケート（中間・最終）の実施

①中間アンケート

プログラム前半（10月）が終了したことを受け、受講者の意見を踏まえ後半（11月）の授業改善に活かすため、次のとおり受講者アンケート（中間）を実施した。

○アンケート期間：10月30日（日）～11月9日（水）

○対象者数：33名（34名中1名が就職先決定のため11月5日（土）以降の受講を辞退）

○回答者数（率）：28名（85%）

○質問事項・回答：要約版のとおり（資料5－8参照）

○結果を受けた対応：

結果の概要及び意見・要望を踏まえた改善実施内容を取りまとめ、受講者にメールで送付した。(資料5-9参照)

資料5-8：中間アンケート結果（要約版：抜粋）

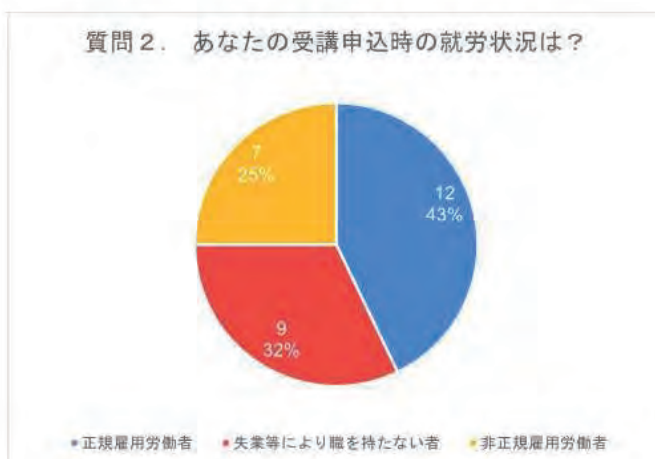
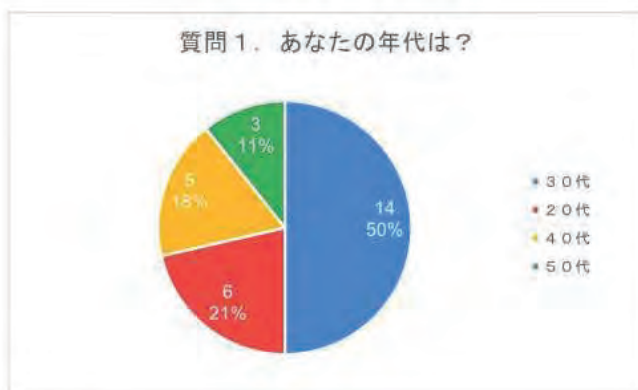
アプレンティス受講者アンケート（中間）結果

実施期間：令和4年10月30日～11月9日

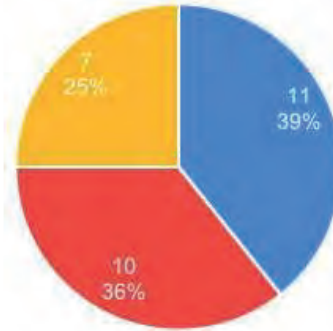
対象者：正規受講者33名

回答者数：28名（回答率84.8%）

実施形式：Google フォームを利用したWebアンケート方式

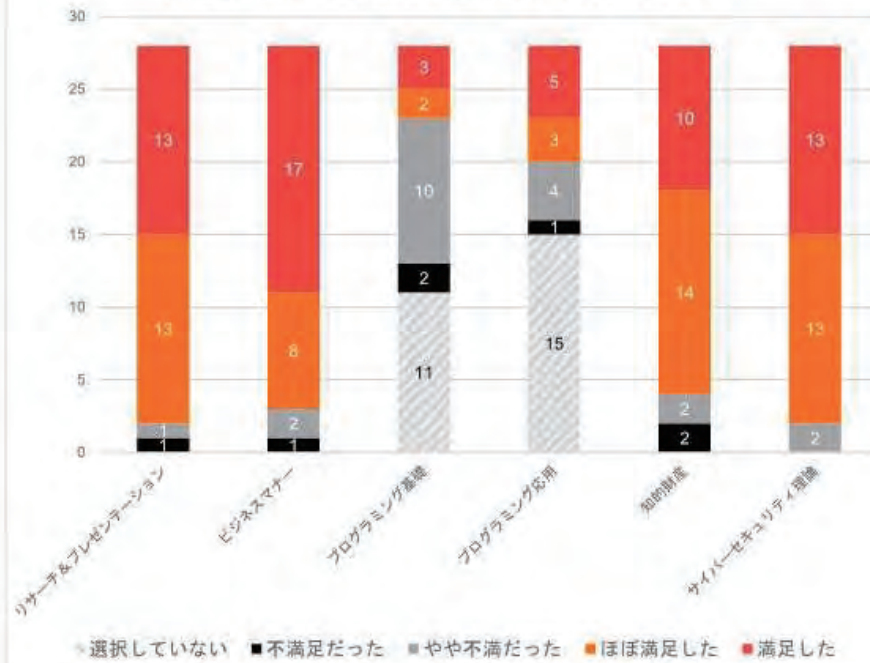


質問3. あなたの現在の就労状況は？



■ 正規雇用労働者 ■ 失業等により職を持たない者 ■ 非正規雇用労働者

質問4. 授業に対する満足度についてご回答ください。



■ 選択していない ■ 不満足だった ■ やや不満足だった ■ ほぼ満足した ■ 満足した

質問4-1、4-2。「満足した」「ほぼ満足した」を選んだ科目名とその理由をお書きください。(主な意見を抽出)

○リサーチ&プレゼンテーション

・実際自分で何か事業を始める時や、商品を開発するときなどにどのような手順で進めるといいのかわかり、すぐくためになった授業でした。

○ビジネスマナー

・今更ビジネスマナーか、と全く期待していなかったが、講師の豊富な経験談と自分の性格判断など、私が新人時代と比べ全く違うビジネスマナー講義だった。40代だが参考になった。

○プログラミング基礎

・独学でやるよりも、わからないところは適宜質問で解決できるのでよかった。メールでの質問や、わからないところを授業外でのスライドや動画で親身に解説してくれてありがたかった。

○プログラミング応用

・分かりやすく説明し、できるだけ技術をたくさん教えることを重点にされていてよかったと感じた。

○知的財産論

・普段自分が何気なく使っているもの、目にしているものの権利について学ぶことができ、思わぬところで権利侵害してしまう可能性があるということを知り、気を付けようと思うことができました。

○サイバーセキュリティ理論

・苦手意識を持っている分野だったが、現代人として最低限知っておくべき知識ばかりでためになった。勉強の目的としても、社会人の最低限のスキルとしても、ITパスポートの試験を受けてみたいと感じた。

質問4-3、4-4。「不満足だった」「やや不満足だった」を選んだ科目名とその理由をお書きください。(主な意見を抽出)

○ビジネスマナー

・特に真新しい情報はなく、面白みに欠けた。マナーは必要ないとは思わないが、一方で日本企業の社内も昔よりもルールが緩くなり、実態とそぐわない教えもあるのではないかと感じる部分も多かった。

○プログラミング基礎

・講師の教え方はよかったけれど、もっと実技…実際プログラミングをする時間を増やしてほしいと思った。もっと練習問題的なものがあつたらよかった。プログラミングは言葉で聞くより場数を踏むものだと思っていたから、尚更そう思った。

○プログラミング応用

- ・仕組みや特徴もいずれ必要となる知識ではあるが、何か一つでも使いこなせる程度の指導を受けたかったのと、いろんな角度からの説明や方法の変更が多く、目の前の進捗状況とズレがあり混乱が生じた。

○サイバーセキュリティ理論

- ・授業が詰め込みすぎな感じがしました。

質問5. その他プログラムに関し、自由に意見をお書きください。（主な意見を抽出）

○プログラム内容、カリキュラム編成、スケジュール等

- ・休日みっちりの講義と出される課題で平日も忙しいですが、どの講義内容もすごく面白く(正直プログラム受ける前は、ビジネスマナーやプレゼンテーションはあまり期待していませんでした…)、現代社会において必須だと身に沁みて感じました。どの講師の方々も短い講義時間内に凝縮してたくさんの知識を教えようと、質問にも丁寧に答えてくれたり、充実した講義資料を準備してくださったりととてもありがたく感じます。11月からも引き続き頑張りたいです。
- ・最初はDXと関係あるの?という授業もあったが経験してみることで新たな自分の側面にも気づき、仕事に対しても違う視点でみる癖ができた。ビジネスマナーの講義にあったように前回の振り返りを発表する方式は良い。1週間あとに発表しないといけないので授業で学んだ事を意識して行動するようになる。
- ・キャリア概論で復習することで、更に理解が深まり、他の人とのコミュニケーションをとるきっかけになっています。
- ・全てのプログラムに関して、日程的な事情だとは思いますが、詰め込みすぎに感じます。2ヶ月間とは言わず、3~4ヶ月かければ、より習熟度を増すことができると思います。

○授業環境等

- ・食事をとるための別部屋を用意していただけてありがたいです。
- ・マイクを使用しない場合は、スクリーン側を向いて話されると、ほとんど聞き取れないことが時々ありました。
- ・ビジネスマナーのCクラス廃止による授業時間繰り上げ、とても助かりました。

○企業インターンシップと事業化可能性調査

- ・インターンシップをプログラムの一環として行うことに、どれだけ主催者が重点を置いて取り組んでいるのかが分からない。受講者と主催者側で重さの違いを感じる。インターンシップがその企業への就職につながる可能性があるのであれば、受講者に希望アンケートなどを実施してもらえれば、希望が通らなくとも納得できると思います。
- ・事業化可能性調査は外部講師の方々の説明が分かりやすく、普段できない経験をさせて頂けてとても為になっている。ついていくのが大変だがやりがいがある。

資料5-9：中間アンケート結果への対応

令和4年11月15日

受講者の皆様へ

福井大学

産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（DX人材養成）に係る受講者アンケート（中間）の結果に基づく対応について

この度は、標記受講者アンケート（中間）にご協力いただき、ありがとうございました。

満足したとの意見の一方で、改善・要望意見も種々いただきました。至らない点があったことについてはお詫び申し上げます。いただいた意見を踏まえ、改善できるものは速やかに対応するなど、今後下記のとおり取り組んでいきたいと思っております。

受講者の皆様におかれては、引き続きプログラム受講に真摯に取り組んでいただきますよう、よろしくお願いいたします。

記

1. 授業満足度について

（ご意見等）

マナーだけでなく人としての生き方も学ぶことができた（ビジネスマナー）、非常に体系的で初学者にも分かりやすく資料も綺麗にまとめられていた（サイバーセキュリティ理論）、スライドがビジュアルでとても分かりやすく、また実践形式の講義がよかった（リサーチ&プレゼンテーション）など、全体的に高い満足度が得られましたが、一方でプログラミング関連授業などについては、授業の進め方や難易度等について改善意見があり、やや満足度が低い結果となりました。

（対応）

授業の内容・進め方等に関するご意見については、例えばプログラム準備段階において、担当講師が集まって検討・調整する機会を設けるなど、次年度以降の取組に活かしていきたいと思っております。

2. プログラム全般について

（1）カリキュラム編成について

（ご意見等）

プログラムスケジュールがハードで詰め込みすぎである、昨年度のように選択科目があるとよかった、遠方の受講者に配慮したオンライン授業を増やしてほしい、DX人材の創出を目的とするならそれに沿った授業をもっと増やしてほしい、等々。

（対応）

カリキュラムの編成に関するご意見については、職業訓練の一環として実施していることによる制度上の縛り（授業時間は1ヶ月60時間以上、プログラム実施期間は2ヶ月以上、対面授業が基本、選択科目の設定は不可など）により対応できないものもありますが、次年度以降の取組に活かしていきたいと思っております。

(2) 授業環境について

(ご意見等)

- ・講義時間の変更等はあまりない方がよいし、またその連絡は早めに行ってほしい。
- ・教室の室温管理を適切に行ってほしい。
- ・講師の声が聞き取れないときがあるため、マイクを使用してほしい。
- ・ホワイトボードの文字が確認できないことがある、等々。

(対応)

ご迷惑おかけし申し訳ありませんでした。可能な範囲で速やかに改善したいと思います。

(ご意見等)

講義資料のデータ配布・事前配布を行ってほしい。

(対応)

この件については、著作権法が絡んできます。資料がデータで配付された授業もあったかとは思いますが、それは授業を行う上で必要であり、かつ著作権法に抵触しない内容であったからか、又は講師ご自身の著作物であり、ご自身がそれを許可されたからかと推察いたします。

一般的に他人の著作物を使用する場合、許可をとり一定の料金を支払わなければなりません。大学の授業など公共性の高いものについては、教室内の学生にのみ紙で配付する場合は情報の拡散が教室内の受講学生に留まりますので、特例的に許可なしで行えることになっています。しかし、オンラインで講義資料を送受信しますと、その情報が世の中に広く拡散する恐れがあるため、事前の許可・料金の支払いが必要になります。

このようなことから、講師の先生方は基本的に紙による資料配付を行っています。事前配布も、授業の1週間前に紙の資料をお渡しできればよいのですが、講師の都合もあり、なかなか対応が困難な状況ですので、どうかご理解願います。

(3) 企業インターンシップについて

(ご意見等)

- ・マッチングが適当であり、インターンシップ先決定までのプロセスが不透明である。インターンシップをプログラムの一環として行うことにどれだけ重点を置いて取り組んでいるのかが分からない。
- ・インターンシップについて、主催者側と受講者側とで重さの違いを感じる。イ

インターンシップがその企業への就職につながる可能性があるのであれば、受講者側に希望アンケートなどを実施してもらえれば、希望がとおらなくても納得できるのではないかと。

(対応)

○趣旨・目的

アプレンティス実習では、文部科学省からの指導（プログラムに、職業意識の向上、実際の業務内容や職場環境の理解を目的とした職場見学・職場体験や企業と連携した PBL を盛り込むこと。）に基づき、企業インターンシップ又は事業化可能性調査を受講することとしています。Q&A（受講ガイドの 23 頁）にも記載のとおり、一般的に企業は他社の社員をインターンシップに受け入れることに支障があると考えられるため、原則として、職業(正規・非正規を問わず)に就いている方は事業化可能性調査を、無職の方は企業インターンシップを受講していただく取扱いとしています。

ただ、企業インターンシップについては、文部科学省の指導にあるように単に就労体験の一環として捉えれば、ある程度受講者の希望を踏まえて機械的に受入企業を割り振ることは可能ですが、就業を最終目標とするこの事業の性格上、本学としては、当該受入企業への就職に結びつけるための有効な手段としても位置付けています。受講者の皆さんも、希望する企業のインターンシップに「参加する」ことが目標ではなく、最終的には当該企業に「就職する」ことを望んでおられるものと思います。

○昨年度実施したプログラムにおける企業インターンシップの状況・課題

昨年度は、まずは受講者にインターンシップ受入希望先をお聞きした上で受入企業とのマッチングを行いました。ただ、この方法によると、皆さんの希望はどうしても一定の人気企業に集中する傾向があり、また企業側にも受入限度人数（1～2名）があるので、皆さんの希望に沿わない企業にも受入を割り振らざるを得ず、また企業の意向に沿わない無理な受入を当該企業に強いらざるを得ないことなどの弊害が生じました。

その結果、就職に結びつく効果的な企業インターンシップとはなり得ず、企業インターンシップ受講者 21 名のうち当該受入企業に就職できた者が 6 名という残念な結果となり、また事業への協力を優先して無理に受講者を受け入れた企業からはマッチング方法に関する改善意見も出されました。

結論として、企業は現役大学生用のインターンシップは毎年準備しているものの、中途採用者用のインターンシップは新たな準備が必要で相当の負担となることもあり、当該受講者を採用する意思がない企業に無理にインターンシップ受入をお願いしたとしても、受講者側、企業側の双方にとって実りあるインターンシップとはならないということが課題として浮かび上がりました。

○昨年度の課題を踏まえた今年度の企業インターンシップの取組

昨年度の課題を踏まえ、今年度のプログラムでは、受講者の希望を聞く前に先ずは受入企業の意向を重視することとし、選考面接時に受入企業の同席を求め、インターンシップ受入の意思（「ある」「十分検討できる」「難しい・ない」）を確認した上で、対象となる受講者の意向を確認の上、受入先を決定しました。

なお、企業側には採用も視野にインターンシップ受入をお願いしていることから、企業側の評価は相当厳しいものとなり、結果として受入を表明した企業や受入人数枠は限られたものとなりました。事前に受講者からインターンシップ受入希望企業を提出してもらったとしても、その希望を叶えることは相当に難しいのではないかという想定が現実のものとなりました。

このような厳しい状況の中で、できるだけ多くの受講者が企業インターンシップを受講できるように企業側と調整した結果、受講者33名中17名のマッチングが成立したという次第です。

○今後の方向性

以上のことから、今年度のインターンシップ受入企業への就職結果も見た上で、企業インターンシップと事業化可能性調査の振り分けについて、どのような方法が受講者の皆さんに納得していただけるのか、いただいたご意見も踏まえて、次年度以降の取組に活かしていきたいと思えます。

なお、今回の振り分けについては、個別にご相談いただければ、可能な範囲で状況説明したいと思います。

○就職支援

今後の就職に関しては、福井労働局・ハローワークと連携しつつ、大学としても可能な範囲で支援を行っていきたく思いますので、適宜ご相談ください。

（参考：昨年度の受講者31名の就職・転職状況）

（1）企業インターンシップ受講者21名

就 職：8名（内、インターンシップ先4名）

転 職：5名（内、インターンシップ先2名）

未 就 職：3名

現職継続：1名

プログラム未修了者：4名

（2）事業化可能性調査受講者10名

就 職：4名

転 職：1名

現職継続：5名

②最終アンケート

プログラムが全て終了したことを受け、プログラムの検証・分析を行うため、次のとおり受講者アンケート（最終）を実施した。

- アンケート期間：12月19日（月）～30日（金）
- 対象者数：33名
- 回答者数（率）：27名（82%）
- 質問事項・回答：要約版のとおり

資料5-10：最終アンケート結果（要約版：抜粋）

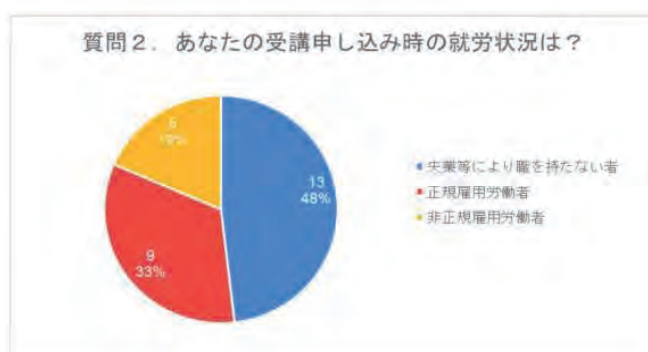
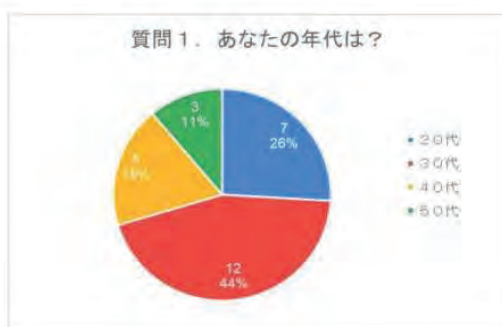
アプレンティス受講者アンケート(最終)結果

実施期間:令和4年12月19日～令和5年1月10日

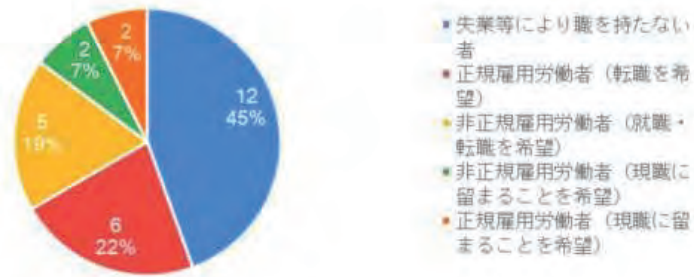
対象者:正規受講者33名

回答者数:27名(回答率81.8%)

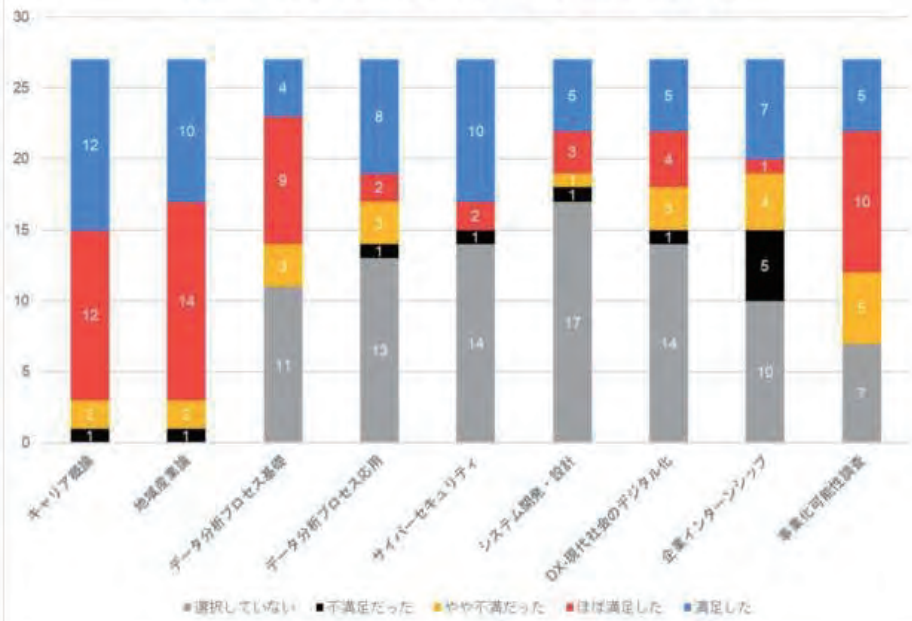
実施形式:Google フォームを利用したWeb アンケート方式



質問3. あなたのプログラム終了時（11月末）の就労状況は？



質問4. 授業に対する満足度についてご回答ください。



質問4-1、4-2。「満足した」「ほぼ満足した」を選んだ科目名とその理由をお書きください。（主な意見を抽出）

- 全体
 - ・全体を通して、よく練られたプログラムだったと実感した。
- キャリア概論
 - ・少人数制で話しやすい雰囲気があり、宿題は多かったが、みんなの前で話す事や文章をまとめる力がついたと思う。インプットとアウトプットができる環境で、他の人の捉え方も異なりとてもいい経験になった。
- 地域産業論
 - ・県内の産業構造や問題点など、全体的なことを学べて、今後の就職に活かせると感じた。
- データ分析プロセス（基礎）
 - ・データの分析方法について実際の統計やエクセルを使用した分析ができて今後仕事で使う事があれば役に立ちそうだった。
- データ分析プロセス（応用）
 - ・データ分析のやり方を学べ、知識や視野が広がったと感じたため。
- サイバーセキュリティⅠ～Ⅳ
 - ・非常に興味のある分野であり、面白かったから。サイバーセキュリティを理解するためには、ネットワークやOS等の基礎知識が要るということも明確になり良かった。
- システム開発・設計Ⅰ～Ⅳ
 - ・初心者が段階的に学べる内容で、良かった。講師の方も、わかりやすい説明だった。
- DX-現代社会のデジタル化Ⅰ～Ⅳ
 - ・知識がほとんどない状態からでも分かりやすく、最終的には身近な問題解決の手段として活用するまで学ぶことが出来たため。
- 企業インターンシップ
 - ・普段は入ることが出来ない会社の企業の環境を見ることができ、そこで働く人に直接話を聞くことが出来たので、仕事に対するイメージが持ちやすくなりとても有意義だった。
- 事業化可能性調査
 - ・新規事業を考えるという特別な機会だったから。考え方を学べたことは経験として良かった。

質問4-3、4-4。「やや不満だった」「不満足だった」を選んだ科目名とその理由をお書きください。（主な意見を抽出）

○データ分析プロセス（応用）

- ・データ分析の一連の流れを体験はできたが、講義期間が短期間のため体験するだけで終わってしまったので、これとは別にデータ分析の基礎理論の講義もあるとよいと思う。また python でのデータ分析を行ったが、プログラミング応用でも python も扱うようにして連携が取れるとよい。

○DX-現代社会のデジタル化 I～IV

- ・どう膨らませていくかだが、より専門的な部分のウエイトを望んでいた。

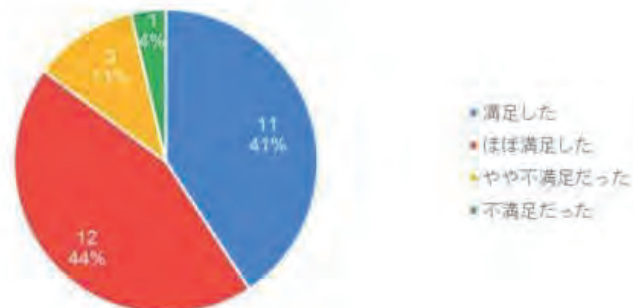
○企業インターンシップ

- ・企業インターンシップに参加できなかったのが残念でした。企業の絶対数が足りていないのか、企業側とのマッチングが上手く働いていないのか、受講者側もインターンシップ先企業を複数の中から選択できるようにすべきである。

○事業化可能性調査

- ・講義中では、作業がほぼできず、自分たちでやりくりしてやらなければならず、仕事に作業するしかなかった。

質問5. プログラム全体に対する満足度についてご回答ください。



質問5-1、5-2. 「満足した」「ほぼ満足した」を選んだ理由をお書きください。（主な意見を抽出）

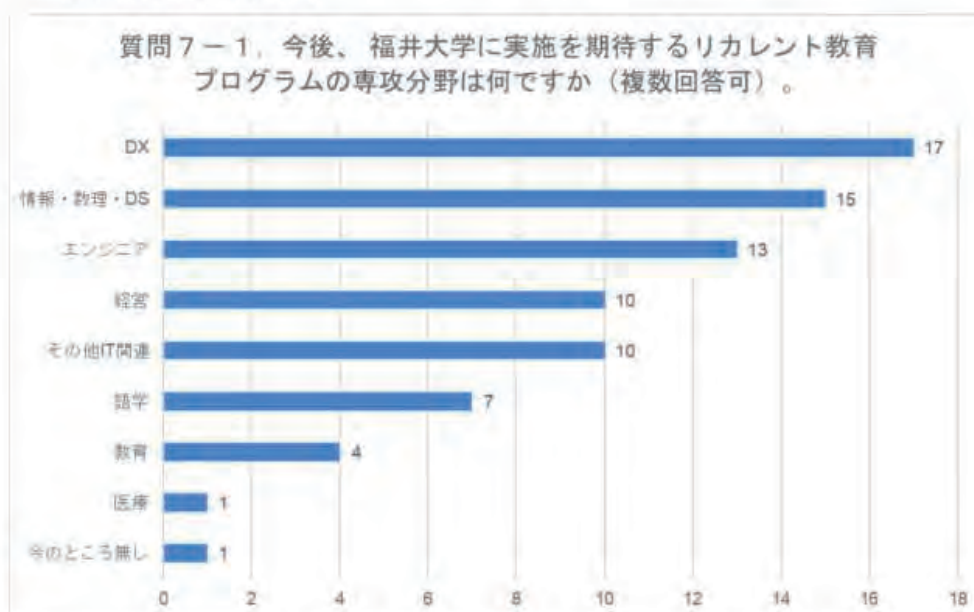
- ・講義内容は充実しており、各自、または受講生同士で議論して進める内容が多く、知識を得るだけでなく、学びを深め、今後活かせる経験が多く得られた。
- ・今後進む方向性を決めるきっかけとなった。自分のやりたいこと、もっと学びたいことを見つけられた。同じ目標を持つ仲間に出会えた。

質問5-3、5-4. 「やや不満足だった」「不満足だった」を選んだ理由をお書きください。(主な意見を抽出)

- ・インターンがもう少し選択肢があると考えていたため。
- ・企業側が必要としている資格(ITパスポートや基本情報技術者等)が取得できるとか、疑似ではなく本当の実務(サーバやネットワーク構築、WEBプログラミングなど)が経験ができるようなプログラムを組み入れた方が有効だったのではないかとと思われる。企業側が求めている人材と本プログラムが育てる人材が、余りにも乖離しているのではないかと。

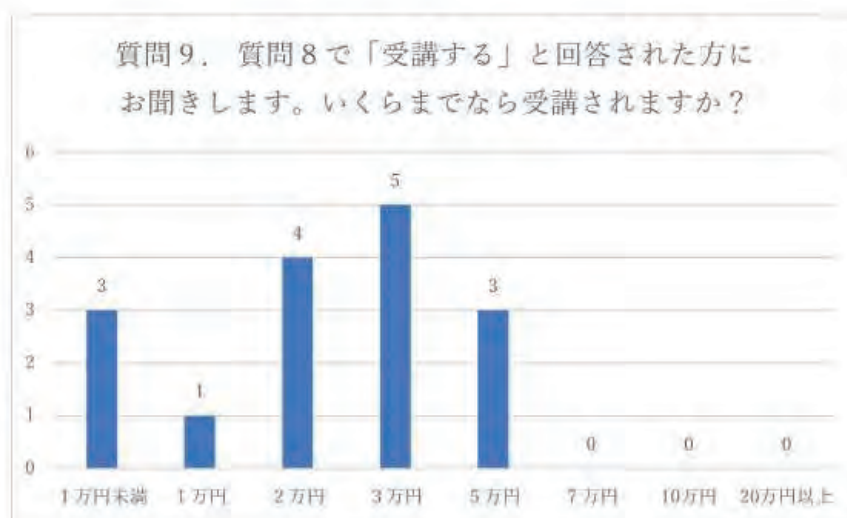
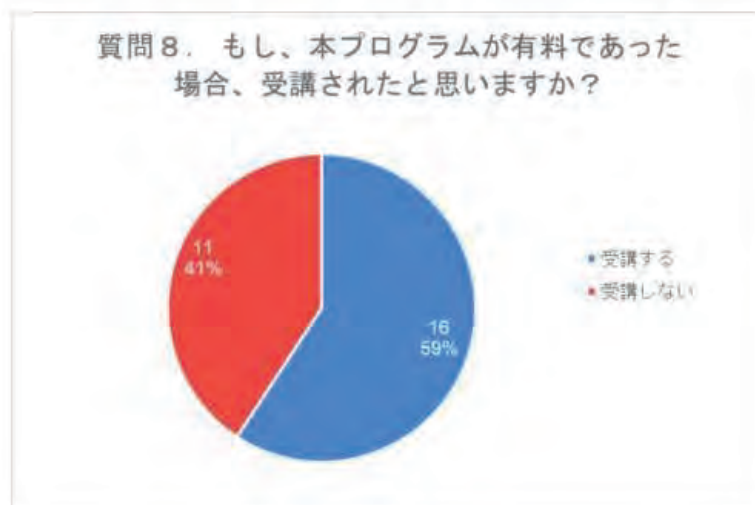
質問6. その他プログラムに関しご自由にご意見をお書きください。(主な意見を抽出)

- ・素晴らしいプログラムだったので、ぜひたくさんの方が受講できるよう年に1度でなく、複数回開講されるのもありだと思いました。周囲の友人も、自分も参加したいと希望している方が多くおります。
- ・次年度以降もよりブラッシュアップされた本プログラムが開催され、福井大学がリカレント教育受講後再就職率ランキングでも、毎年全国1位になるように望んでいます。
- ・在職者には、スケジュールが非常にハードだった。日曜日は休みで、金・土曜日のみの開講など、ゆとりをもたせ、プログラムを3か月くらいの期間だとよいのではないかと感じました。



質問7-2. 前の質問で、「その他IT関連」または「エンジニア」を選択された方は、具体的な分野についてご記入ください。（主な意見を抽出）

- ・サイバーセキュリティや、プログラミングなど
- ・ネットワークエンジニア、インフラエンジニア
- ・ウェブデザインやデータシステムなど
- ・福井の産業にあった、製造や農業系の開発



(6) プログラムの柔軟な見直し

プログラム期間中、特に開始時において、各授業が円滑に行われているのかを注意深く観察した結果、受講者及び授業担当者の意見・要望も参考にして、プログラム途中で次のような見直しを行った。

- 「ビジネスマナー」については、当初10人程度ずつA、B、Cの3クラスに振り分けた。A、Bのクラスの授業は日中（10時～12時、15時30分～17時30分）に行われるがCクラスの授業が夜間（18時～20時）に行われるため、当クラスの受講者の帰宅が遅くなり負担が大きいとの当クラスの受講者からの意見を踏まえ、当クラスの受講者及び授業担当者の了解を得、さらにA、Bのクラスの受講者にも了解を得た上で、Cクラスを廃止しA、Bのクラスに5名程度ずつ振り分けた。
- アプレンティス実習は「企業インターンシップ」、「事業化可能性調査」のいずれか1科目を選択必修であるが、「企業インターンシップ」受講者の一部から「事業化可能性調査」にも興味があり参加したいとの意見があったため、チームへの参加を認め、企業への提案策定・発表をチーム内で協力して行った。

(7) 修了率

受講者によって、情報技能習熟度など初期のスキルに幅があること、年齢や経歴が様々であること、就職を希望する企業種・職種が様々であることなど、プログラム運営が難しい状況に対応するため、次のような手厚い支援を行った結果、受講者34名中33名（97%）がプログラムを修了した（未修了の1名は、県外企業への就職が決定し、就業開始に伴い受講を辞退したものであり、実質的修了率は100%）。

- ワード、エクセル、パワーポイント等スキルを高めるオンデマンドコンテンツを作成して常時視聴することができる環境を構築した。
- 授業時間や休憩時間に質問を受け付ける学生メンターを配置した。
- 中間アンケート結果等を踏まえ、可能なものは速やかに授業環境等を改善した。
- 時間が限られた中でできるだけインターンシップ受入企業と受講者との丁寧なマッチングを行った。
- 少人数クラス・メンタリング体制の「キャリア概論」において、授業の振り返り（発表）及び発表内容に関する受講者・担任教員による意見交換を行い、授業理解度を深めるとともに、受講者同士の様々な情報交換の場となったことが「落ちこぼれ」の防止につながった。

(8) 部分受講者への対応

- 部分受講者の教育については、オンラインの活用による授業担当者や運営担当者の負担軽減も考えられたが、教育の質の低下を招くとの懸念から正規受講者との合同による対面授業を行った。パソコン等の機器も確保するなど、正規受講者と同等の教育の質の担保に努めた。

6. 受講者の就職支援

(1) 就職支援の取組

就職支援については、福井労働局及びハローワークによる就職斡旋のほか、県内経済・金融団体等の協力も得つつ、インターンシップ受入企業への働きかけ等、次のような取組を展開した。

①インターンシップ受入企業への働きかけ

アプレンティス実習の「企業インターンシップ」受講者は、当該受入企業への就職に結びつく可能性が高いため、次のような工夫をして就職の支援に当たった。

(イ) 中途採用の可能性を有するインターンシップ受入企業の確保

「企業インターンシップ」受講者の就職を担保するためには、中途採用のニーズがある一定程度以上の受入企業数を確保する必要があるため、福井大学産学官連携本部協力会会員企業（約 240 社）にアンケート調査を実施し募集するとともに、昨年度のプログラムで受入実績のある企業等に依頼した結果、19 社を確保した（資料 3-10、3-11 参照）。

(ロ) 昨年度のプログラムの課題を踏まえた受講者と受入企業とのマッチング

昨年度のプログラムでは、受講者にインターンシップ受入先に係る意向調査を行い、その結果を踏まえて受入企業とのマッチングを行ったが、この方法によると受講者の希望はどうしても一定の人気企業に集中する傾向があり、また企業側にも受入限度人数（1～2名）があるので、受講者の希望に沿わない企業にも受入を割り振らざるを得ず、また企業の意向に沿わない無理な受入を当該企業に依頼せざるを得ないことなどの弊害が生じた。その結果、就職に結びつく効果的な「企業インターンシップ」とはなり得ず、「企業インターンシップ」受講者 21 名のうち当該受入企業に就職・転職できた者が 6 名と必ずしも期待どおりの結果とはならず、また事業への協力を優先して無理に受講者を受け入れた企業からはマッチング方法に関する改善意見が出された。結論として、企業は現役大学生用のインターンシップは毎年準備しているものの、中途採用者用のインターンシップは新たな準備が必要で相当の負担となることもあり、当該受講者を採用する意思がない企業に無理にインターンシップ受入を依頼したとしても、受講者側、企業側の双方にとって実りあるインターンシップとはならないということが課題として浮かび上がった。

このため、今年度のプログラムでは、受講者に対するこのような意向調査は行わず、まずは受入企業の意向を重視することとし、選考面接時に受入企業の同席を求め、インターンシップ受入の意思（「ある」「十分検討できる」「難しい・ない」）を確認した上で、対象となる受講者の意向を確認し、受入先を決定した。

なお、ミスマッチを防ぐために必要に応じ当該企業と本人との事前面談を経

るとともに、受入企業には、本学担当者が出向き、雇用も念頭においた受入を要請した。なお、マッチングの結果、17名が「企業インターンシップ」を受講することとなった。

(ハ)「企業インターンシップ」受講に向けた留意事項の周知

受講者に対しては、受入企業への就職も視野に受講に当たっての心構え(①なぜその企業を希望したのか、②その企業に就職した場合、プログラムで身に付けたスキル・知識をどう活かしていくのか、また、これまでの自分の経歴・経験をどう活かしていけるのか等を質問された場合の回答を整理しておくこと。)を受講前にメールにより指導するとともに、職歴の浅い又はない受講者に対しては、自分で想定問答を作成し事前に十分に備えておくよう促した。

終了後には、受講者に成果報告書の作成・提出を指示するとともに、受入企業側からの雇用選考への応募案内の有無等を報告させた。

②福井労働局・ハローワークとの連携・協力

(イ) ハローワーク担当者へのプログラム内容の説明

福井労働局及び県内ハローワーク担当者に対し、本事業のプログラム内容や身に付く知識・スキル等のプログラムの理解を深める説明会を開催した。

○日 時：7月19日(火)10:30~11:15

○場 所：ハローワーク福井

○説明者：プログラム開発・事業実施責任者、事業ディレクター、事務担当者

○参加者：福井労働局、ハローワーク福井等の担当者 計7名

(ロ) 就職斡旋強化期間の設定

プログラム終了後の受講者の就職支援のあり方について福井労働局と協議した結果、昨年度と同様に2週間の就職斡旋強化期間(12月1日(木)~15日(木)(2週間))を設けてハローワークにおいて集中的に取り組むこととし、プログラム終了前の11月22日(火)に受講者に次のとおり積極的な活用を周知・要請した。

この周知・要請の結果、当期間のハローワークへの訪問・相談者数は9名(延べ11件)となった。

資料6-1：受講者への周知・要請内容

- (1) プログラム受講者を対象として採用希望企業を募りマッチングの場などを設けたとしても、受講者の経歴や希望職種等が様々であり、企業側のニーズと受講者側のニーズがミスマッチを起こす可能性が高く、むしろ受講者一人一人の事情に合わせて就職斡旋をする方が最も有効な手段であると考えられることから、昨年度同様、ハローワーク

- を窓口とした相談を中心に就職支援を行っていくこととしたこと。
- (2) 12月1日(木)から15日(木)までを強化期間として実施するので、必ずその期間内にハローワークを訪問してほしいこと。なお、強化期間後も就職斡旋は継続していくこと。
 - (3) 就職斡旋強化期間については、これまで実施してきた取組に比べてなにか特別なことを行うわけではないが、プログラム受講後の受講者の就職に関する意識の変化等も含め現状を確認した上で、この期間に集中的にハローワークで相談を受け付けること。
 - (4) 既にハローワークに求職登録・相談している受講者も、改めて必ずこの期間に訪問してほしいこと。
 - (5) 月初めは一般の訪問者も多くなり、時間についても昼前や閉庁時間直前は避け、仲間でまとまることなく分散して訪問してほしいこと。
 - (6) 求職登録をしていない受講者は、事前にパソコン又はスマートフォンを使い「ハローワークインターネットサービス」から、必ず求職登録を完了してから訪問してほしいこと(相談の場で行うこととなった場合、登録に20~30分要し、十分な相談時間の確保ができなくなるため)。
 - (7) 訪問する際は、本学から提供した受講者証を携帯し、プログラム受講者であることを告げてほしいこと。

③福井大学独自の取組

本学と教育研究面で連携・協力している企業との様々なつながりを活用した本学独自の企業紹介を行った。また、当プログラムの評判を聞いて、採用希望の意向を表明した企業数社の紹介を行った。さらに、本事業に協力している金融機関関連の人材紹介会社の協力を得て、当社への求職登録の案内を行った。

④自主的活動

上記までの取組のほか、自分自身で人材紹介企業に登録を行う等、相応しい企業を探し出し、就職活動を行う受講者もいた。

⑤キャリアコンサルティングの実施

(イ) ハローワークの取組

ハローワークでは、プログラム受講申込時、受講中、受講後の就職斡旋強化期間等において、相談に来た受講者に対する就職意識、キャリア形成に係る意識付けなどを行った。9月22日(木)に実施した受講者オリエンテーションでもハローワーク福井の担当者が説明者として参加し、受講者全員に対し最寄りのハローワークで求職登録を行うよう指導しており(資料5-1参照)、必

要に応じ各受講者がハローワークに出向き、キャリアコンサルティングを受けた。全ての授業が終了した後に設けた就職斡旋強化期間（12月1日（木）から15日（木）まで）においては、ハローワークを訪問・相談した受講者9名（延べ11回）がキャリアコンサルティングを受けた（資料6-1参照）。

（ロ）「企業インターンシップ」受講に向けた留意事項の周知

インターンシップ受入企業への就職も視野に受講に当たっての心構えを受講前にメールにより指導するとともに、職歴の浅い又はない受講者に対しては、自分で想定問答を作成し事前に十分に練習するよう促した。（上記①の（ハ）

「企業インターンシップ」受講に向けた留意事項の周知」参照）。

（ハ）「キャリア概論」における取組

「キャリア概論」では、5～6名の少人数クラス分けによるメンター制を取り入れ、毎回受講者一名が、インターンシップ受入企業等、特定の企業の調査・分析及び発表を行い、他の受講者も交えて、当該企業を調査対象とした理由、就職希望の有無、就職に向けてのこれまでのキャリアやプログラムで学び身に付けたスキル・能力の活かし方等について意見交換する中で、キャリア形成のヒントを得、また他の発表者の経験を自分の今後を活かす機会となり、実質を伴ったキャリアコンサルティングの場となった。

（2）就職率、就職・在職率及び新規就職・転職者数

①就職率

就職率の数値目標は75%とした。上記（1）の取組の結果、修了者33名のうち、受講開始時に非正規雇用労働者である者及び失業者等の職を持たない者21名に対し就職又は内定を受けた者は5名（正規雇用労働者4名、非正規雇用労働者から正規雇用労働者となった者1名）、その割合は24%（2月3日現在）となり、プログラム修了（令和5年1月20日）後3か月以内の数値目標（75%）の達成に向けて、今後も手厚い就職支援を継続する予定である。

②就職・在職率

就職・在職率の数値目標は87%とした。上記（1）の取組の結果、修了者33名のうち、就職又は内定を受けた者は上記①のとおり5名、転職した者は1名（正規雇用労働者から非正規雇用労働者1名）、受講開始時と同じ職場に在職している者17名、その割合は70%（2月3日現在）となり、プログラム修了（令和5年1月20日）後3か月以内の数値目標（87%）の達成に向けて、今後も手厚い就職支援を継続する予定である。

③新規就職・転職者数

新規就職・転職者数の数値目標は15名とした。上記①のとおり就職者数は5名、上記②のとおり転職者数は1名、合計6名（2月3日現在）となり、プログラム修了（令和5年1月20日）後3か月以内の数値目標（15名）の達成に向け

て、今後も手厚い就職支援を継続する予定である。

(3) その他

①就業先企業アンケート

受講者が就職した企業のうち4社（2月3日現在）に対し、このプログラムにより身に付けたスキル・能力が雇用に至った要因となったか等を質問項目として、プログラム内容の検証・分析を行うとともに、今後のリカレント教育の改善に資するため、次のとおりアンケートを実施した。

○アンケート期間：12月20日（火）～2月3日（金）現在

○回答企業数：4社

○質問事項・回答：アンケート結果のとおり

資料6-2：就業先企業アンケート結果（2月3日現在）

就業先企業アンケート結果（2月3日現在）

1. アンケート期間

令和4年12月20日～本日現在

2. 回答社数

4社

3. 質問事項・回答

質問1. このプログラムはどこでお知りになりましたか。該当する番号を○で囲んでください（複数回答可）。

- (1) 福井大学から聞いた（**2社**）
- (2) ハローワークから聞いた（**1社**）
- (3) 他の企業・経済団体関係者から聞いた
- (4) テレビコマーシャルで知った
- (5) ホームページ、SNSで知った
- (6) 今回雇用（内定）したプログラム修了者から聞いて初めて知った（**1社**）
- (7) その他（ ）

質問2. このプログラムの受講により、ITスキル、ビジネスマナー等の総合的な人間力が育まれたことが、今回の雇用（内定）に至った重要な要因となりましたか。該当する番号を○で囲んでください。

- (1) 非常に重要であった（**1社**）
- (2) 重要であった（**3社**）
- (3) あまり重要ではなかった
- (4) 重要ではなかった

質問3. 雇用（内定）したプログラム修了者の配属部署はどこですか。該当する番号を○で囲んでください。

- (1) 情報処理
- (2) 製造
- (3) 設計
- (4) 企画
- (5) 研究開発
- (6) 事務
- (7) その他（分野： ）
 - 営業（**2社**）
 - EB（エレクトロニックバンキングサービス）担当（**1社**）
 - ICTサービス（エンジニア）（**1社**）
- (8) 未定

質問4. このようなプログラムの受講により、ITスキル、ビジネスマナー等の総合的な人間力が育まれた人材を今後も雇用したいと思いますか。該当する番号を○で囲んでください。

- (1) 思う（**4社**）

(2) 思わない

「思わない」を選んだ場合は、理由をお書きください。

質問5. 今回のプログラムの内容・レベル等について、意見・要望があればお書きください。

- スキルアップしステップアップの転職を主眼にするならば、ビジネスマナーなどに時間を割かず、専門分野により多くの時間を割く方が効率的ではないか（高度スキル人材を育成する場合には）。(1社)
 - 企業インターンシップにご参加いただいた方2名の積極的な受講姿勢は目を見張るものがあり、受講者のDXスキル習得にたいする意欲の高さを感じました。また企業インターンシップに至るまでの、スタッフの方々の熱意やプログラム全体が素晴らしいのではないと感じています。今回はこのような機会をいただきまして、誠にありがとうございました。(1社)

質問6. 今後、福井大学に実施を期待するリカレント教育プログラムの専攻分野は何ですか。該当する番号を○で囲んでください（複数回答可）。

- (1) DX (2社)
- (2) 情報・数理・データサイエンス
- (3) その他IT関連(分野:)
- OSE (1社)**
- (4) 教育
- (5) 医療
- (6) エンジニア(分野:)
- (7) 経営 (1社)
- (8) 語学
- (9) その他()

②就業先企業・企業インターンシップ受入企業の担当者と就業者等との意見交換会の開催

受講者が就職した企業や企業インターンシップ受入企業の担当者を招いて就業者やプログラム実施関係者と意見交換を行い、プログラム内容の検証・分析を行うとともに、今後のリカレント教育の改善に資するため、次のとおり意見交換会を開催した。なお、意見交換の内容を深めるため、昨年度のプログラム修了者1名にも参加を依頼した。

資料6-3：意見交換会の概要

1. 日時

令和5年1月20日（金）

20時20分～20時50分

2. 場所

総合研究棟 I（西館）13階会議室（文京キャンパス）

3. 次第

プログラムに関し、参加者によるフリートーク

4. 参加者

- ・プログラム修了者、昨年度のプログラム修了者
- ・事業責任者、事業副責任者、プログラム開発・事業実施責任者、事業実施委員会委員、キャリア概論クラス担任等
- ・就業先・企業インターンシップ受入先企業の担当者



7. プログラムの目標達成状況

(1) 開設するプログラム数：1プログラム（目標）⇒1プログラム設置（結果）

産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（DX人材養成）1プログラムについて、令和4年9月5日に正規受講者の申込受付を締め切り、令和4年10月1日から2か月の講義期間を経て、令和5年1月20日の修了証授与式をもって終了した。

(2) 受講者数：30名（目標）⇒34名（結果）

事業実施委員会が労働局・ハローワークや福井県産業労働部と連携し、地域の失業者や転職希望者へ呼びかけを行うとともに、福井県交流文化部を通じて都市圏のUIターン希望者などを幅広く募った結果、募集人員30名を大幅に上回る60名の応募があった。受講申込者には、受講者としての意欲・資質等を確認するため選考面接を行い、最終的に事業実施委員会で34名の受講者を決定し、目標を達成した。当初受講者34名中33名がプログラムを修了した（1名は、プログラム途中で県外企業に就業開始日が決まったため、途中で受講を辞退した）。

(3) 部分受講者数：300名以上（目標）⇒応募者数155名、受講者数123名（結果）

部分受講について、受講可能な科目を指定し、企業等に勤務しながらスキルアップを目指す者も対象とし、募集要項、事業案内チラシ、専用ホームページ等により募集人員の確保に向けた広報を展開した。また、正規受講者募集との混乱を避けるため、募集期間を正規受講者募集期間終了後からとするとともに、専用ホームページに受講申込フォームを掲載し申込手続きの簡素化を図った。

このような取組の結果、数値目標の300名には届かなかったものの、155名の申込者、123名の受講者があった。

(4) 就職率：75%以上（目標）⇒24%（結果）（令和5年2月3日現在）（数値の上方修正部分は独自目標（公募時指定67%以上））

就職・在職率：87%以上（目標）⇒70%（結果）（令和5年2月3日現在）（数値の上方修正部分は独自目標（公募時指定80%以上））

新規就職・転職者数：15名以上（目標）⇒6名（結果）（令和5年2月3日現在）

受講者の選考面接では、受講者の就業を見据えて、企業に経営者又は人事担当者の同席を依頼し、雇用する側の視点を反映した受講者の選考を行った。また、プログラムでは、地域企業や福井県担当部署からの講師による地域の産業や企業理解を促す科目を多く取り入れるとともに、地域企業での就業体験や企業事情に沿った事業化可能性調査を取り入れるなど、プログラム終了後の円滑な就業を見据えた工夫を行った。労働局・ハローワークとも密接に連携し、プログラム受講者一人一人の要望や事情に寄り添った手厚い就職支援を展開した。

この結果、令和5年2月3日現在で、就職率算定の対象となる失業者・非正規雇用労働者21名のうち5名（24%）の就職が決定していること、就職・在職率算定

の対象となる修了者 33 名のうち 23 名（70%）の就職・転職・在職が決定していること、また上記 5 名の就職者のほかに 1 名の転職者、合計 6 名の新規就職・転職が決定していることから、プログラム修了後 3 か月以内を目途に目標値の達成に向けて今後も手厚い就職支援を継続していく予定である。

（5）受講者満足度：90%以上、就業先企業満足度：90%以上（数値の上方修正部分は独自目標（公募時指定 80%以上））

受講者の情報技能習熟度など初期のスキルに幅があるため、全員がプログラムを円滑に受講できるように、ワード、エクセル、パワーポイント等スキルを高めるオンマンドコンテンツを事前に準備し、いつでも視聴できる環境を構築するとともに、情報リテラシーに関する講義アシスタントを本学学生が担当し、「キャリア概論」では少人数クラス分けを実施した。また、アプレンティス科目では「サイバーセキュリティコース」と「システム開発コース」「DX－現代社会のデジタル化コース」の 3 コースに分け専門性を磨いた。このようにスキルの確実な定着を図り、受講者と企業の双方の満足度を高める取組を展開した結果、プログラム終了後の受講者及び就業先企業に対する満足度アンケート調査では、修了者 33 名のうち回答した者 27 名中「プログラム全体に対する満足度」について「満足した」「ほぼ満足した」が 23 名（85%）となった。

また、就業先企業は回答 4 社（令和 5 年 2 月 3 日現在）中「このプログラムの受講により IT スキル、ビジネスマナー等の総合的な人間力が育まれたことが、今回の雇用に至った重要な要因となったか」について「非常に重要であった」「重要であった」が 4 社（100%）となった。

受講者側の満足度について、公募要領に示された目標の 80% は上回ったものの、独自に設定した目標値 90% を下回る結果となった。主に授業の難易度および課題の多さと、インターンシップのマッチングに不満が顕在化していた。授業については昨年度と同内容の部分（または昨年度受講者が評価した部分）に今年度受講者の新たな不満が生まれており、年度による受講者特性をみた修正を要することが明らかになった。一方で、インターンシップのマッチングに関しては、昨年度事業を踏まえ、令和 4 年 3 月に収集した地域企業向けアンケート結果を強く反映した今年度事業の制度設計が、企業側満足度の向上と受講者満足度の独自目標未達に関係したと思われる。

資料 7-1 : 昨年度と今年度の受講者（応募者）属性の違い

福井大学「私の」職業再構築支援プログラム（実施内容）

申請プログラム名：産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（DX人材養成）



	2021年度	2022年度	備考
受講者募集分野	IT人材育成 (サイバーセキュリティ ・システム開発)	DX人材育成 (サイバーセキュリティ・システム開発 設計・DX現代社会のデジタル化)	2コースから 3コースへ
募集人数／応募人数	計30名募集／57名応募 (31名受講)	計30名募集／60名応募 (34名受講)	応募比105.3%
(内訳) 20代以下	14名受講／20名応募 受講認定70.0%	9名受講／13名応募 受講認定69.2%	第二新卒世代
30代	11名受講／15名応募 受講認定 73.3%	15名受講／20名応募 受講認定 75.0%	即戦力世代?
40代	4名受講／9名応募 受講認定 44.4%	5名受講／8名応募 受講認定 62.5%	即戦力世代?
50代以上	2名受講／13名応募 受講認定 15.4%	5名受講／19名応募 受講認定 26.3%	地域企業とのマッチ が難しい世代
修了者／受講者	修了者27名／受講者31名 修了率87.1%	修了者〇名／受講者34名 修了率〇%	22年度未確
修了者に対する就業者	24名 (就転職17名、継続7名) 88.9%	〇名 (就転職〇名、継続〇名) 〇%	22年度未確
受講者満足度	93% (修了生27名中25名が肯定回答)	〇% (修了生〇名中〇名が肯定回答)	22年度未確

(6) U・Iターン受講者数：8名（目標）⇒申込7名、受講5名（結果）

自治体と連携し、県が有する福井県出身の都市部在住者のメーリングリストでの呼びかけや、都市部での受講説明会を行った結果、目標には届かなかったものの、一定の成果を得た。本結果は、今後も本事業を行う過程において、県の協力を得るための成果となる。

8. 事業の成果・課題

(1) 事業の概要

①成果

大きなトラブルもなく、概ね次のとおり当初の予定どおり事業を展開することができた。なお、様々な数値目標の達成状況については「7. プログラムの目標達成状況」を参照。

○3～4月の主な取組

- ・福井大学産学官連携本部協力会会員企業（約240社）に対し、プログラム内容や中途採用のニーズ、インターンシップ受入の可否等に関するアンケートを実施し、プログラム策定の参考にするとともに、一定数のインターンシップ受入先企業を確保することができた。
- ・事業に連携して取り組む福井県、福井労働局、地域経済団体等に対し、昨年度実施したプログラムの課題も踏まえた上で、事業の円滑な運営を図るための具体的なスケジュール・協力内容を提示して事業協力の要請を行い、了解を得た。特に、福井労働局とは、昨年度のプログラムにおいて、プログラム運営に追われ必ずしもスケジュールに沿った計画的な受講者の就職支援ができなかった課題を踏まえ、予め具体的な年間スケジュールを作成し情報共有を図った。

○5～7月の主な取組

- ・本格的に授業担当者との授業日程・授業内容等の調整を進め、プログラム内容の精査・確定を行った。また、部分受講者の募集人員、応募方法、受講方法等についても検討し、正規受講者との棲み分けを図るとともに、合同での対面授業を円滑に行うための方策を検討した。
- ・委託事業の契約後速やかに受講者確保に向けた広報を開始できるように、予め事業案内チラシ、受講ガイド、受講者募集要項、専用ホームページ、テレビCM等の広報媒体の準備を進めた。

○8～9月の主な取組

- ・委託事業の契約後速やかに募集を開始するとともに、準備していた広報媒体を活用して広報活動を展開した。その結果、募集人員30名を大幅に上回る応募者があった。
- ・受講申込者に係る選考面接について、「企業インターンシップ」受講者の受入企業への就職の促進を図るため、受入企業の担当者に同席を要請し、企業側の評価も踏まえた上で、受講者を決定した。
- ・プログラムを円滑にスタートさせるため、開始前に受講者に対するオリエンテーションを開催した。その際、キャリアコンサルティングの充実を図り受講者の就業意識を高めるため、ハローワーク担当者によるハローワークの活

用方法に関する説明を行った。

- ・部分受講者について、募集要項、チラシの作成、専用ホームページの活用等を通して、企業の社員を主なターゲットとして募集を行った結果、相当数の応募者があった。

○10～11月の主な取組

- ・受講者の意見・要望を踏まえて、プログラムの途中においても、夜間に授業を行う科目の昼間への授業時間の変更、コロナ禍における休講に伴う補講日の設定等、柔軟に時間割の変更・調整等を行うとともに、中間アンケート結果を踏まえて教室環境等を改善した結果、「企業インターンシップ」を除く全授業を大きなトラブルもなく終了し、また企業への就職が決定したことによる1名の受講辞退者を除き、受講者33名全員が最後まで受講した。
- ・部分受講者について、パソコン等の使用機器の確保等、正規受講者と同等の受講環境を担保した。

○12～1月の主な取組

- ・「企業インターンシップ」を全て終了した。
- ・福井労働局・ハローワークと連携して、就職斡旋強化期間（2週間）の設定、受講者の採用を希望する企業の紹介等、きめ細かな就職支援を行った。
- ・プログラムの検証・分析を行うため、受講者及び就業先企業に対するアンケートを実施するとともに、受講者と就業先企業の担当者による意見交換会を開催した。
- ・「企業インターンシップ」受講者による成果発表会を開催して当科目の認定を行い、受講者33名全員のプログラム修了を認定した。

○2～3月の主な取組

- ・受講者及び就業先企業に対するアンケート結果等を踏まえて、実績報告書・成果報告書を作成した。

○その他

- ・委託事業の契約（8月初旬）後、事業実施委員会をほぼ毎月1回開催して、情報共有、プログラムの見直し等、事業の円滑化を図った。

②課題

- 学内教員を授業担当講師に活用することは通常業務への負荷となるため、インセンティブ供与による財源を含めた支援があることが望ましく、またプログラム実行にあたっては職員の支援も必須であり教職協働という観点からも職員に対するインセンティブも併せて考慮する必要がある。今年度取り組んだ他のリカレント教育プログラムにおけるインセンティブ供与の取扱いも参考にし、具体的検討を進める必要がある。併せて、退職教員の利活用など教員リソースの確保の方策を検討する必要もある。

- 委託事業の契約（8月初旬）からプログラムの開始（10月1日（土））までのスケジュールが厳しく、受講者・運営者双方にとって余裕のないプログラムとなったので、今後はその点に配慮が必要である。
- 職業訓練受講給付金制度により授業時間数を1か月あたり60時間以上とする必要があるが、失業中の者に加え職業を有する転職希望者との受講の両立を図るため、週末を中心としたカリキュラムにせざるを得ない。昨年度実施したプログラムの受講者からの改善意見を踏まえ、プログラム授業時間数を152時間から136時間に削減したものの、正規雇用労働者、非正規雇用労働者を問わず職業を有する受講者にとってはかなりの負担となった。
- 事業の数値目標として就職率を掲げること自体は、事業の趣旨に鑑みやむを得ないこととは思われるが、そのことだけに囚われると事業の本質を見誤る恐れがある。例えば、受講者がインターンシップ受入企業からの採用を断り他の企業にも就職しない事例が数件発生している。これは、必ずしも就職・転職の緊急性や強い拘りがなく、大学が行う高度なプログラムを受講すること自体や自身のスキルアップに重きを置いている受講者が、選考段階でのアンケート調査や面接での質疑をすり抜け、少なからず存在していることを表している。このような状況の中で、率が低いことをもってプログラムの評価が低く見なされかねないことにはやや疑問を感じる。事業の真の効果を測るためには、就職者数の多少よりもむしろ、就職・転職者の追跡調査をすることが重要であり、11月に昨年度のプログラム受講者に対する追跡調査を行ったところである。結果は、例えばプログラム修了後3か月の間に就職した企業の非正規雇用職員が、その後別の企業の正規雇用職員へ就職する等、就労状況のステップアップを実現させた事例が確認できた。また、回答者全員から、プログラムを最後まで仲間と学んだこと、ITの基本スキル・知識、人間力を身に付けたこと等が現在の職場で活かされているとの評価を受けたところである。**（「(7) 昨年度のプログラム受講者の追跡調査」参照）。**
- 正規受講者の教育の質を担保しつつ、さらにその何倍もの部分受講者を受け入れることは、授業担当者、運営担当者にとって負担が相当に大きい。オンラインの活用による負担軽減も検討したが、教育の質の低下を招くとの懸念からやむを得ず対面授業での受入としたこともその大きな要因となった。より収容人数の多い教室や使用するパソコン等の機器の確保、正規受講者募集との混乱を避けるための広報媒体・方法や募集期間等の住み分け、正規受講者も含めた確実な授業の出欠確認、授業の質の担保、部分受講者の授業理解度の把握等、正規受講者の支援に集中できない諸々の負担・課題が生じた。部分受講者の受入自体には賛同するが、相当の予算や人員の措置が必要であろうし、また、正規受講者の募集人員の「10倍程度」という数値目標の設定はやや唐突で無理があ

り、負担のかからない適正な募集人員の設定や受入・教育方法のあり方も含めてさらなる検討が必要である。

(2) 事業の実施体制

①取組の概要

○県内の産（福井県経営者協会、福井大学産学官連携本部協力会、福井大学同窓経営者の会）、学（県内高等教育機関）、官（福井労働局・ハローワーク、福井県）、金（福井県銀行協会）が、各々の役割を果たすとともに、調整・取りまとめ役となる事業実施委員会が中心となって事業を運営した。

②成果

○事業の広報、受講者募集、受講者の選考、プログラムの運営・見直し、企業インターンシップの実施、就職支援等において、事業実施委員会の調整の下、各機関が連携を密にして取り組んだことにより、募集人員を大幅に上回る申込者数、高い修了率、受講者・就業先企業の満足度が得られた。

③課題

○事業を円滑に進め今後も当事業を継続・発展させる上で、受講者に係る就労体験の場を提供し、最終的には雇用する立場にある企業側の本事業に対する理解・協力が必要不可欠である。事業を実施する大学等や関係機関はもとより、国全体として経済界に対する事業への理解を深める取組の積極的な推進が必要不可欠である。

(3) プログラムの内容

① 取組の概要

(イ) 全般

○本事業では、令和4年10月、11月の2カ月間を基本的な教育期間として、就労体験を含め1人当たり136時間の教育プログラムを実施した。

○プログラム策定にあたり、前もって福井大学産学官連携本部協力会会員企業（約240社）に対しプログラムの内容や求める人材養成像等に関するアンケートを実施し参考とした。

○ITに関する専門的なスキル・知識を実践を通して学ばせるため、「サイバーセキュリティ」、「システム開発・設計」、「DX-現代社会のデジタル化」という受講目的をイメージしやすい名称の三つのクラスを設け、それぞれの受入人数を10名程度とし、いずれかのクラスを申込時に選択させた。

○受講者が就職した企業のうち4社（2月3日現在）に対し、プログラム内容の検証・分析を行うとともに今後のリカレント教育の改善に資するため、このプログラムにより身に付けたスキル・能力が雇用に至った要因となったか等を質問項目として、アンケートを実施した。

○受講者が就職した企業及び企業インターンシップ受入企業4社の担当者を

招いて受講者やプログラム実施関係者と意見交換を行ってプログラム内容の検証・分析を行い今後のリカレント教育の改善に資するため、1月20日（金）に本学関係者、事業実施委員会委員を交えて、本学で意見交換会を開催した。

(ロ) 企業インターンシップ

- 「企業インターンシップ」受講者は、当受入企業への就職に結びつく可能性が高く、一定程度以上の受入企業数を確保する必要があるため、上記（イ）の福井大学産学官連携本部協力会会員企業へのアンケートの中で、中途採用のニーズ、インターンシップ受入の可否についても質問を行った上で受入を依頼した結果、19社を確保した。
- 選考面接時に同席した受入承諾企業の担当者の意見（自社へのインターンシップ受入の意思（ある、十分検討できる、難しい・ない））を尊重し、かつ受講者の経歴等も参考にして、各受講者に最も相応しいと考えられるインターンシップ受入企業について本人の意向を確認し、必要に応じ当該企業と本人との事前面談を経て、受入企業を決定した。なお、マッチングの結果、受講者34名中17名が「企業インターンシップ」（全部で10社）を受講することとなった。
- 受講者に対しては、受入企業への就職も視野に受講に当たっての心構え（①なぜその企業を希望したのか、②その企業に就職した場合、プログラムで身に付けたスキル・知識をどう活かしていくのか、また、これまでの自分の経歴・経験をどう活かしていけるのか等を質問された場合の回答を整理しておくこと。）を受講前にメールにより指導するとともに、職歴の浅い又はない受講者に対しては、自分で想定問答を作成し事前に十分に備えておくよう促した。
- 終了後には、受講者に成果報告書の作成・提出を指示するとともに、受入企業側からの雇用選考への応募案内の有無等を報告させた。また、受入企業には、受入期間・研修内容等を記載した受入証明書の提出を要請した。
- 「企業インターンシップ」は、成果を発表し審査に合格することをもって認定（合格）するため、1月20日（金）に受入企業の担当者も参加して成果発表会を開催した。

(ハ) 事業化可能性調査

- 受講者16名及び「企業インターンシップ」受講者のうち受講を希望した2名が3～4名ずつ5チームに分かれ、チーム毎に地域の企業を多面的に分析し、その企業における新規事業について、市場規模、ペルソナ、実現可能性、中期事業計画までの一連の提案を取りまとめ、中間発表会を経て最終発表会で成果発表を行った。

②成果

(イ) 全般

- 受講者・就業先企業アンケート結果から、双方ともプログラムに対する満足度が高いことが伺えた（資料5-10、6-2参照）。

(ロ) 企業インターンシップ

- 受入企業を一定数（19社）確保し、かつ、受講者と受入企業とのマッチングを、時間が制約された中でできるだけ丁寧に行った結果、手続きを概ね円滑に進めることができ、また、「企業インターンシップ」自体も特段のトラブルもなく全員が最後まで受講し、成果報告書も作成・提出できた。

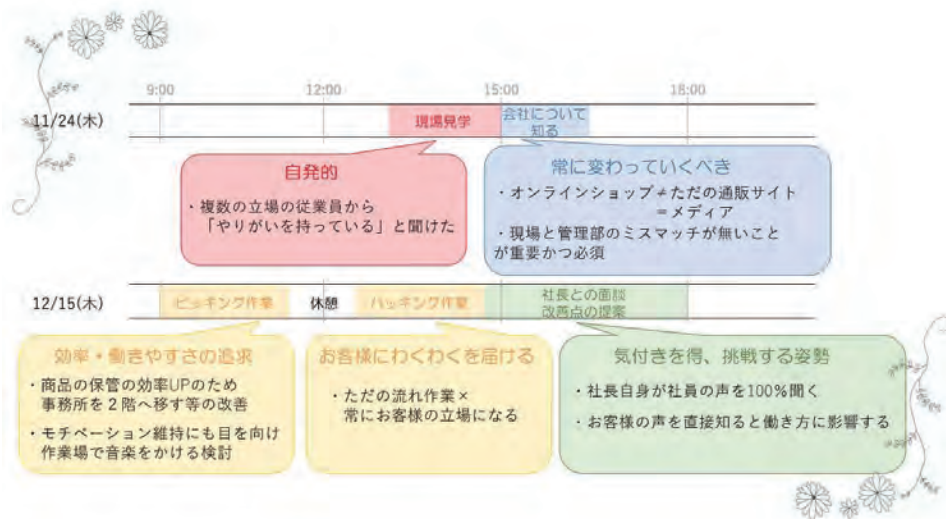
- 成果発表会において、成果報告書及び発表の内容を基に各クラス担当教員が審査するとともに、担当クラス以外の受講者についても相互に内容を確認した結果、受講者17名全員が認定（合格）された。

資料8-1：「企業インターンシップ」成果報告書

インターン報告書		2日目																					
研修内容 1日目 物流センター内の見学と物流センターで行っていること、会社について説明を受けました。 物流センターで行っていること ・商品の検品 ・商品の梱包 ・商品の仕分け ・掲載する商品の撮影 ・各店舗からの返品物の管理（リメイクなど） ・商品の発送	11月24日 タイムライン 13:30 会社 インターンの説明 14:30 会社の説明 15:30 センター内見学 16:30 終了	物流センターで商品のピッキング、梱包、マークダウンを行いました。 ピッキング 区画、産標で管理されている在庫から顧客の注文リスト別に仕分ける。1リストに8人分割り振られており、荷台に集める。 梱包 ピッキングで集め、検品が終わった商品を領収書と一緒に梱包し、伝票を貼る。 マークダウン 値段変更があった商品の値札にシールを貼る。終わっているものを区別するためリストにチェックをする。 ピッキングしたものを集めるカートが8人分(24段)になっていて、集めやすく、運びやすく使いやすかった。																					
	商品の写真撮影室があり、誰でもウェブにアップするのは合理的だと思います。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>12月16日</th> <th>タイムライン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9:00</td> <td>ピッキング(取) 概)</td> </tr> <tr> <td>10:00</td> <td>ピッキング(アクセサリー)</td> </tr> <tr> <td>11:30</td> <td>ピッキング(ほぼ全端)</td> </tr> <tr> <td>11:40</td> <td>昼休憩</td> </tr> <tr> <td>13:00</td> <td>荷物の梱包(計開)</td> </tr> <tr> <td>14:00</td> <td>荷物の梱包(段ボール)</td> </tr> <tr> <td>15:00</td> <td>荷物の梱包(箱、ダンボール)</td> </tr> <tr> <td>16:45</td> <td>宿営</td> </tr> <tr> <td>17:15</td> <td>商品のマークダウン</td> </tr> <tr> <td>18:00</td> <td>終了</td> </tr> </tbody> </table>	12月16日	タイムライン	9:00	ピッキング(取) 概)	10:00	ピッキング(アクセサリー)	11:30	ピッキング(ほぼ全端)	11:40	昼休憩	13:00	荷物の梱包(計開)	14:00	荷物の梱包(段ボール)	15:00	荷物の梱包(箱、ダンボール)	16:45	宿営	17:15	商品のマークダウン	18:00
12月16日	タイムライン																						
9:00	ピッキング(取) 概)																						
10:00	ピッキング(アクセサリー)																						
11:30	ピッキング(ほぼ全端)																						
11:40	昼休憩																						
13:00	荷物の梱包(計開)																						
14:00	荷物の梱包(段ボール)																						
15:00	荷物の梱包(箱、ダンボール)																						
16:45	宿営																						
17:15	商品のマークダウン																						
18:00	終了																						
得られた成果・気づき ・会社の説明を聞いて福井の特産品を市内にあるa.cafeや各店舗(axesfemme)、ウェブサイトでも取り扱っていて、お客さんや服の生産者だけでなく、地元他企業や福井大学の授業などにも深く関わっていて産業の中心になれそうな会社だと思いました。また、人や企業(ビジネスチャンス)と関わりを持つうえで自分(個人も企業も)の情報を発信することは大事だと分かりました。 ・社員として上立つ立場になったら、初心に戻り、現場の声を聞いて改善することが大切だとわかりました(改善することで作業効率が上がったり、作業員のモチベーションの維持にもつながる)。 ・ピッキングや梱包をする時作業自体は一人で行いますが、人に終わったものを引継ぎして仕事を渡していくので、やることをどんな人でも同じようにできるように作業を規格化することが効率を上げたリミスが減らすうえで大事だとわかりました。 ・前職よりも人と話す機会が少なく、作業に集中できるという面では自分に合っているかもしれないと思いました。 ・翌日、立ちっぱで作業していたこともあり筋肉痛になったので、なまってると思い、体を少し鍛えたほうがいいとも思いました。																							

インターン成果報告書

研修内容	2日目
1日目 センターにて、見学と業務内容の説明、会社の事業内容について説明を受けた。 業務内容 ・検品 ・梱包 ・発送 ・在庫管理 ・再生品管理 ・オンラインサイトに掲載する商品の撮影	センターで商品のピッキング、検品、梱包を実際に体験した。 ピッキング 各棚に英数字で番号が振ってあり、在庫管理されている。注文リストと照らし合わせ、指示された番号の商品をピッキングし、8人分で1台車の荷台に商品を入れていく。注文リストのロケ番号と棚番号が合っているか、チェックを入れて間違いないように努めていた。 検品 ピッキングで集めた荷台から商品を出し、傷や汚れ、袋などの破損がないか確認し、梱包用の台車に乗せ換える。 梱包 検品でOKだった商品と納品書と一緒に梱包し、伝票を貼る。顧客の注文数の大小によって、梱包する箱のサイズ、袋の種類を分けていた。
感想 ・今回のインターンを通して、アパレルブランドの店舗だけをメインに売っていくのではなく、オンラインサイトや越前市内にあるを通じてより幅広い顧客層をターゲットにブランド展開している企業なんだと感じました。 ・インターンの中で直接社長とお話させていただく機会もあり、個人のやりたいことにチャレンジする熱意を大切にしている、若い内から店長職などの上のポジションも担っているキャリアパスがあることにも魅力を感じました。 ・社長の考え方が従業員にも浸透していて、新しいことにもどんどんチャレンジしていく社風の影響もあり、従業員同士の仲も良く、働きやすい環境になっていると思います。 ・前職では経験できなかった価値観を知ることができ、転職した際には前向きな姿勢でチャレンジしていくマイルドを持って業務に取り組みたいと思います。	



研修内容

1日目

- ・面談
- ・社内の説明、見学

2日目

- ・ピッキング
- ・梱包
- ・値札の張替え

得られた成果、気づき等

- ・梱包の際、発送先の名前を確認するのだが、国外の人の名前も何人か見受けられた。
→国外からも需要があることがわかった。
- ・さっと研修の説明をされただけだったが、特に困ることなくすぐ作業ができた。
→“誰でもできる仕事を、より誰でもできるように”という考えのもと、どの作業も誰でもすぐできるようにわかりやすく改善している点は素晴らしいと感じた。
→本社での作業自体はアナログが多く、IT化できる部分が多く見受けられたのでその点では、今後も改善し効率化・単純化できると感じた。

研修内容

1日目（6時間）

- ・会社概要・事業内容説明・社内見学
- ・社員向け教育講義の受講
内容：ビジネス思考力について（問題解決へのプロセス）

2日目（6時間）

- ・内定者専用研修の体験
内容：人事評価制度や、就業に関して企業が求める考え方向き合い方について

* 事業内容が通信回線の販売等で、顧客の個人情報を取り扱っている為、事業内容体験等は出来なかった。

感想：計12時間の研修を通して感じたことは、人材教育に熱心に取り組む企業であると感じました。担当者の方は、とても丁寧に接して頂き、大変感謝しております。具体的に事業内容に触れることが出来なかったことは残念でしたが、それだけ個人情報保護に真剣に取り組んでいることに好感が持てました。

企業理念『社会をにぎやかに！』

情報が複雑化したマーケットにおいて、Webを活用し、最高のサービスをスピーディーに世の中に提供していくことで、より人々の生活を豊かに・・・より人々の暮らしを楽しく、笑顔に。笑顔が増えれば、社会は明るく、更ににぎやかになっていきます。社会をにぎやかにするために、は日本の通信を変えていく。



・研修実施日：2022年11月21日（月）22日（火）

研修の目的

DX化することで、誰のどのような業務が効率化され、新しい価値を生んでいるのか、実務を通して体験する。

研修内容

「営業業務改善のDX推進」

会社HPのCADダウンロードデータを営業業務において有効活用するために、まず現在の業務の問題点を洗い出した後、問題点に対する解決策を出し、Kintoneでのアプリケーション構築によって、業務の効率化とデータの有効活用を図る。

現状：エクセルシート作成～営業社員へのメール送信



解決策：CAD DLデータを共有の空間（Kintone）に情報公開させることで、エクセルシート廃止。営業社員のお客様への対応状況が誰でも見えることで、週1の報告会も不要に。

得られた成果・気づき

最終的なDXの目的は、アプリケーション構築が目的なのではなく、そのアプリを通すことで、営業社員側と事務側の双方が仕事がしやすくなり、会社にも利益をもたらすものでなければならないと実感した。

研修2日目の発表にて、営業社員2名に説明し、FBを頂く機会があり、新たな改善点や意見・要望をもらうことができた。それらの意見・要望等を含めた最終的な目的が、DXを通して達成されることが必要だという気づきがあった。そのためには、社内の各部署の社員の考えを正しく汲み取る力と、DXでの確に相手の要望を形にする能力も必要だと気づいた。



研修内容：

会社説明、各部署の業務体験、社員との懇談会

得られた成果：

・リカレントで学んだUTM(統合脅威管理)やサンドボックス等に関して、それぞれの対策についての見解を聞いたり、またUTMを見せて頂き、社内ネットワークをどのように監視しているのか現場を知れたことは非常に興味深かった。

・セキュリティ担当者はサーバーやネットワーク、プログラミング等非常に幅広い知識を持っており、何かを守るには対象となる物の深い知識が必要であることが分かった。自分にはその点の知識が不足していることが明確になり、勉強の道筋が見えた。

・社長や管理部の方と話す中で、社員が働きやすい会社、やりがいを持って働ける会社を作ろうという気概を感じた。素晴らしい取り組みだと思った。



研修内容：社長訓話・会社概要・セキュリティ業務（社内ネットワーク環境・DX化推進案）・買掛業務体験・営業サポートの仕事（でんざいコラボ事業部）・ネットワークセキュリティ体験・ロボットプログラミング、IoT・営業サポートの仕事（営業部）

成果：直接社長さんと の理念と仕事内容の話をして頂いたことでどのような仕事をこなしているのかを知ることが出来、業務体験でも担当者さんとスムーズに業務をこなすことが出来た。社員の雰囲気もつかむことが出来た。

気づいた点：営業サポートの仕事体験で似た業務作業をしているが一部異なる業務のため部署が違うが似た業務作業を一本化すると業務がスムーズになると感じました。

研修内容

- ・会社概要、ITエンジニアの市場価値などの説明
- ・ノーコードアプリ(Adalo)の開発
- ・Kotlin(Androidアプリのプログラミング言語)の体験
- ・社員との座談会
- ・オフィス見学

得られた成果・気づき等

- ・県内では数少ないSler企業、官公庁や大手ベンダーからの2次請負もやっている会社
- 県内企業から大企業まで信頼されている、流行り廃りのない事業もやっている。
- 様々な経験が積めて、今後も安定して注文が入る、将来性のある会社だと感じた。



研修内容

- 1日目
- ・会社説明
 - ・Adaloを使用したノーコード開発体験（課題作成）
- 2日目
- ・Adaloを使用したノーコード開発体験（自由テーマ）
 - ・Kotlinを使用したWEBアプリ開発体験
 - ・先輩社員とのフリートーク
 - ・職場見学



(本社) 外観

Adaloを使用したアプリ開発例：
まるで本物のようなアプリが簡単に作成できる

得られた成果・気づき

インターンシップでの1番の学びは、Kotlinを使用したWEBアプリ開発体験の際に、電車という簡単なWEBアプリを作成したものの、その裏側には電車としての機能の部分や、ボタン等のデザインを司る部分など様々なファイルが組み合わさって動いていることを知り、中でも驚いたのは、数式は直接プログラミングするのではなく、数式は数式で別ファイルに記載されている点であり、一見簡単なプログラミングに見えてもエラー対応や書き換えの時の簡便性への対策がなされていることを知った。また、ノーコード開発というものがあることを初めて知り、直感的な操作で簡単にスマホアプリを開発できることを知った。

では、Slerとしての一連の業務（受注・要件定義→設計・開発）を会社内で一貫して回しており、福井県の民間企業と直接やり取りをして、システムを提供できることを知り、福井県の企業への貢献を直接感じることができることが分かった。

- 所在地 福井県福井市南四ツ居
- 設立 1973年1月10日



●主な研修内容

- 企業概要説明
- 「DX・SDGs」の取り組み
- オフィスツアー
- 当社社員とのトーク
- 「SE職」紹介・実習
- 「営業職」紹介・実習
- 「サービス職」紹介・実習
- 振り返り・質疑応答など

- 従業員数 58名(正社員54名、パート4名)
- 売上高 15億8,400万円(2021年度)

●「Sloapオフィス」について

- 2019年1月に新社屋S-LOOP(エス・ループ)を設立しました。
“新しい価値提供スタイル・新たなワークスタイル・新たなコミュニケーションスタイル”をコンセプトに社員主導で意見を出し合っており、デザインされています。
経営層がしっかりと社員主義で考えられていて、社員が一丸となってお客様に価値を提供しようとしていることが伝わりました。
また、社内も清潔に保たれており、顧客が来社した際に気持ちよくお話をし頂く努力や、社員にとっても使いやすい配慮が見受けられました。

●得られた成果・気づきについて

- 最も印象に残っているのは、インターンシップを担当して頂いた方含めて、おおらかな方が多く、社内の雰囲気もすごく良かったということです。インターンシップ中も、当然他の社員の方々は通常業務を行っていましたが、仕事でも時折、談笑があったり、笑い声が聞こえてきたりして、仕事のしやすい環境だと感じました。上層部の方もお話をする機会があり、これからの時代を乗り越えて行く上で会社をどうしていきたいのか、顧客のことをどのくらい大事に思っているのか、といったことを熱く語っており、私にも伝わってきました。経営者様の熱い思いを聞き、これからどんどん伸び行く会社なんだと改めて実感致しました。営業範囲的にも事務機の取扱いにとどまらず、サーバー構築などITインフラの提供、保守サービスに乗り出しており、具体的な部分でも未来を感じました。

インターンシップ内容

企業概要説明
S E 職、営業職、サービス職の紹介
社員とのフリートーク

成果・気づき

コミュニケーション力が重要
社員のロイヤリティや満足度が高い

感想

気さくで面白い社員の方ばかりだったのが印象的でした。楽しく長く勤められるイメージが湧きました。また、多くのお客さまと良好な関係を維持しているのだらうと思いました。顧客基盤を維持しながら、今後も地元福井をサポートしていきんだらうなと思いました。



院内SEとして院内の様々なシステムの保守。800台以上のPC。
“みんなの為に、みんなの代わりに色々なことを覚えておく仕事。”

<1日目>

- **サーバ室見学** 電子カルテ・画像・透析システムサーバ、LAN、WAN、セキュリティ関連システム、無停電電源装置
- ➡ 情報の入れ替わりの激しい業界なので常に最新の情報をチェックし続けることが重要。ニュースは絶対毎日チェックすること。
- **院内見学** 血液検査、透析等の最新の医療装置：全て検査結果が電子カルテに自動入力され手入力不要！
- **PCの初期設定** OSのインストール、LANの構築、不要なものを最初から排除（ROMとか）することでセキュリティ強化
- ➡ 部署の方が作った初期設定ソフトウェアを利用すると効率よく作業が進む！これはすごい！

<2日目>

- **PCの初期設定と現場へ設置** 前回の作業+プリンタとの連携等

<3日目>

- **大野のグループ介護施設にPC設置**

<4日目>

- **データ分析** 院内データベースを基にExcelを利用しデータ分析演習
- ➡ 過去を分析し未来を予測する。社内会議等で予測結果を上申。改善を促す。



ご協力頂いたすべての方々に感謝致します。

企業インターンシップ成果報告書

1日目： の仕事について

- ・サイバーセキュリティ対策
- ・CSIRT
- ①サイバー攻撃に備える
- ②攻撃が発生した場合の対応、被害の軽減
- ③サイバーセキュリティに関する・教育、演習

DX人材マインドセット



「主体性」

2日目： の仕事について

- ・情報セキュリティに対するマネジメント
- ・ISMSの導入
- ・batファイルの使い方

座談会

- ・問題が発生した時の態勢
- ・目に見える教育制度
- ・定時17時(勉強時間が確保できる)

働きやすい環境の意味

最新技術は誰かの努力で守られているから、安心して利用できる

【研修の目的】

- ・サイバーセキュリティに関するリテラシー向上

【研修の内容】

- ・サイバーセキュリティに関する講習

【得られた成果】

- ・CSIRT（シーサート）サイバー攻撃に備えて、環境、組織構築、サイバー攻撃被害の軽減、迅速な復旧、サーバーセキュリティに関する教育、演習を行っている事が分かりました。
- ・セキュリティを固めるためにLiveONという独自のテレワーク用ビデオ会議ソフトを活用している事が分かりました。

- 【気づき】パソコンのローカルディスクには、一切情報を置かない徹底ぶりです。
- ・某クラウドサービスを活用して、プライベートネットワーク構築をして、IPS/IDSの導入をしている。強固なシステム。

【研修の目的】

- ・サイバーセキュリティに関するリテラシー向上、アプレントイス講座OGとの交流

【研修の内容】

- ・サイバーセキュリティ講習、BATファイルの作成ワークショップやアプレントイス講座OGの方も交えた座談会の開催を行っていただきました。

【得られた成果】

- のフリーアドレス（自由席）を裏で支えるシステムを構築されたのは、の方々であることが分かりました。

【気づき】

- ・福利厚生の面で、特にリフレッシュ休暇等の導入により、社員の方は休暇でリフレッシュできる制度があり、とても大好きな制度とおっしゃっていました。
- 気づきとして、不正が無いかを把握するためにも役立つことで、ワークバランスが非常に取れていると感じました。

▶ 1日目午前、機械グループ見学

午後、検品体験

- ・1日目では、鉄鋼の組み立て部品の製造見学や、実際に出来上がった商品を出荷できるのかを実際に使用している機器を使って検品を行いました。図面の見方や工場見学を行い、**製造物と一緒に図面を置くことで何が置いてあるのか判別できたり、不良品発生時の状況や原因をまとめることで各々が注意する点が把握しやすい**といった工夫がありました。

▶ 2日目午前、板金グループ見学

午後、検品体験

- ・2日目では、板金グループの見学を行いました。プレスやレーザーでの切り出しや溶接といった工程の見学を行いました。また実際にCADを使用して切り出すための図面作成を行いました。**まったく知識の無い状態でも座標の指定や図形の作成は行えたのでわかりやすく作られていると感じました。**鉄やアルミといった材質によって使用するガスや道具の違いを学習しました。

▶ 講座を通して気づいたこと

- ・インターンシップを体験し、製造物を搬入口に運ぶ際、狭い通路を電磁石を使用して人が**操作を行って運搬していたので誤操作などで事故が起こる可能性がある**と感じました。また材料を加工機械に運搬するのが手間に感じるとおっしゃっていたので自動化できるポイントなのではないかと思えます。電磁石を動かすためのレールが建物に付随していることもあり、建物ごとの改修というのは非現実的なため、**決まったルートを通る運搬機械などを開発できれば良いのではないかと**感じました。



引用元
会社概要 | ホームページ 11/22

研修内容としては実際に稼働している工場の見学でした。

鋼材の穴あけ作業の見学、検品の道具を使ったやり方の体験、溶接の作業の見学、CADでの図面の作成現場、鋼材の折り曲げ加工という内容でした。

得られた成果として、機械を利用した緻密な製造過程では、想定以上に機械化されているという気づきでした。個人的なことになりますが、前職の製造現場ではそこまでの機械化がされていない製造業だったので、CADからの図面データを各自機械に送信し μm 単位での加工をし、曲げ加工の際も曲げ位置に最適化されるようにセットできるように機械が位置を調整していたことには驚きました。溶接の金属の縮みも計算し、シャフトが通るが余裕があまりないように検品し、 μm 単位での差で入るように調整されていました。しかし、溶接自体はほぼ人の手でやらねばならず、平行に取り付けを行いほぼ同じ位置に取り付けられなければ部品と組み合わせることができなくなるほど精巧に作らなければならないため、職人の技はまだ必要とされる場所もありました。

今まで講義で習ったことから考えると、だいぶ機械化されており、新しくIoTなどを入れるとしても検品の部分に入れるくらいしか思いつきませんでした。会社としても特注の商品を最初から最後まで作る製造業なので前例のデータがないものが多く検品を自動化するのも現実的には難しいのではないかなとも思ったため、うまくいかない可能性もあると思います。

(ハ) 事業化可能性調査

○転職希望者は現職を持っているため、「企業インターンシップ」において受入企業側の就業時間に合わせるできないこと等から、県内企業の新規事業を新規提案する実習「事業化可能性調査」を受講した。以下の内容を授業時間 24 時間における調査方法の説明と成果発表の他に、各自（各チーム）が別途の時間において企業調査・市場調査とプレゼンテーション資料を作成した。

- 1 対象企業を決定する
- 2 多角的展開に関しての必要性と可能性、将来的な成長性、資本余力などを検討する
- 3 対象企業の強み、弱み、機会、脅威を洗い出す
- 4 技術・商品・サービス・市場などを多面的に考察する
- 5 対象企業の戦略を知る
- 6 全社戦略を把握したうえで、事業戦略、製品戦略につなげる
- 7 新規事業コンセプトの作成
- 8 チーム（個人で取り組む場合も協力）でアイデアの数を出す
- 9 アイデアの絞り込みと優先順位を決定する
- 10 「市場の成長性」や「競合他社の状況」「アイデアの実現性」について評価し決定する
- 11 提供価値を顕在化する
- 12 「顧客がだれか」「顧客が満足する価値はあるか」「詳細な顧客像」を描く
- 13 マーケティングと仕組みづくりを考える
- 14 どのように顧客に認知してもらい、購入させ、リピートさせるのか、そのための仕組みを描く
- 15 財務計画（5年間のロードマップ）を、投資額と売上、費用、利益面から説明する

○受講者の中間発表、最終発表において、受講者 16 名及び「企業インターンシップ」受講者のうち受講を希望した 2 名全員（全 5 チーム）が実施し、受講者 16 名が合格した。

資料 8-2 : (最終発表資料より その1 (4名))

2-2 対象企業の強み・弱み×機会・脅威

内部環境×外部環境	
強み×機会	弱み×機会
集客力	競合モデル不足
コロナ禍で外出自粛	新事業への展開の柔軟性
福祉のスキルがある	再生エネルギーの自然相手による不安定さ
稼働時間が可変	稼働時間の延伸
シニア向け事業の需要増	環境にやさしいセント・生コンの展開
自動化へのノウハウ	電気自動車・自動運転など自動車メーカー側との共同出資・システム開発
内部環境×外部環境	
強み×脅威	弱み×脅威
コロナ禍で外出自粛	悪念の恐れがあるため団体行動が×
海外拠点の円安によるコスト高騰	再生エネルギーの価格
北陸新幹線延伸の遅延	海外拠点の円安による影響
	北陸新幹線工事費完了による建設資材価格の減少
	半導体不足による自動車販売の減速



バスガイドと行く 360° LIVE ツアー

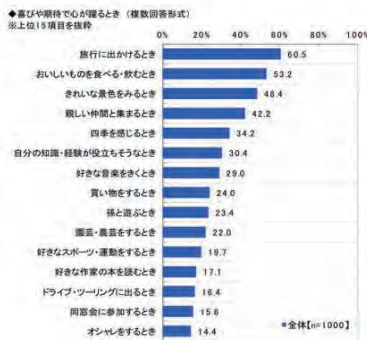
1. 対象 老人ホームに入所しているシニア世代

シニア世代の意識調査

介護ケアサービスなどを行う日本ロングライフは、全国の60歳～79歳の男女を対象に「人生の円熟期（プレミアム世代）と理想のセカンドライフ」に関する意識調査を行った。

「喜びや期待で心が躍るとき・ときめきを感じる瞬間」の1位は「旅行に出かけるとき」(60.5%)であった。

2014年12月～12月14日の間にインターネット上で行われたもの。全国の60歳～79歳の男女1000名



財務計画

新事業にかかる経営計画

	23年 4月～ '24年 3月	24年 4月～ '25年 4月	25年 4月～ '26年 5月	26年 4月～ '27年 6月
①売上高	8,245,000	12,020,000	26,840,000	39,530,000
②売上原価	8,432,000	10,560,000	22,458,000	28,922,000
③売上総利益 (① - ②)	-187,000	1,460,000	4,382,000	10,608,000
④販売費及び 一般管理費	300,000	700,000	500,000	500,000
⑤営業利益 (③ - ④)	-487,000	760,000	3,882,000	10,108,000
	360° LIVEツアー (本拠コース)	360° LIVEツアー (本拠コース)	360° LIVEツアー (本拠コース)	360° LIVEツアー (本拠コース)
売上高内訳	7,320,000 貸付案件: 250,000 クラウド: 15,000 管理費: 60,000	10,560,000 貸付案件: 150,000 クラウド: 90,000 管理費: 200,000 貸付案件: 190,000	21,120,000 貸付案件: 150,000 クラウド: 4,000,000 管理費: 200,000 貸付案件: 190,000	25,760,000 貸付案件: 600,000 クラウド: 12,000,000 管理費: 1,250,000 貸付案件: 1,900,000
ドーム台数	1台	1台	2台 (増倍り1台)	3台 (増倍り2台)

(最終発表資料より その2 (4名))

2.SWOT分析

強み

- 歴史がある(老舗旅館)
- 資金力がある
- 知名度がある(福井県・近隣県)
- 口コミが良い
- 高級感・高級料理
- オンラインショップを独自運営
- 地域連携(自然、農業、酒蔵)
- SNSやYouTubeでPR
- サービスの質が高い(おもてなし)
- バリアフリー
- 社員のマルチタスク化
- 多言語対応
- 温泉×地域文化交流
- 恐竜ルーム

弱み

- 価格が高い
- 景色が微妙(田園風景)
- 周辺に競合が多い
- 特に関東方面から交通アクセスがいまひとつ
- 全国的に知名度はない(関西方面からは別の意味で有名...)

機会


- 東京からの新幹線延伸
- 中部縦貫自動車道開通
- インバウンドの回復(円安・政策)
- 働き方の変化(ワーケーション)
- 高齢化
- メタバース
- おもてなし、日本文化 世界から注目
- 地方移住者の増加
- 健康志向の高まり
- 中食ブーム
- アウトドアブーム
- 地元食材料理自販機

脅威

- コロナウイルス(新たな感染症)
- 自然災害
- 個人客化
- 外国との関係悪化
- ウェディング事業衰退
- 民泊、Airb & b

新規事業：メモリアルMOVIEサービス

- プロによる思い出動画の撮影・編集サービス
- 撮影に社員動向
- バリアフリールームを活用
 - 離れ ゆとろぎ亭(温泉露天風呂付客室)
- 最後に家族からのメッセージ動画を撮る
- 5年後に送られてくるデジタルタイムカプセル(女将からの感謝の手紙付き)



8.財務計画

販売手数料：動画制作会社の報酬(事業にかかる経営計画)

	2023年 1年目	2024年 2年目	2025年 3年目	2026年 4年目	2027年 5年目
① 売上高	150万 1組15万	270万 1組15万	300万 1組15万	360万 1組15万	360万 1組15万
② 売上原価	データ保管：クラウド2TB 1万6320円	データ保管：クラウド2TB 1万6320円	データ保管：クラウド2TB 1万6320円	データ保管：クラウド2TB 1万6320円	データ保管：クラウド2TB 1万6320円
③ 売上総利益 (① - ②)	28万3,680円	118万3,680円	98万3,680円	118万3,680円	118万3,680円
④ 販売費及び一般管理費	販売手数料：120万 人件費：19万2000円 広告宣伝費：62万	販売手数料：180万 人件費：28万8,000円 広告宣伝費：50万	販売手数料：200万 人件費：32万円 広告宣伝費：50万	販売手数料：240万 人件費：38万4,000円 広告宣伝費：50万	販売手数料：240万 人件費：38万4,000円 広告宣伝費：50万
⑤ 営業利益 (③ - ④)	▲52万8,320円	39万5680円	16万3680円	29万9,680円	29万9,680円
⑥ 売上高内訳	15万×10組 (2組は無料CP)	15万×	人件費：2000円×8H×12組 広告宣伝費：(内訳)雑誌掲載50万(るるぶ1年間) 10万×24組 初年度HP用サンプル動画：5万		

(最終発表資料より その3 (4名))

3. 新規事業のサービス内容

(1) サービス名: UNIFORM NEXT^{PRIME}

(2) サービス内容:

- ・ クリーニング業者と業務提携
- ・ 従業員のユニフォームを回収/納品
- ・ 料金体系は枚数
- ・ ユニフォーム管理システム提供

5. マーケティング方法

(1) 認知:

- ・ 自社HPにて専用ページ作成
- ・ メルマガ、DM、ハガキ、自社発行カタログにて広告
- ・ 関心のある企業にサービス体験
- ・ その様子をインタビューしてHPに掲載

(2) 購入:

サービス開始後1年間は15%OFF

(3) リピート:

- ・ サービスを利用した企業が他社へ口コミ
- ・ アンケートを取り、より良いサービスを構築
- ・ 利用した企業の声を広告に反映

2

6. 組織図



3

10. 財務計画

	2023年 12月~ 2024年 12月	2024年 12月~ 2025年 12月	2025年 12月~ 2026年 12月	2026年 12月~ 2027年 12月	2027年 12月~ 2028年 12月
① 売上高	17,640,000	51,975,000	86,625,000	121,275,000	155,925,000
② 売上原価(30%)	5,292,000	15,592,500	25,987,500	36,382,500	46,777,500
③ 売上総利益 (①-②)	12,348,000	36,382,500	60,637,500	84,892,500	109,147,500
④ 販売費及び 一般管理費	77,500,000	77,500,000	77,500,000	77,500,000	77,500,000
⑤ 営業利益 (③-④)	▼65,172,000	▼41,137,500	▼16,862,500	+7,372,500	+31,627,500
⑥ 売上高内訳	80,400,000×35% =17,640,000	148,500,000×35% =51,975,000	247,500,000×35% =86,625,000	346,500,000×35% =121,275,000	445,500,000×35% =155,925,000

4

(最終発表資料より その4 (3名))

② 企業分析～SWOTを用いて～ | page.0

【強み】

- 店舗を持っている
- ECサイトも持っている
- 市場でのアウトドア用品店としての認知度
- SNSでフォロー数と登録数が多い (Twitter23人、facebook2,955人、Instagram4.1万人、サンデーマウンテンLINE友達35,797人)
- 地元自治体のパルクアジ(松本市のふるさと納税品)
- ECサイト(サンデーマウンテン)では、カード、後払い、振込、代引き、PayPayなど、様々な決済方法が準備されている！
- ポイントカード(付帯サービス)
- オリジナルブランド「Fベルク地元産物の伝統工芸品など」の展開、ラインナップの豊富さ
- Park Coffee & Bagelの展開にて、アウトドア用品以外の関心層にも到達中
- 農業王国・松本市に本社を置き、地元との連携が豊富
- Park Coffee&Bagelで扱う食材は、地元の食材を使っている

【弱み】

- カンパニー、サンデーマウンテン、THE GATEと様々なネーミング、統一感で、より強固なブランディングが出来るのでは？
- 全国レベルで見た時の知名度の低さ
- 全国レベルで見たときの、価格(単価)の低さ
- 幅広いラインナップ、展開がからこそ、なにか始めればいいのかわからない。

【機会】

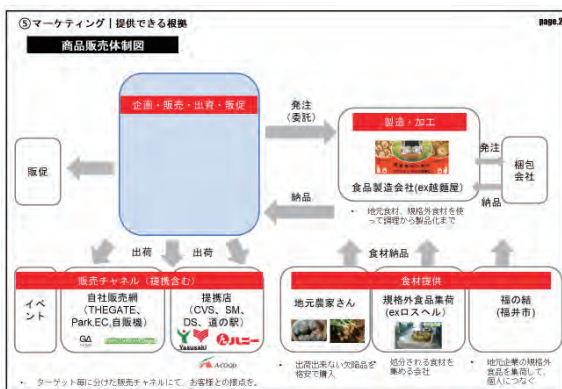
- コロナの影響で、アウトドアニーズの拡大(グランピングなど、多種多様なアウトドア展開)
- 引き続き伸びる、より健康志向の増加
- SNS、ECサイトの活用
- イベント開催や海外客の取り込み
- 観光客の滞在時間短縮による季節限定の展開
- 地域特産品と地元産品から季節限定のサービス
- 中部圏観光圏と東海圏からのアクセス向上

【脅威】

- アウトドアブームの落ち書き(次の一手を)
- 各種不足
- 経営地帯・福井=東北にアウトドアする？
- SNS発信力の低下
- 不安=輸入コスト増大
- 地元産品の競合他社(ブランドカカ知品産、商品展開(モンベル、好白山屋、スポーツデパート等)
- 価格競争のアウトドア用品やウェア取扱店(ホームセンター、ワークマン、ユニクロ等)

③ 新規事業コンセプト～idea～ | アイデア | page.1

Easy cooking & Local Food
~ずぼらキャンプ飯~



⑥ 財務計画 |

5年目での黒字化と初期投資回収を計画

(単位)

財務計画	初年度 23年4月～24年3月	2年目 24年4月～25年3月	3年目 25年4月～26年3月	4年目 26年4月～27年3月	5年目 27年4月～28年3月
1 売上高	1,090,000	9,880,000	19,776,000	19,776,000	29,664,000
2 売上原価	571,200	3,378,240	6,204,000	5,922,000	8,568,000
3 売上総利益 (1-2)	518,800	6,501,760	13,572,000	13,854,000	21,096,000
4 固定費および一般管理費	5,050,000	8,592,000	12,091,200	16,491,200	12,540,000
5 営業利益 (3-4)	-4,531,200	-2,090,240	1,480,800	-2,637,200	8,556,000
6 売上高利益率	47.5%	65.9%	68.7%	70.1%	71.1%
7 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
8 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
9 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
10 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
11 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
12 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
13 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
14 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
15 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
16 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
17 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
18 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
19 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
20 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
21 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
22 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
23 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
24 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
25 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
26 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
27 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
28 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
29 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%
30 営業利益率	-41.5%	-21.2%	7.5%	-13.3%	28.8%

(最終発表資料より その5 (3名))

【SWOT分析】

	強み			弱み		
	強み	弱み	強み	強み	弱み	強み
内部環境	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)
	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)
	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)
	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)
	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)
	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)
外部環境	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)
	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)
	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)
	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)
	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)
	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)	→ 2020年10月～12月(10/10)



備えるカーテンに決定

- 上部分(金具=ランナー)から下部分を取り外せる。(上下で別の生地)
- 機能製品(エコファイン)を使用することで、遮熱、保温機能をもったカーテンを実現。
- 簡単に取り外せるので、洗濯がしやすい
- 災害や停電等緊急時にはブランケットとして使用可能
- 防災補助用品としてのブランケットの収納に困らず、使用したい時に探し出す必要がない
- 作家とのコラボの生地使用でデザイン性も兼ね備える
- 取り付けが簡単なので、従来品に比べてカーテンの取り替え(購入)の頻度を上げられる



カスタマージャーニーマップ

顧客像	0歳児(第1子)をもち新米ママ/30代女性/育休中/夫・子の3人暮らし/各都府県発する買物集積による災害に脆弱と不安を抱いている					
ステージ	ニーズ把握	情報収集	代替案の評価	購入決定	購入	利用
行動	・共に大きく ・共に大きく ・ママ友に大きく	・ネットで商品を検索 ・「子育て、防災」でネット検索	・防災セット「リュック」や「防災グッズ」を提案 ・ブランケットとしても活用できるカーテンを提案 ・アウトドア用品が防災用品としても使えることを知る	・共に再確認 ・店舗があるなら行ってみよう	・店の人のアドバイスにも納得して購入	・取り付けたカーテンを家族(母、父親)、友人に見せてもらう ・災害の緊急時に取り外す確認もしてみよう
心理	・防災用品で何かを用意すればいいのかな? ・子どもとの避難で何かある? ・災害が起こるのって季節関係ないよね? ・基本的なグッズはネットで調べられそう	・防災用品で色々あるけど、どうやって準備するの? ・子どもは何かある? ・普通の防災リュック(藍色)はデザイン性にないかな? ・100円ショップで揃えたいかな? ・揃えるものもいろいろあるかな?	・商品を購入したら家のどこに置いておくのがよいの? ・これなら収納に困らないかも? ・災害時だけでなく、普段に防災グッズが役に立たないかも? ・簡単に取り外してできるなら、カーテンの洗濯も簡単になるかな?	・最初はお安物を買ってみようかと思ってたけど、これなら災害時のブランケットとしても使えそうだし、デザイン性もいいかも? ・お店の接客も良い感じ! ・デザイン性もあっていい	・家に防災用品を購入するのしたら何かないかな? ・家の色もデザイン性もあるものがないかな?	



新事業にかかる経営計画

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
① 売上高	6,720,000	48,600,000	139,745,583	557,487,652	993,200,000
② 売上原価	2,520,000	18,225,000	52,404,594	209,057,869	372,450,000
③ 売上総利益	4,200,000	30,375,000	87,340,990	348,429,782	620,750,000
④ 販売費および一般管理費	14,280,000	28,660,000	54,014,576	242,417,304	465,960,000
⑤ 営業利益	-10,080,000	1,715,000	33,326,414	106,012,478	154,790,000
売上高内訳					
⑥ 店頭販売	2,100,000	17,700,000	39,000,000	56,400,000	64,600,000
ネット販売	2,100,000	11,000,000	51,454,653	370,573,043	720,000,000
取付工事	1,680,000	14,160,000	31,200,000	45,120,000	51,680,000
梱包資材	840,000	5,740,000	18,090,931	85,394,609	156,920,000

5か年事業計画を作成し、上記項目のみ抜粋しました。

②課題

(イ) 全般

受講者には就業中の者もいるため金・土・日曜日に集中的に授業を行わざるを得ない中で、職業訓練受講給付金制度の様々な制約（選択科目設定やオンデマンド授業は不可、1か月60時間以上かつ2か月以上の授業開講）により、受講者にとって負担が大きくなるなど、プログラムの円滑な実施の足かせとなっていることも否めない。受講者アンケートでも要望が強いため、本事業に関し特例的に当制限の緩和の検討が必要である。

(ロ) 企業インターンシップ

- 委託事業の契約（8月初旬）からプログラム開始（10月1日（土））までのスケジュールが厳しく、募集期間（8月17日（水）～9月5日（月）17時）終了後、9月9日（金）、10日（土）の面接選考、9月14日（水）の事業実施委員会による合否判定を経てようやく9月15日（木）に合格者（受講者）の発表を行い、その後9月22日（木）の受講者オリエンテーションを経てなんとかプログラム開始に間に合わせた。10月初～中旬頃は特に授業運営の円滑化に意識を集中する必要がある、11月からの「企業インターンシップ」開始に向けて、受講者とインターンシップ受入企業とのマッチング及び「企業インターンシップ」受講者と「事業化可能性調査」受講者の振り分けについて、必ずしも十分な時間を確保することができなかった。
- インターンシップ受入企業を19社確保したものの、受講者の経歴、情報技能習熟度など初期のスキル、就業能力、就きたい企業種・職種等が様々で、一人一人の事情が異なっており、また、面接選考に同席した受入企業の評価が雇用を念頭に置いた上でのものであるためどうしても厳しくならざるを得ず、マッチングに苦慮した。このため、一部の受講者から希望が通らないことに対する不満の意見があった。インターンシップについて、授業の一環としての位置付けを重視し、受講者の希望を踏まえて各企業に受入を割り振るのか（昨年度のプログラムでのやり方）、就業も視野に受入企業側の意向を踏まえて受講者とのマッチングを行った上で受入企業を決定するのか（今回のプログラムでのやり方）、いずれの方法がより適当なのか再検討が必要である。
- 事業を円滑に進め今後も当事業を継続・発展させる上で、受講者に係る就労体験の場を提供し、最終的には雇用する立場にある企業側の本事業に対する理解・協力が必要不可欠である。事業を実施する大学等や関係機関はもとより、国全体として経済界に対する事業への理解を深める取組の積極的な推進が必要不可欠である。

(4) 受講者の募集

((4) - 1) 事業の広報、受講者募集及び申込者数

①取組の概要

福井県、福井労働局・ハローワーク、県内経済団体・金融団体等と綿密に連携協力し、様々な媒体・方法を活用して、県内の求職者はもとより県外のU I ターン希望者に対しても幅広く事業・プログラムの広報活動を展開した。

(イ) 媒体

チラシ・ポスター、受講ガイド、受講者募集要項（福井県による交通費支援制度に関する情報を含む）、プログラムに関するQ & A、求職者支援制度に関するチラシ、専用ホームページ、テレビCM、インターネット

(ロ) 方法

○本学

専用ホームページの開設、テレビCMの放送、YouTube、Line による動画配信、Google による画像配信、教育・スポーツ記者クラブへの情報提供・報道依頼、福井労働局・県内ハローワーク担当者への事業説明会の開催、申込希望者への県外会場・県内会場・学内での説明・相談会の開催（対面・オンライン）

○福井県

福井県の就職活動サイトや移住サイトへの掲載・登録者へのメール配信、県外事務所、福井Uターンセンターオフィス、県人会を通じたU I ターン希望者への広報

○福井労働局・県内ハローワーク

求職登録者への広報、ホームページへの掲載

○県内経済団体・金融団体

各経済団体・金融団体加盟企業へのメール配信等

(ハ) 具体的取組

○受講ガイドブックには、プログラムの目的、受講科目・時間割等の講義内容、講師の紹介、インターンシップ受入を承諾した企業名を掲載し、プログラムを分かりやすく紹介

○申込要件、選考方法、プログラム内容、就職先等について、申込希望者に分かりやすく解説したプログラムに関するQ & Aを作成し、受講ガイドブックやホームページに掲載

○U I ターン希望者を獲得するため、受講者募集要項に「福井県に移住をお考えの方の交通費支援制度」（福井県）のホームページアドレスを掲載し、県外事務所、福井Uターンセンターオフィス等を通じて首都圏を中心として県外にも広く広報。また、移住先探しや受講中の住居探し等について、福井暮らしはたらくサポートセンターにて相談を受ける旨、募集要項に記載

○職業訓練受講給付金給付対象者に周知するため、「求職者支援制度のご案内」

(チラシ：厚生労働省・都道府県労働局・ハローワーク)により広報

- 委託事業の契約（8月初旬）からプログラム開始（10月1日（土））までのスケジュールが厳しい状況の中、申込者の利便性に配慮し、申込期間として8月17日（水）から9月5日（月）17時まで約20日間を確保。また、募集期間開始前に専用ホームページを開設するとともにテレビCMを放送
- 専用ホームページのアドレスを「you can change.me（ユーキャンチェンジドットミー）」と分かりやすく印象に残りやすいものに設定し、テレビCM、チラシ、ポスター等で「ユーキャンチェンジドットミー」を使用することで、専用ホームページへの誘導を意識付け
- 申込希望者への説明・相談会について、県内外会場での開催のほか、本学において希望者個々の都合（時間・方法）に合わせて8月19日（金）から9月2日（金）までの所定の日に対面又はオンラインのいずれでも随時受付
- 福井大学産学官連携本部協力会会員企業を始めとした県内企業に対し、経営者や担当者が参加する会議において事業内容を周知・広報。また、受入を承諾した企業に出向き、受講ガイドブック等により事業の趣旨・内容、養成される人材像を詳細に説明
- 申込方法については、申込書類をワード・エクセル形式でホームページに掲載し、それを活用して作成・プリントアウトできるように手続きを簡素化

②成果

- 募集人員30名を大幅に上回る60名の申込者があった。年齢構成は10代から60代まで幅広く、就労区分も失業等により職を持たない者23名（38%）、非正規雇用労働者13名（22%）、正規雇用労働者24名（40%）と様々であった。男女比についても女性が19名（32%）と男性に偏ることなく、またUターン希望者をターゲットとした広報戦略が功を奏し該当者が7名（12%）いた。
- 申込者60名に対し、どのようにこのプログラムを知ったかについて面接前アンケート（複数回答可）を実施した結果は次のとおりであり、上記①の取組がそれぞれ一定の効果があったことが判明した。
 - ・テレビCM：37名
 - ・SNS、HP：18名
 - ・家族・親族・友人の勧め：14名
 - ・新聞：6名
 - ・ハローワーク：6名
 - ・その他：1名（Uターンセンター等）

なお、情報化時代を反映し、インターネット広報に対し、次のとおり多くのアクセスがあった。

調査期間：8月5日（金）～9月5日（月）

- YouTube 動画広告配信 (15 秒)
 - 表示回数 : 97,000 件
 - 視聴回数 : 48,700 件 (5 秒以上)
 - 対象地域 : 福井県、石川県
- Line 動画広告配信 (15 秒)
 - 表示回数 : 1,366,000 件
 - 視聴回数 : 70,600 件 (5 秒以上)
 - 対象地域 : 福井県、石川県
- 専用ホームページ
 - アクセスユーザー数 : 6,196 人
 - アクセス延べ件数 : 43,666 件

資料 8-3 : インターネット広報に係るアクセス状況

福井大学リカレント教育事業 web 状況報告 2022.0805~0905

(1) YouTube ツールビュー広告 動画広告配信 (result)

表示回数 9.7 万
視聴回数 4.87 万

地域 : 福井県・石川県

ユーザー属性 : 年齢 18 ~ 24 才、25 ~ 34 才、35 ~ 44 才、45 ~ 54 才、55 ~ 64 才、不明
性別 すべて / 世帯収入 すべて / 子供の有無 すべて

キーワード : | ターン、U ターン、コロナ、失業、学び直し、転職

トピック : ビジネス、産業、人々、社会、仕事、教育



女性 38.8% : 男性 61.2%

(2) Line 広告 LINE 公式から動画広告配信 (result)

表示回数 136.6 万
視聴回数 7.06 万
クリック数 2544

地域 : 福井県・石川県

ユーザー属性 : 年齢 18 ~ 24 才、25 ~ 34 才、35 ~ 44 才、45 ~ 54 才、55 ~ 64 才、不明
性別 すべて / 世帯収入 すべて / 子供の有無 すべて

キーワード : | ターン、U ターン、コロナ、失業、学び直し、転職

トピック : ビジネス、産業、人々、社会、仕事、教育

(2-2) Line 広告 Small image 広告配信 (result)

表示回数 26.7 万
視聴回数 8.75 万
クリック数 1426

(3) アクセス解析 (2022.0805~0905) (result)

ユーザー 新規ユーザー数
6,196 **6,169**
 ¥ 5,857.7% ¥ 6,131.3%



順位	キーワード	セッション数	セッション率
1	Utsunomiya	6,796	6.3%
2	Yahoo!	52	0.5%
3	Mail Search	759	7.2%
4	OpenSearch	315	3.0%
5	OpenSearch	88	0.8%
6	OpenSearch	1,019	9.7%
7	Direct	4,031	3.8%

順位	キーワード	セッション数	セッション率
1	google	18,608	17.8%
2	yahoo	6,074	5.8%
3	line	5,632	5.4%
4	facebook	5,189	4.9%
5	yahoo	5,096	4.9%
6	line	2,263	2.2%
7	line	44	0.4%

順位	キーワード	セッション数	セッション率
1	line	4,237	4.1%
2	google	701	0.7%
3	yahoo	416	0.4%
4	google	271	0.3%
5	yahoo	239	0.2%
6	yahoo	191	0.2%
7	yahoo	54	0.1%
8	line	45	0.0%
9	yahoo	33	0.0%
10	yahoo	29	0.0%
11	line	23	0.0%
12	yahoo	14	0.0%
13	yahoo	13	0.0%
14	facebook	10	0.0%
15	google	9	0.0%
16	weathernews	8	0.0%
17	yahoo	8	0.0%
18	weathernews	8	0.0%
19	weathernews	8	0.0%
20	weathernews	8	0.0%
21	weathernews	7	0.0%

プラットフォーム / デバイス	ユーザー
web / mobile	4,993
web / desktop	1,060
web / tablet	160

(4) Google ディスプレイ広告
 画像広告配信 (result)

地域：福井県・石川県
 表示カテゴリ：転職・リカレント・uターン・
 iターン・学び直し・土日・スクール・
 ユーキャンチェンジドットミー・福井大学・スクール・
 学費・勉強・学び・リカレント教育・大学・ビジネス・
 社会人・mba



○説明・相談会への参加者は、東京都中央区立産業会館、ハローワーク福井・ハローワーク武生での説明会のほか、平日の所定日に随時、対面又はオンラインのいずれでも受け付けたこともあり、対面 45 名、オンライン 12 名、合計 57 名あった。説明・相談会参加者 57 名のうち 33 名 (58%) が受講申込を行っており、事前の丁寧な説明や相談を行ったことが申込者獲得に一定の効果を発揮したことが判明した。

○説明・相談会への参加者数、申込者数からは、DX分野のリカレント教育に対するニーズが高いこと、UIターン希望者が一定の割合で存在することが判明した。

③課題

○委託事業の契約 (8月初旬) からプログラム開始 (10月1日 (土)) までのスケジュールが厳しく、募集開始 (8月17日 (水)) 前の広報を必ずしも十分に行うことができず、申込者数に多少の影響を与えたことは否めない。

((4) - 2) 選考及び受講者数

①取組の概要

○申込者数が 60 名と大幅に募集人員を上回ったことを受け、希望クラス毎に 5 人程度ずつの班を編制し班毎に 30 分の集団面接を行った。なお、県外者等には希望により Web による面接を可能とした。また、申込者には職業に就いてい

る者が多数いることから、本人の都合に合わせて金曜日または土曜日のいずれかに面接日を割り振った。

- 事業の最終目標が受講者の就職・転職であること、また、受講者とインターンシップ受入企業とのマッチングを円滑に行う必要があることから、選考に当たって雇用側の観点、意見・要望も取り入れるため、インターンシップ受入承諾企業7社の関係者延べ11名に面接への同席を依頼した。選考に当たって、この11名による自社へのインターンシップ受入の意思を参考にした。
- 最終選考は、意欲、就業能力、受講の必要性・妥当性、就業・転職の希望・意志、授業出席の可否、インターンシップ受入承諾企業の意思等、様々な観点からの評価結果を踏まえて、事業実施委員会において行った。
- 部分受講について、受講可能な科目を指定し、募集人員は約300名、企業等に勤務しながらスキルアップを目指す者も対象とし、募集要項、事業案内チラシ、専用ホームページ等により募集人員の確保に向けた広報を展開した。また、正規受講者募集との混乱を避けるため、募集期間を正規受講者募集期間終了後からとするとともに、専用ホームページに受講申込フォームを掲載し申込手続きの簡素化を図った。

②成果

- 申込者数が60名と募集人員30名を大幅に上回り、結果として受講者数はサイバーセキュリティクラス10名、システム開発・設計クラス11名、DX-現代社会のデジタル化クラス13名、合計34名となり、数値目標の30名を達成するとともに、各クラスともバランスよく10名以上を確保した。
- 受講者の年齢構成は20代から60代まで幅広く、就労区分も失業等により職を持たない者15名(44%)、非正規雇用労働者7名(21%)、正規雇用労働者12名(35%)と様々であった。女性が15名(44%)と4割強を占め、またUIターン希望者をターゲットとした広報戦略が功を奏し該当者が5名(15%)いた。
- インターンシップ受入承諾企業関係者による自社へのインターンシップ受入の意思の評価が、合否判定や受講者のインターンシップ受入企業の割振・マッチングを円滑に行う上で大いに参考になった。
- 部分受講者について、数値目標の300名には届かなかったものの、155名の申込者、123名の受講者があった。

③課題

- 委託事業の契約(8月初旬)からプログラム開始(10月1日(土))までのスケジュールが厳しく、募集期間(8月17日(水)～9月5日(月)17時)終了後の面接(9月9日(金)、10日(土))、最終選考(9月14日(水))、合格発表(9月15日(木))と非常にタイトなスケジュールとなり、作業手続きが極めて煩雑となった。また、合格発表(9月15日(木))からプログラム開始

(10月1日(土))までが半月しかなく、受講者のプログラム受講に向けての準備に支障が生じたことは否めない。

- 専門性の高い科目を外部委託していたこともあり、多数の受講申込者に対し、定員の上限を大きく引き上げることができなかった。
- 部分受講者について、教育の質の低下を招くとの懸念から、オンラインによる授業は避け、正規受講者との合同の対面授業での受入とした。このため、パソコン等の機器の確保や教育の質の担保の困難性から、受入科目や科目毎の募集人員をある程度制限せざるを得ず、全体の募集人員約300名(正規受講者の募集人員の「10倍程度」)の受講者の確保は極めて困難であった。また、正規受講者募集との混乱を避けるために広報媒体・方法や募集期間等を住み分けなければならないなど、作業の負担も大きかった。

(5) プログラムの運営

①取組の概要

- プログラムを円滑に実施するため、9月22日(木)の19時から受講者オリエンテーションを実施した。なお、県外者や就業者に配慮するとともに新型コロナウイルス感染拡大防止のためWebにより実施し、プログラムの内容(クラス分け及び時間割、オンラインコンテンツの利用方法、ハローワークの活用方法、生活上の留意点等)について説明した。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、募集要項に受講申込及び選考面接に向けての注意事項を記載し、オリエンテーション時に受講者としての日常生活上の注意点を説明する等、様々な機会を活用して注意喚起を徹底した。また、授業期間中は、教室での3密の回避、教室出入口への手指消毒液配置、授業終了後の机、椅子、パソコンのマウス、教卓の消毒等、感染防止に向けた受講環境の維持を徹底した。
- 学生メンターや運営担当者が、常時教室に待機する等、受講者からの質問や要望に答えられる体制を構築した。また、受講者が教室に迷わないように建物及び教室の出入口に毎時間、講義名と時間の貼り紙をし、授業開始前に教室の冷暖房管理の徹底を図る等、手厚く支援した。
- 受講者の情報技能習熟度など初期スキルに幅がある中、受講者全員がプログラムを円滑に受講し修了することを可能とするため、ワード、エクセル、パワーポイント、SPSS(統計ソフト)などスキルを高めるオンデマンドコンテンツを作成し、いつでも視聴できる環境を構築して、新型コロナウイルス感染拡大防止と教育の質の保証とを並行して担保した。
- 受講者証を配付して携帯させ、図書館の利用を認めるとともに、必要がある者には自家用車による入構を認める等、受講環境に配慮した。
- 授業内容、プログラムの運営方法、受講環境等について受講者の意見を聴取し、

プログラムの検証・分析、後半の授業改善、今後のリカレント教育の改善に活かすため、受講者に対する中間アンケート及び最終アンケートを実施した。なお、中間アンケート結果に対しては、後半の授業に向けて可能な改善を速やかに行うとともに、改善・要望意見への対応内容について文書で受講者に回答した（資料5-8、5-9、5-10参照）。

- プログラム開始後、各授業が円滑に行われているのかを注意深く観察し、受講者及び授業担当者の意見・要望も参考にして、例えば「ビジネスマナー」3クラスのうち夜間に授業を行う1クラスの受講者と授業担当者双方の負担が大きいため、当該受講者を昼間に授業を行う他の2クラスに振り分け、また、「企業インターンシップ」受講者のうち希望者について「事業化可能性調査」の受講を認めるなど、プログラム途中でも柔軟にプログラム、時間割等の見直しを行った。
- 部分受講者の教育については、オンラインの活用による授業担当者や運営担当者の負担軽減も検討したが、教育の質の低下を招くとの懸念から正規受講者との合同による対面授業を行った。

②成果

- ワード・エクセル等のオンデマンドコンテンツの作成、受講に関する学生メンターや運営担当者による手厚い支援、新型コロナウイルス感染拡大防止の徹底等に十分留意して取り組んだこと、プログラムの柔軟な見直しを行ったこと等により、受講者アンケート結果では、受講環境に関する受講者からの不満はほとんどなく、手厚い支援への感謝の意見が数多く寄せられた。また、プログラム全体に対する満足度について、最終アンケート結果では「満足した」(11名)、「ほぼ満足した」(12名)、合計23名(85%)と受講者の高い満足が得られたことが確認できた（資料5-10参照）。
- 受講者34名のうち、県外企業に就職が決定したことによる1名の受講辞退者を除き、残り33名全員が最後まで必要な授業を受講し修了した。
- 文部科学省より委託を受け、当事業の実施状況等に関する取りまとめを行っているPwCコンサルティング合同会社から、リカレント教育への取組が先進的あるいは他校の参考になるような取組を行っている教育機関にインタビュー調査を行い、調査結果で得られた優れた取組を事例集やプレイブックとして発信する上で、本学の取組が参考になるのではないかと理由により11月29日(火)にインタビューを受けた。
- 上記PwCコンサルティング合同会社から、リカレント教育への取組の好事例の共有と大学等における持続可能なプログラムに向けた議論を行うために2月8日(水)に開催されるラウンドテーブルへの参加要請があった。
- 就業先企業アンケート結果(2月3日現在)では、質問「このプログラムによ

り、ITスキル、ビジネスマナー等の総合的な人間力が育まれたことが、今回の雇用（内定）に至った重要な要因となりましたか」に対し4社中4社（100%）が「非常に重要であった」「重要であった」と回答し、また質問「このようなプログラムの受講により、ITスキル、ビジネスマナー等の総合的な人間力が育まれた人材を今後も雇用したいと思いますか」に対し4社中4社（100%）が「思う」と回答しており、当プログラムが養成する人材への企業側の雇用ニーズが高いことが判明した。また、今後実施してほしいリカレントプログラムの分野について、IT系（IT関連1社、DX2社）が多いことが判明し、今後の本学の取組の方向性を決定する上での参考となった（資料6-2参照）。

○部分受講者について、パソコン等の機器の確保、授業担当者による正規受講者と区別をしない質の高い教育、学生メンターや運営担当者による質問・要望への迅速な対応、連絡事項の確実な伝達など、正規受講者と同様の支援に努めた結果、特段のトラブルもなく、正規受講者、部分受講者の双方からも受講環境に関する特段の改善意見等はなかった。

③課題

○受講者アンケート結果では、プログラムや科目の内容に関する意見があったが、すぐに対応できないものや法制度上の課題をクリアしなければならないものもあり、今後のリカレント教育に活かすこととした（資料5-8、5-9、5-10参照）。

○リカレント教育を実施するための退職教員活用制度の確立など教員リソースの確保策を検討する必要がある。学内教員の活用は通常業務への負荷となるため、インセンティブ供与による財源を含めた支援が必要であり、今年度取り組んだ他のリカレントプログラムにおけるインセンティブ供与の取扱いも参考にして具体的な取扱いを取りまとめる必要がある。

○今回は、委託事業の契約（8月初旬）からプログラムの開始（10月1日（土））までのスケジュールが厳しく、受講者・運営者双方にとって余裕のないプログラムとなったので、今後はその点に配慮が必要である。

○正規受講者の教育の質を担保しつつ、さらにその何倍もの部分受講者を受け入れることは、授業担当者、運営担当者、学生メンターにとって負担が相当に大きかった。より収容人数の多い教室や使用するパソコン等の機器の確保、正規受講者も含めた確実な授業の出欠確認、授業の質の担保、部分受講者の授業理解度の把握等、正規受講者の支援に集中できない諸々の負担・課題が生じた。部分受講者の受入自体には賛同するが、相当の予算や人員の措置が必要であろうし、また、負担のかからない適正な募集人員の設定、受入・教育方法のあり方についてさらなる検討が必要である。

（6）受講者の就職支援

①取組の概要

- 「企業インターンシップ」受講者は当該受入先企業への就職に結びつく可能性が高いため、次のとおり受入企業の確保、受講者と受入企業とのマッチング、受講者への参加に当たっての心構えの指導等に取り組んだ。
 - ・受入企業として、中途採用のニーズがある福井大学産学官連携本部協力会会員企業のほか、昨年度のプログラムで受入実績のある企業等に依頼し、19社を確保した。
 - ・受講者と受入企業とのミスマッチを回避しマッチングを円滑に進めるため、昨年度のプログラムでの反省点(受講者の希望に合わせて受入企業とのマッチングを行ったところ、結果として受講者、企業の双方に無理な参加・受入を強いることになり、受入企業への就職・転職者数が伸び悩んだ)を踏まえ、今回は選考面接時の企業側の意向に合わせて受講者とのマッチングを行う方式に変更した。なお、受講者の意向確認に加え必要に応じ当該企業と本人との事前面談を経て、受入企業を決定した。
 - ・受講者に対しては、受入企業への就職も視野に受講に当たっての心構え(①なぜその企業を希望したのか、②その企業に就職した場合、プログラムで身に付けたスキル・知識をどう活かしていくのか、また、これまでの自分の経歴・経験をどう活かしていけるのか等を質問された場合の回答を整理しておくこと。)を受講前にメールにより指導するとともに、職歴の浅い又はない受講者に対しては、自分で想定問答を作成し事前に十分に備えておくよう促した。終了後には、受講者に成果報告書の作成・提出を指示するとともに、受入企業側からの雇用選考への応募案内の有無等を報告させた。
- プログラム終了後の受講者の就職斡旋のあり方について福井労働局と協議し、昨年度と同様に2週間の就職斡旋強化期間(12月1日(木)～15日(木)(2週間))を設けてハローワークにおいて集中的に取り組むこととし、プログラム終了前から受講者に積極的な活用の周知・要請を行った。
- 本学独自の取組として、本学と教育研究面で連携・協力している企業との様々なつながりを活用した本学独自の企業紹介を行った。また、当プログラムの評判を聞いて、採用希望の意向を表明した企業数社の紹介を行った。さらに、本事業に協力している金融機関関連の人材紹介会社の協力を得て、当社への求職登録の案内を行った。
- キャリアコンサルティングとして、次のとおり取り組んだ。
 - ・福井労働局及び県内ハローワーク担当者が受講者に対する就職斡旋を円滑に行えるように、当担当者に対し本事業のプログラム内容や身に付く知識・スキル等のプログラムの理解を深める説明会を募集期間前に開催した。これを受けハローワークでは、プログラム受講申込時、受講中、受講後の就職斡

旋強化期間等において、相談に来た受講者に対する就職意識、キャリア形成に係る意識付けなどを行った。プログラム開始前に実施した受講者オリエンテーションでもハローワークの担当者が説明者として参加して、ハローワークで求職登録を行うよう指導し、必要に応じ各受講者がハローワークに出向き、キャリアコンサルティングを受けた。プログラム終了後の就職斡旋強化期間（2週間）においては、ハローワークを訪問・相談した受講者9名がキャリアコンサルティングを受けた。

- ・「企業インターンシップ」受講者に対しては、受入企業への就職も視野に受講に当たっての心構えを受講前にメールにより指導するとともに、職歴の浅い又はない受講者に対しては、自分で想定問答を作成し事前に十分に練習するよう促した。
- ・「キャリア概論」では、少人数クラス分けによるメンター制を取り入れ、各担当が毎回一人を指名し、特定の企業の調査・分析及び発表を行わせ、他の受講者も交えて、当該企業を調査対象とした理由、就職希望の有無、就職に向けてのこれまでのキャリアやプログラムで学び身に付けたスキル・能力の活かし方等について意見交換する中で、キャリア形成のヒントを得、また他の発表者の経験を自分の今後に活かす機会となり、実質を伴ったキャリアコンサルティングの場として機能した。

②成果

- インターンシップ受入企業の十分な確保及び受講者との丁寧なマッチングを行ったこと、福井労働局・ハローワークとの連携・協力の下で、就職斡旋強化期間を設けハローワークを窓口として取り組んだこと、受講者の採用希望の意向を表明した企業を積極的に紹介したこと等、様々な取組により就職率は24%（2月3日現在）となり、プログラム修了（令和5年1月20日）後3か月以内の数値目標（75%）達成に向けて、引き続き手厚い就職支援を継続する予定としている。なお、就職・在職率（数値目標87%）は70%、新規就職・転職者数（数値目標15名）は6名（それぞれ2月3日現在）となり、同様に数値目標達成に向けて取り組む予定である。

③課題

- 受講者の経歴、情報技能習熟度など初期のスキル、就業能力、就業を希望する企業種・職種等が様々であり、インターンシップ受入企業とのマッチング及び就職支援が難しい。特に、就職に結びつきやすい「企業インターンシップ」に関し、受入企業とのマッチングを十分な時間をかけて丁寧に実施する必要があるが、実際には委託事業の契約（8月初旬）からプログラム開始（10月1日（土））までの日程が厳しいため受講者の決定が9月中旬にずれ込み、プログラム開始までの様々な準備及び開始以降のプログラムの円滑な運営に集中せ

ざるを得ず、11月開始の「企業インターンシップ」の実施に向けたマッチングのための十分な時間の確保が困難であった。また、例えば、受講者がインターンシップ受入企業からの採用を断り他の企業にも就職しない事例が数件発生している。これは、必ずしも就職・転職の緊急性や強い拘りがなく、大学が行う高度なプログラムを受講すること自体や自身のスキルアップに重きを置いている受講者が、選考段階でのアンケート調査や面接での質疑をすり抜け、少なからず存在していることを表している。以上のようなことも影響してか「企業インターンシップ」受入企業への就職・転職数が受講者17名中3名（2月3日現在）に留まっている。

- 事業の数値目標として就職率を掲げること自体は、事業の趣旨に鑑みやむを得ないこととは思われるが、そのことだけに囚われると事業の本質を見誤る恐れがある。就職・転職に拘らない受講者が少なからず存在すること等の事情が考慮されずに、率が低いことをもってプログラムの評価が低く見なされかねないことにはやや疑問を感じる。事業の真の効果を測るためには、就職者数の多少よりもむしろ、就職・転職者の追跡調査をすることが重要であることから、11月に昨年度のプログラム受講者に対する追跡調査を行ったところである。結果は、例えばプログラム修了後3か月の間に就職した企業の非正規雇用職員が、その後別の企業の正規雇用職員へ就職する等、就労状況のステップアップを実現させた事例が確認でき、また回答者全員から、プログラムを最後まで仲間と学んだこと、ITの基本スキル・知識、人間力を身に付けたこと等が現在の職場で活かされているとの評価を受けた。**（（7）昨年度のプログラム受講者の追跡調査参照）。**

- 事業を円滑に進め今後も当事業を継続・発展させる上で、受講者に係る就労体験の場を提供し、最終的には雇用する立場にある企業側の本事業に対する理解・協力が必要不可欠である。事業を実施する大学等や関係機関はもとより、国全体として経済界に対する事業への理解を深める取組の積極的な推進が必要不可欠である。

（7）昨年度のプログラム受講者の追跡調査

①取組の概要

プログラムの真の効果を測るため、昨年度のプログラム修了者のうち連絡先を把握できている者に対しアンケートによる追跡調査を実施した。

- アンケート期間：11月18日（金）～30日（水）
- 対象者数：25名
- 回答者数（率）：10名（40%）
- 質問事項・回答：要約版のとおり

資料8-4：昨年度のプログラム受講者の追跡調査結果（要約版）

質問1. プログラム受講後の勤務先・職種等については、次のとおりと承知しています。誤りがあれば訂正してください。

- ・企業名：
- ・雇用形態：
- ・採用年月：
- ・職種：

10名全員訂正なし

質問2. 現在の勤務先・職種等について、次のいずれかを選択してください。

質問1の内容と同じ

6名

質問1の内容と異なる（差し支えない範囲で変更後の内容をご記入ください。）

- ・企業名：
- ・雇用形態：
- ・採用（異動）年月：
- ・職種：

4名

正規雇用（1社目）	→	他社の正規雇用（2社目）	1名
非正規雇用（1社目）	→	他社の正規雇用（2社目）	1名
非正規雇用（1社目）	→	他社の非正規雇用（2社目）	1名
正規雇用（受講前から勤務）	→	他社の正規雇用（1社目）	1名

質問3. プログラム受講で身に付けたスキル・知識が、現在の職場で活かされていると思いますか。次のいずれかを選択してください。

活かされている（どのように活かされているか簡潔にご記入ください。）

10名

- ・ビジネスマナー：社外の方とのやり取り時
- ・サイバーセキュリティ製品を扱う部署での勤務の為、学んだ知識が基礎として役立っている。
- ・PCなどを使用したり、情報社会で生活する中での、ルールを知っているのが以前よりさらに気をつけるようになった。
- ・現在勤務している企業と同種の事業所の多くは、常に儲かっているとは言えない状態にあり、弊社も例外ではありません。当事業一本で経営を維持し続けていく事は現実的に難しいと考えています。行政がお金で援助する方法にも限界があります。そこで、今後の健全な経営を

考えて、サブで儲かる事業を模索中です。役に立っていると感じるのは、事業化可能性調査、知的財産、福井県の特長（嶺北地域の産業やレア情報、データの活用、将来的なビジョンや戦術）、産学官における研究分野などにおいてご教示いただいた多くの情報とノウハウです。

- ・今後の進路について考える方向が変わった。私は契約期間が切れたら転職をする予定ですが、転職時に身に付けたスキルが役に立つと思います。このプログラムに関してメリットはあってもデメリットはないと思います。
- ・クライアント先の担当者に対し、サイバーセキュリティの重要性、必要性を伝えるとともに指導にも活かされている。
- ・IT とデータ処理の基礎知識が、IT 化を含む業務改善実施に役立っている。
- ・正直スキル・知識が現在の職に生かされているとは言い難いです。しかし、リカレントプログラムを受講することによる周囲から受けた刺激や知見が広がった事によってモチベーションを高く維持することができています。
- ・PC操作に関して同僚に頼られるようになった。人前で話すことが少し得意になった。
- ・工程設計時の動作フロー検討で活かしている。

活かされていない

0名

質問4. プログラム受講中又は受講後に、新たに IT に関する資格を取得し、又は試験に合格しましたか。次のいずれかを選択してください。

取得（合格）した（資格・試験名をご記入ください。）

IT パスポート（レベル1） 2名

情報セキュリティマネジメント（レベル2） 1名

※応用情報技術者（レベル3） 1名（結果待ち）

取得（合格）していない

8名

②成果

○プログラム修了後3か月たった後に、次のようなステップアップを実現させた事例が確認できた。

- ・プログラム修了後3か月の間に就職した企業の非正規雇用職員から別の企業の正規雇用職員へ異動：1名
- ・プログラム修了後3か月の間に転職できなかった正規雇用職員が7月に別の

企業の正規雇用職員へ異動：1名

- 全回答者から、プログラムを最後まで仲間と学んだこと、ITの基本スキル・知識、人間力を身に付けたこと等が現在の職場で活かされているとの評価を受けた。
- ITの基本スキル・知識を身に付けたことで、さらに上位のITに関する資格を取得しようとする動機付けとなっていることが伺えた。

③課題

- 個人情報に関するデリケートな調査となるため協力を得ることが難しく、回答率は40%に留まり、修了者全体の状況把握はできなかった。

9. 事業終了後の継続等の今後の展望

福井大学では令和元年よりリカレント教育実施に至るニーズ調査（地域企業において必要な人材の調査）を行ってきており、令和3年度にリカレント教育推進本部を設置した。これまでの地域市民一般を対象とした市民開放講座等に加え、企業等に就労する社会人が時代の変化に合わせて学び直すことができるリカレント教育（リスキル教育）の機会を提供し、人材育成を通して地域社会と大学との連携をより一層深めるプログラムを推進している。

リカレント教育（リスキル教育）の主たる対象は、福井大学同窓経営者の会会員企業等に所属する従業員であり、このたびの本事業、および昨年度の「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」にて実施した、失業者や転職希望者を主たる対象とした取り組みとは異なる。

本年度も昨年度に引き続き、設定した受講者数を大きく上回る申込者数と、受講者の高い満足度から、一定の成果を挙げたといえる。一方で、この2年間の取り組みをもとに、本事業にて対象とする失業者や転職希望者向けのプログラムを継続的に実施するにあたって、次の検討事項が挙げられる。

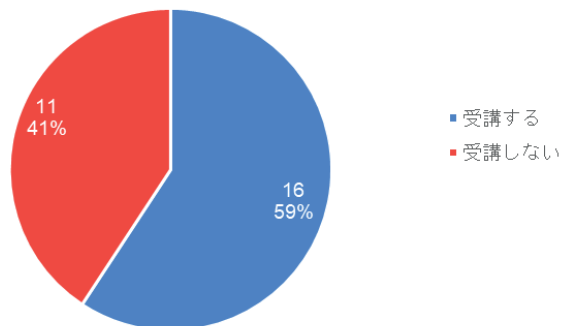
(1) プログラムの受講者負担の困難性について

これまで本学が独自で実施してきた、福井大学同窓経営者の会会員企業等に所属する従業員を対象としたリカレント教育（リスキル教育）では、受講者の所属する企業が受講料を支払っている。これは自社の従業員のスキルを高めることが目的であるからである。

一方で、失業者や転職希望者が対象となる本事業のようなプログラムでは、受講者が受講時点で所属している企業が存在しない場合（失業者）において、国等の全額補助がない場合は受講者自身の負担となる。また企業に所属している社員であっても、受講の目的が転職である以上、現所属企業が受講料を負担することは極めて非現実的であり、失業者と同様に国等による全額補助がない限り、受講者が負担せざるを得ない。

受講者がどの程度受講料を負担するかについて、以下の受講者に対するアンケートから、本事業を実施するにあたって必要な総経費の33%には到底及ばない結果となった。

質問8. もし、本プログラムが有料であった場合、受講されたと思いますか？



質問9. 質問8で「受講する」と回答された方にお聞きします。いくらまでなら受講されますか？

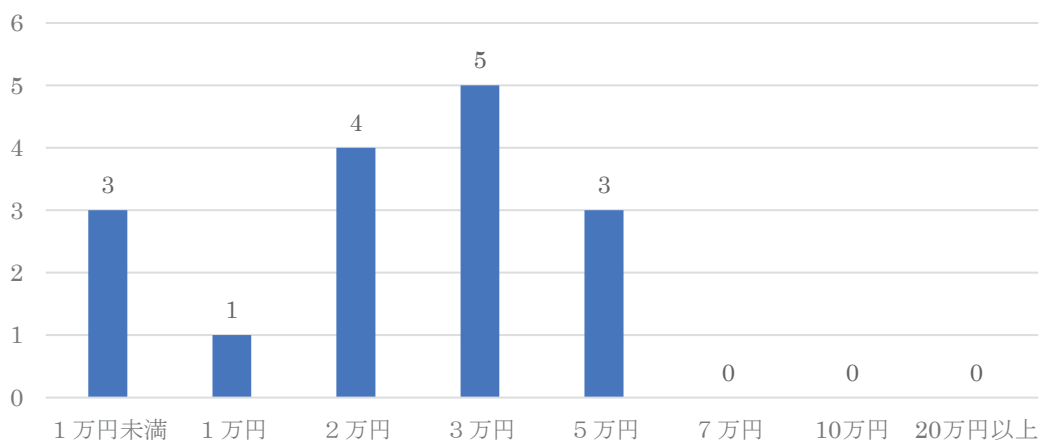
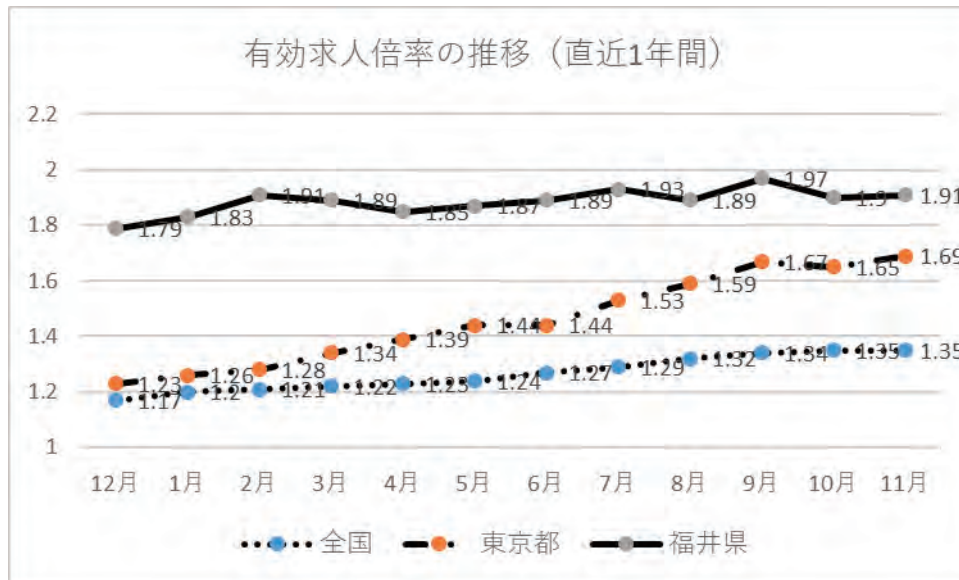


図9-1：本プログラムが有料の場合、どの程度の受講料を支払うか？

(2) 事業実施における企業側、受講者側の双方のニーズについて

①地域企業の人材ニーズに合わせた教育の提供

厚生労働省「一般職業紹介状況」によると、福井県の有効求人倍率は、この1年間（2021年12月～2022年11月）において1.79倍から1.97倍で推移しており、依然、全国で群を抜いて1位という状況であり、さらに上昇傾向となっている。このことから失業者や転職希望者を対象とした労働政策こそ、現在、日本で最も必要とされていることがわかる。



有効求人倍率 (季節調整値)												
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
全国	1.17	1.2	1.21	1.22	1.23	1.24	1.27	1.29	1.32	1.34	1.35	1.35
東京都	1.23	1.26	1.28	1.34	1.39	1.44	1.44	1.53	1.59	1.67	1.65	1.69
福井県	1.79	1.83	1.91	1.89	1.85	1.87	1.89	1.93	1.89	1.97	1.9	1.91

図9-2：2021年12月～2022年11月の有効求人倍率の推移

(厚生労働省「一般職業紹介状況」より数値を抜粋し作成)

(数値出所：<https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/shuyo/0210.html>)

このような中、福井県内の多くの民間等による職業訓練機関では汎用的な IT スキルを中心として、幅広く研修を実施している。しかしながら本学が福井労働局および県内ハローワーク担当者と県内データをもとに検討したところ、県内企業が必要としている人材は汎用的な IT スキルを使う一般事務職ではなく、事業の DX 化等を担う人材であった。このように地域の採用企業側の視点では、従来の職業訓練のみならず、自社の本業の DX 化等に応用可能なレベルの人材の育成が必要であることが明らかになった。

②受講者における本事業の価値の向上

求職者側である受講者にとって効果的な教育の提供という視点で考察する。米
国労働省によれば、アプレントイス制度は、高成長産業や新興産業の数百の職種
にアクセスすることができる。

An official website of the United States government. Here's how you know.

APPRENTICESHIPUSA CAREER SEEKERS EMPLOYERS EDUCATORS RESOURCES HELP

National Mentoring Month

Mentoring is a key component of Registered Apprenticeship

LEARN MORE

APPRENTICESHIPUSA

VIEW THE FACTSHEET

Apprenticeship.gov is the one-stop source to connect career seekers, employers, and education partners with apprenticeship resources. Discover apprenticeships across industries, how programs are started by employers, and how to become an apprentice.

BECOME LEADERS AND EXPERTS

Did You Know?

Registered Apprenticeship has a proven track record of producing strong results for both employers and workers. Apprenticeship programs offer access to hundreds of occupations, in high-growth and emerging industries.

- 800,000+** Apprentices Annually Across the Nation
- \$77K** Average Starting Salary
Average starting salary after an apprentice completes an apprenticeship program
- 93%** Employment Retention
Percentage of apprentices who retain employment after apprenticeship completion
- \$300K+** Lifetime Earning Advantage
Apprentice graduates earn more over their lifetime compared to peers who don't

図9-3 本学が本事業実施の参考とした米国アプレントイス制度
(<https://www.apprenticeship.gov/>、米国労働省 HP、2023年1月27日参照)

実習生が実習プログラムを修了した後の平均初任給は 77,000 ドル（1000 万円，1 \$ 130 円換算）となっており、昨年同時点の 72,000 ドル（828 万円，1 \$ 115 円換算）より上昇している。また実習終了後に 93%（昨年同時期 92%）の雇用が維持されていると報告されており、受講生にとっても非常に魅力的なものになっている。

本事業の継続を検討するにあたり、政策の受益対象が、(1)で述べた、安易に受講料を得やすい企業等従事社員になってしまわないことが重要である。改めて失業者や転職希望者をカバーできる政策のあり方が必要とされている(事業採算性については、改めて(3)に記述する)。

以上より、大学経営的に可能であるならば、失業者や転職希望者を対象とした本事業の継続を検討したい。その際には、引き続き、福井労働局や業界団体と協議を行い、経営実務を中心とした社会経験や中小企業政策の専門性、大学教務等に精通した教職員が連携し適切なカリキュラムを設計し運営を担っていくこととしたい。

(3) 事業採算性の問題

① 受益者の特定が難しい課題

大学として限られた資源の中でリカレント教育を行うにあたり、事業採算性の議論を無視することはできない。本学が行う企業等の従業員を対象としたリカレント教育(リスキル教育)では、福井大学同窓経営者の会の会員企業を対象にしている。特定の企業の社員を受講生を対象とした場合、受益者たる個人および企業が明確であり、企業側も相応の費用負担が可能である。

一方で本事業の場合、福井県企業全体としてみた場合の受益者という捉え方は可能であるものの、育成された受講者がどの企業に就職するのか未確定な部分が多く、また新規採用ゆえに企業側がその能力を適切に把握することも極めて困難が伴うことから、特定の企業側に事業実施の負担を依頼することは非現実的である。

② 失業者、転職希望者に対する広報費用

特定の企業集団(福井大学同窓経営者の会、福井大学産学官連携本部協力会、福井県の特定産業の集合体である業界団体等)に所属する社員等を対象とした研修と異なり、本事業では不特定多数の失業者や、潜在的な転職希望をもつ転職希望者を対象とするため、広報による受講者のニーズの掘り起こしに相応の費用を必要とする。

以上①、②の課題を考えると、本事業の採算性の困難さおよび、雇用・地方共創政策として公的な財政支援の継続を必要とする。



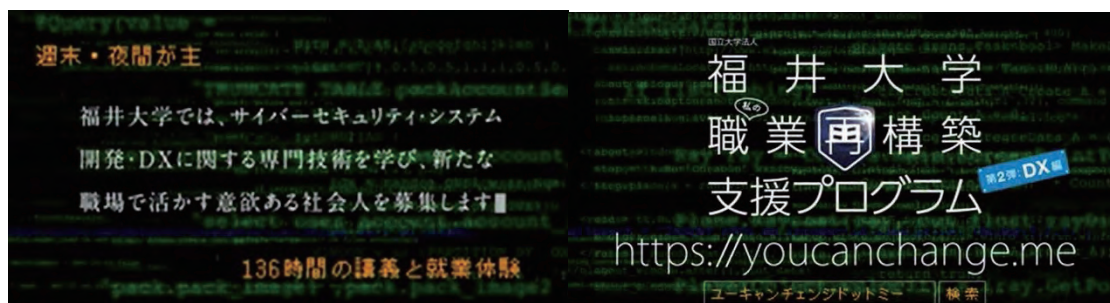
<https://youcanchange.me>

ユーキャンチェンジドットミー

福井大学は、デジタル技術を身につけ、
再就職達成を目指す人を支援するプログラムを行なっています。

Copyright © 福井大学 All Rights Reserved.

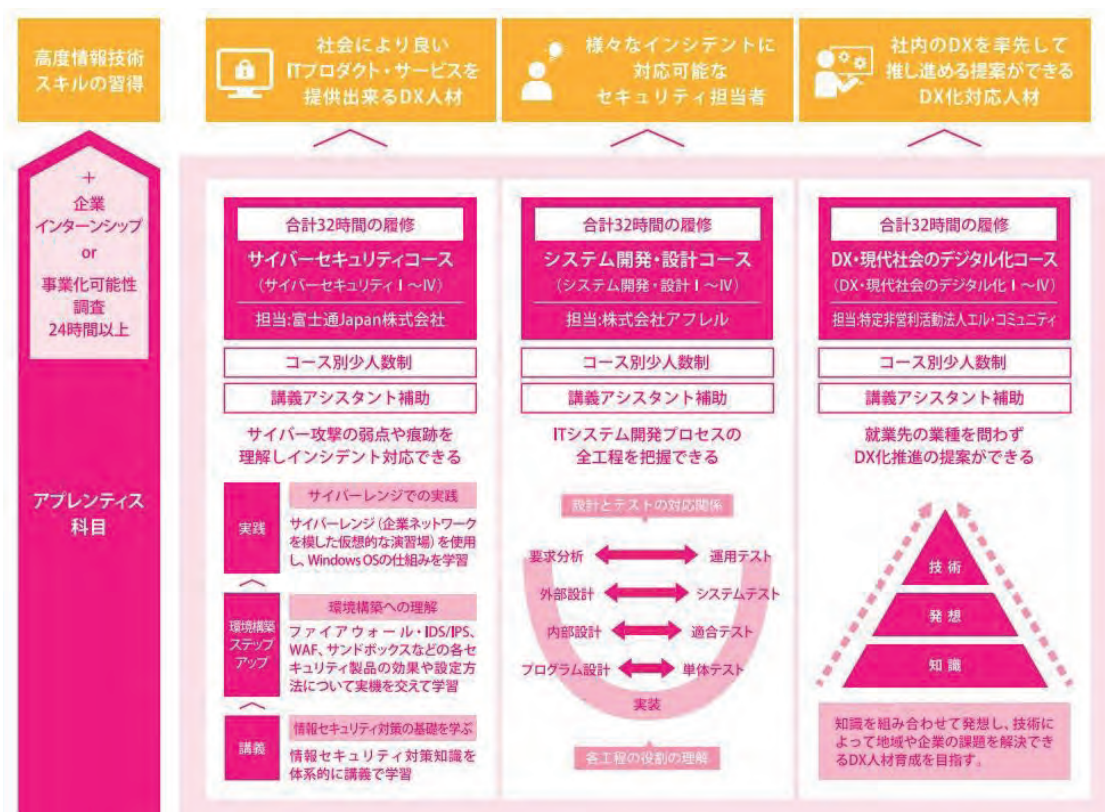
資料9-4：専用ホームページのトップページ



資料9-5：YouTube、テレビCM

③学外リソースにかかる費用

民間で行われている一般的な職業訓練とは異なる内容をカリキュラムにするとはいえ、大学教員による授業の提供だけでは、受講者の就業受け入れ先となる企業側の人材ニーズを満たすことは難しい。実際に、本事業では大学教職員による授業、キャリアアドバイスの加え、特定の高度 IT・DX スキルにかかる企業研修を専門的に担う企業や NPO 法人と連携しプログラムを構築することで、受講者からの高い受講満足度を得た。



資料9-6：外部企業等担当のアプレントイス科目

※本事業ではアプレントイス科目（応用）を企業研修専門企業等が担当

以上をまとめると、このたびの文部科学省による大学リカレント教育推進事業の実施は、委託事業という点で事業実施の費用を100%賄うことが可能であったため、同教育のニーズの高い福井県において極めて有効な政策であった。今後も同様の政策をうまく活用しつつ、地域の人材育成における本学の役割を担っていきたい。

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、国立大学法人福井大学が実施した令和3年度「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」の成果をとりまとめたものです。

